



令和 6 年 度

事 業 報 告 書

日本赤十字社徳島県支部事務局
徳島赤十字ひのみね医療療育センター
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院
徳 島 赤 十 字 病 院
徳 島 県 赤 十 字 血 液 セ ン タ ー

目 次

I	日本赤十字社徳島県支部	1
I	支部事務局の概要	1
1	沿 革	1
2	組 織	3
3	役員・評議員	4
(1)	役 員 名 簿	4
(2)	評議員名簿	5
4	支部事務局	7
(1)	組 織	7
(2)	職員の現員	7
II	重 点 事 項	8
1	赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強	8
(1)	赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施	8
(2)	「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施	8
(3)	「赤十字フラッグキャンペーン」の実施	8
(4)	時代に応じた寄付制度の普及・啓発	8
(5)	日本赤十字社功労表彰の実施	8
(6)	企業等と連携した赤十字活動の推進	8
2	災 害 救 護	9
(1)	長期の避難生活を見据えた「食」の支援体制の強化	9
(2)	大規模災害時における避難者支援体制の強化	9
(3)	地域を対象とした防災活動の推進	9
3	赤十字救急法等の普及活動	9
(1)	一次救命処置を中心とした赤十字講習の普及	9
(2)	AED 管理担当者研修会の開催	9
(3)	各種赤十字講習の推進	9
4	赤十字奉仕団活動	9
(1)	赤十字奉仕団の活性化	9
(2)	災害に強い地域づくりへの貢献	10
(3)	未来を担う青少年への「人道のこころ」の普及	10

5	青少年赤十字	10
(1)	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターの実施	10
(2)	福祉体験学習の実施	10
6	国際活動	10
(1)	「海外救援金」の募集及び「海外たすけあい」キャンペーンの実施	10
(2)	アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援	10
Ⅲ	事業の実施状況	11
1	赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強	11
(1)	社資募集実績表	11
(2)	地区別社費実績表	12
(3)	分区別社費実績表	13
(4)	年度別社資実績状況	14
(5)	赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施	15
(6)	「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施	15
(7)	「赤十字フラッグキャンペーン」の実施	16
(8)	赤十字事業説明バス	16
(9)	時代に応じた寄付制度の普及・啓発	16
(10)	日本赤十字社功労表彰の実施	17
(11)	企業等と連携した赤十字活動の推進	17
2	災害救護体制の充実・強化	19
(1)	救護班の編成	19
(2)	各種災害救護訓練・研修等の実施及び参加	20
(3)	日本赤十字社岡山県支部との合同研修会の開催	22
(4)	救護物資及び救護資材	22
(5)	災害用移動炊飯器を活用した炊き出し訓練の実施	24
(6)	赤十字災害用移動炊飯器「専用鉄板」の配備	27
(7)	赤十字災害時活動用テントの配備	29
(8)	大規模災害時における要支援者支援体制の強化	30
(9)	地域における防災・減災事業の推進	32
(10)	臨時救護の状況	33
(11)	赤十字小規模災害見舞金等交付状況	33
(12)	国内の災害義援金の受付状況	35

3	赤十字の救急法等の普及活動	35
(1)	救 急 法	35
(2)	水上安全法	40
(3)	健康生活支援講習	40
(4)	幼児安全法	41
4	赤十字奉仕団	42
(1)	地域赤十字奉仕団	43
(2)	青年赤十字奉仕団	45
(3)	特殊赤十字奉仕団	46
5	青少年赤十字	46
(1)	青少年赤十字の加盟促進等	46
(2)	会議及び研修会	48
(3)	福祉体験学習の実施	50
(4)	書き損じはがき収集活動実施状況	51
(5)	青少年赤十字活動資金（1円玉募金）	51
(6)	中古本等買い取りプログラム「キモチと」	51
(7)	青少年赤十字優良児童・生徒表彰状況	51
6	国 際 活 動	52
(1)	各種災害救援金及び人道危機救援金の募集	52
(2)	アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援	52
(3)	「海外たすけあい」キャンペーンの実施	53
IV	一般会計決算状況	54
1	総 括	54
(1)	歳 入	54
(2)	歳 出	54
2	社会福祉施設特別会計（本部会計拠点区分）決算状況	55
(1)	総 括	55
(2)	前期末支払資金残高	55

Ⅱ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター	57
1 ひのみね医療療育センターの概要	57
(1) 沿 革	57
(2) 施設の概要	59
(3) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター 組織図	62
(4) 職 員 数	63
2 事業の実施状況	64
徳島赤十字ひのみね医療療育センター	64
(1) 外 来 診 療	64
(2) 入所（入院）施設	65
(3) 地域を対象とした事業	67
(4) 決 算 状 況	72
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設〔障害者支援施設〕	74
(1) 入 所 施 設	74
(2) 利用者の状況	74
(3) 地域を対象とした事業	75
(4) 決 算 状 況	76
Ⅲ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院	79
1 乳児院の概要	79
(1) 沿 革	79
(2) 施設の概要	80
(3) 組 織 図	80
(4) 職 員 数	81
2 事業の実施状況	82
(1) 事業の概要	82
(2) 重 点 事 項	82
(3) 在籍児童の状況	86
(4) 入所児童の状況	87
(5) 退所児童の状況	88
(6) 決 算 状 況	88

IV 徳島赤十字病院	91
I 病 院 の 概 要	91
(1) 沿 革	91
(2) 概 要	96
II 重 点 事 項	98
1 地域の基幹病院としての特色発揮と機能強化	98
2 安全・安心の医療提供体制の構築	100
3 赤十字医療施設としての特色発揮と機能強化	100
4 効率的な運営体制の構築	101
5 人材育成と確保	101
6 保 健 事 業	103
III 事業実績数値	104
IV 事業の実施状況	104
(1) 入院患者延数	104
(2) 新入院患者数	104
(3) 平均在院日数	104
(4) 外来患者延数	104
(5) 紹介患者数（再診含む）	105
(6) 初診の紹介率	105
(7) 救急患者数	105
(8) ドクターカー出動件数	105
(9) ドクターヘリ受入件数	105
(10) 保健医療圏患者数	106
V 決 算 の 状 況	107
(1) 収益的収入及び支出	107
(2) 資本的収入及び支出	108
V 徳島県赤十字血液センター	109
1 血液センターの概要	109
(1) 沿 革	109
(2) 組織と人員配置	113

2 重点事項	114
(1) 若年層献血者及び複数回献血協力者の確保	114
(2) 献血バス1稼働当たりの採血数の確保	116
(3) 献血ルームの活性化	116
(4) 献血推進団体等との連携強化	117
(5) 輸血用血液製剤適正使用の促進	117
(6) 効率的な供給体制の構築	117
(7) 採血環境の改善と看護師の育成	118
(8) 災害に対する備え	118
3 事業の実施状況	119
(1) 献血状況	119
(2) 供給状況	127

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

I 日本赤十字社徳島県支部事務局

I 日本赤十字社徳島県支部

I 支部事務局の概要

1 沿革

年 月 日	事 項
明治20. 10. 28	四国の他の3県にさがけ日本赤十字社徳島県委員部として創立、初代委員長に酒井明氏が就任
27. 11. 27	日本赤十字社徳島県委員部は各県に支部制がしかれ、日本赤十字社徳島支部と改称 初代支部長に村上義雄氏が就任
昭和20. 7. 4	徳島本町にあった支部社屋が戦災により焼失し、翌5日北常三島町2丁目の民家を借り業務を開始
22. 9. 27	初の民間人支部長に奥村嘉蔵氏が就任
23. 9. 1	徳島本町の旧敷地内に木造平屋の支部社屋を再建
27. 10. 31	新定款の制定により日本赤十字社徳島県支部と改称
35. 3. 13	徳島市新蔵町1丁目の県有地647.20㎡を借受け、鉄筋コンクリート3階建（一部4階）延面積953.35㎡の支部社屋を建設
42. 1. 6	奥村嘉蔵氏死去により支部長辞任
6. 3	第38代支部長に武市恭信氏が就任
56. 10. 12	武市恭信氏、支部長辞任
13	第39代支部長に三木申三氏が就任
58. 11. 26	徳島市庄町3丁目12-1の県有地3,378.81㎡を借受け、鉄筋コンクリート3階建の本館延面積861.84㎡及び鉄筋平屋建の倉庫及び車庫延面積280.58㎡、合計延面積1,142.42㎡の新社屋建設 ※同県有地内に血液センター社屋及び車庫総延面積2,559.96㎡も同時建設
59. 3. 10	徳島市新蔵町1丁目の旧社屋を解体
62. 11. 25	名誉副総裁三笠宮妃殿下をお迎えして支部創立百周年記念赤十字大会を開催
平成5. 10. 4	三木申三氏、支部長辞任
5	第40代支部長に圓藤寿穂氏が就任
9. 7. 23	皇太子殿下・同妃殿下をお迎えして第33回献血運動推進全国大会を開催
14. 3. 17	圓藤寿穂氏、支部長辞任
18	第40代支部長職務代理に副支部長藤野井親仁氏が就任
5. 22	第41代支部長に大田正氏が就任
15. 5. 29	大田正氏、支部長辞任
6. 4	第42代支部長に飯泉嘉門氏が就任
16. 9. 9	吉野川市鴨島町に赤十字防災センターを設置

年 月 日	事 項
平成19. 12. 6	名誉副総裁高円宮妃殿下をお迎えして支部創立百二十周年記念赤十字大会を開催
23. 9. 8	板東俘虜収容所跡地（鳴門市ドイツ村公園）に「赤十字ゆかりの地モニュメント」を設置
27. 5. 1	支部事務局 1 階玄関ホールに「赤十字展示コーナー」を設置
29. 4. 22	支部創立百三十周年記念展「今に生きる『人道博愛の心』－美術
～ 6. 11	に見る日本赤十字社の歩み－」を徳島県立近代美術館で開催
9. 7	海部郡牟岐町に赤十字南部救護倉庫を設置
12. 6	名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下をお迎えして支部創立百三十周年記念赤十字大会を開催
30. 3. 31	吉野川市鴨島町の赤十字防災センターを廃止
4. 24	「とくしま赤十字災害救護サポートセンター」を開所
令和 5. 5. 18	飯泉嘉門氏、支部長辞任
5. 19	第43代支部長に後藤田正純氏が就任

2 組 織

日本赤十字社の組織

(令和7年4月1日現在)



3 役員・評議員

(1) 役員名簿

(令和7年4月1日現在)

役 職 名		氏 名	住 所	備 考
支 部 役 員	支 部 長	後藤田 正 純	徳島市万代町	徳 島 県 知 事
	副支部長	遠 藤 彰 良	徳島市幸町	徳島県市長会長・徳島市長
		玉 井 孝 治	板野郡板野町	徳島県町村会長・板野町長
		岡 田 好 史	徳島市西船場2	(株)阿波銀行 相談役
	監査委員	原 孝 仁	鳴門市撫養町	公 認 会 計 士
		川 長 光 男	阿南市柳島町	元徳島県町村会常務理事

本 社 役 員	理 事	川 島 周	徳島市北佐古1	社会医療法人川島会会長 徳島県赤十字有功会副会長
	代 議 員	川 島 周	徳島市北佐古1	社会医療法人川島会会長 徳島県赤十字有功会副会長
		岡 田 好 史	徳島市西船場2	(株)阿波銀行 相談役

(2) 評議員名簿

(任期 令和7年2月14日～令和10年2月13日)

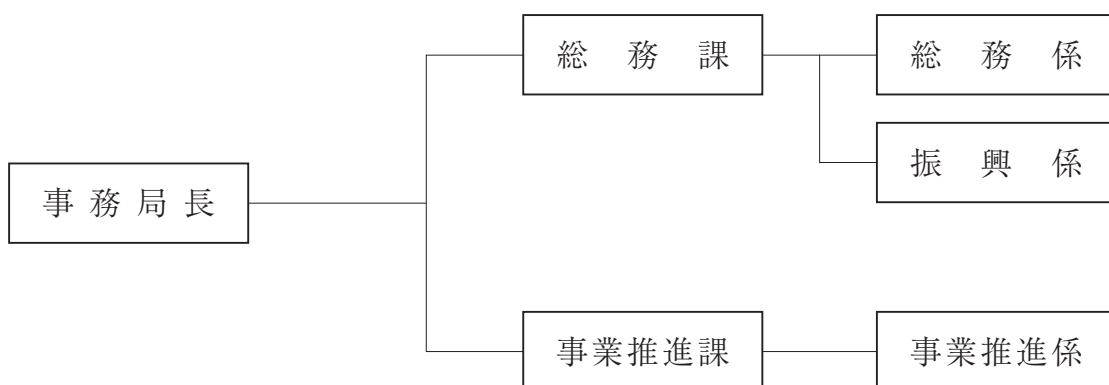
(令和7年4月1日現在)

選出地区名	氏 名	住 所	備 考
徳 島 市	阿 部 和 英	徳島市南末広町	徳島商工会議所会頭
	宇都宮 正 登	徳島市幸町3	徳 島 市 医 師 会 長
	米 田 豊 彦	徳島市中徳島町2	徳島新聞社相談役
	松 本 侯	徳島市北田宮1	徳島県歯科医師会長
	板 東 恵 子	徳島市南沖洲	徳島市地区赤十字 奉 仕 団 委 員 長
鳴 門 市	泉 理 彦	鳴門市撫養町	鳴 門 市 長
	矢 野 壽美子	鳴門市撫養町	鳴門市地区赤十字 奉 仕 団 委 員 長
小 松 島 市	中 山 俊 雄	小松島市横須町	小 松 島 市 長
	竹 島 由美子	小松島市櫛渚町	小松島市地区赤十字 奉 仕 団 委 員 長
阿 南 市	岩 佐 義 弘	阿南市富岡町	阿 南 市 長
	紅 露 清 恵	阿南市桑野町	阿南市地区赤十字 奉 仕 団 委 員 長
吉 野 川 市	原 井 敬	吉野川市鴨島町	吉 野 川 市 長
	喜 島 寧 子	吉野川市鴨島町	吉野川市地区赤十字 奉 仕 団 委 員 長
阿 波 市	町 田 寿 人	阿波市市場町	阿 波 市 長
美 馬 市	加 美 一 成	美馬市穴吹町	美 馬 市 長
三 好 市	高 井 美 穂	三好市池田町	三 好 市 長

選出地区名	氏 名	住 所	備 考
東 部	野 上 武 典	勝浦郡勝浦町	勝 浦 町 長
	岩 城 福 治	名東郡佐那河内村	佐 那 河 内 村 長
	小 林 智 仁	名西郡石井町	石 井 町 長
	古 川 保 博	板野郡北島町	北 島 町 長
	玉 井 孝 治	板野郡板野町	板 野 町 長
南 部	橋 本 浩 志	那賀郡那賀町	那 賀 町 長
	影 治 信 良	海部郡美波町	美 波 町 長
西 部	兼 西 茂	美馬郡つるぎ町	つ る ぎ 町 長
	松 浦 敬 治	三好郡東みよし町	東 み よ し 町 長
支部長選出	長 岡 奨	徳島市西船場 2	徳島県赤十字有功会長 (株)阿波銀行 代表取締役会長
	福 壽 由 法	徳島市万代町 1	徳島県保健福祉部長
	藤 田 育 美	美馬市脇町	赤十字奉仕団徳島県 支 部 委 員 長
	大 泉 計	徳島市中吉野町	青少年赤十字徳島県 指 導 者 協 議 会 長
	真 鍋 和 也	三好市池田町	日本青年会議所四国地区 徳島ブロック協議会長

4 支部事務局

(1) 組 織



(2) 職員の現員（令和7年4月1日現在） 9名

Ⅱ 重 点 事 項

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という日本赤十字社の使命に基づき、各種人道活動を展開した。

1 赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強

(1) 赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施

徳島新聞社の協力により、毎月1回の記事連載を行い、赤十字の使命や活動、命を守る知識・技術の普及に努めた。

また、県内各地の幹線道路沿いに設置している赤十字看板や、のぼり、ケーブルテレビ等を活用して地域に根ざした広報活動を展開するとともに、新聞やホームページ等様々な媒体による情報発信を行い、「赤十字活動の見える化」を推進した。

(2) 「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施

世界赤十字デーの5月8日から12日までの間、万代中央ふ頭のアクアチッタパーク内において、隣接建物の壁面を赤十字カラーである赤色のライトで照らすとともに、パネル展や募金箱の設置等を行い、赤十字思想の啓発を図った。

(3) 「赤十字フラッグキャンペーン」の実施

5月の赤十字運動月間に、県庁前ヨットハーバー「ケンチョピア」において赤十字旗やのぼりを掲げ、赤十字思想の普及に努めた。

(4) 時代に応じた寄付制度の普及・啓発

超高齢社会におけるライフプランに応じた赤十字支援の方法（遺産や相続財産の寄付、御香典からの寄付等）に関する相談窓口を開設し、関係機関の協力を得ながら積極的な情報提供に努めた。

(5) 日本赤十字社功労表彰の実施

赤十字奉仕団員や地区・分区役員等、赤十字活動に功労のあった方々への顕彰を行い、赤十字活動への更なる理解と協力を呼びかけた。

(6) 企業等と連携した赤十字活動の推進

企業等の社会貢献活動と連携して、「赤十字活動支援自動販売機」や「チャリティーボックス（募金箱）」の設置など、身近で手軽に赤十字活動を支援できる環境の整備に努めた。

2 災害救護

(1) 長期の避難生活を見据えた「食」の支援体制の強化

「赤十字災害用移動炊飯器」で調理可能な「専用鉄板」を地区・分区に追加配備し、長期の避難生活を見据えた地域での「食」の支援体制の充実・強化を図った。

(2) 大規模災害時における避難者支援体制の強化

大規模災害時の長期避難生活において、特に支援が必要な乳児及び要配慮者に特化した当支部オリジナル「段ボールベッド」を地区・分区に追加配備し、避難者支援体制の強化を図った。

(3) 地域を対象とした防災活動の推進

地域における「自助」「共助」の力を高めるために赤十字防災セミナーを開催するとともに、地域へ配備している災害用移動炊飯器や段ボールベッド等を活用した訓練を実施して、災害に強い地域づくりへの支援を行った。

3 赤十字救急法等の普及活動

(1) 一次救命処置を中心とした赤十字講習の普及

心肺蘇生や AED 等の一次救命処置を中心とした救急技法の普及を図り、尊い命を救う知識と技術の普及に努めた。また、講習が重複する学校のプール時期には「リモート講習」も併用しながら一次救命処置の普及に努めた。

(2) AED 管理担当者研修会の開催

AED の一般使用が認められて20年にあたり、赤十字 AED を設置している地区・分区の担当者等に AED の管理方法や AED の使用方法を中心とした一次救命処置に関する研修会を実施した。

(3) 各種赤十字講習の推進

水の事故防止に関する講習や高齢者・乳幼児に焦点を当てた講習等、対象のニーズに合わせた各種赤十字講習を行い、いのちと健康を守るための知識と技術の向上を図った。

4 赤十字奉仕団活動

(1) 赤十字奉仕団の活性化

地域のニーズに対応した奉仕団活動を広く周知し、新たな奉仕団員を募集するためのチラシを作成・配付するとともに、モデル奉仕団活動等を通して、奉仕団活動の活性化に努めた。

(2) 災害に強い地域づくりへの貢献

当支部が県内各地域に配備している「災害用移動炊飯器」や「専用鉄板」、「災害時活動用テント」を活用した炊き出し訓練等を実施するとともに、地区・分区へ配備した当支部オリジナル「段ボールベッド」の設営訓練等を行い、地域の防災力の向上に努めた。

(3) 未来を担う青少年への「人道のこころ」の普及

青少年赤十字加盟校の児童・生徒等を対象に、赤十字人道紙芝居「ばんどうのコスモス」の上演活動を通して、未来を担う青少年への「人道のこころ」の普及を図った。

5 青少年赤十字

(1) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターの実施

集団生活を通して、赤十字や青少年赤十字に関する知識や技術を学ぶことにより、自主・自立の精神を身につけたリーダーを養成することを目的として実施した。

(2) 福祉体験学習の実施

高齢者や障がい者の生活を体験し、「思いやり」や「たすけあい」の心を育むことを目的とした福祉体験学習を青少年赤十字加盟校で実施した。

6 国際活動

(1) 「海外救援金」の募集及び「海外たすけあい」キャンペーンの実施

世界各地で多発する紛争や自然災害等による犠牲者・被災者の緊急救援等を行うための「救援金」を募集するとともに、開発途上国赤十字社の行う保健衛生、災害対策事業等の開発協力を行うために「海外たすけあい」募金キャンペーンを実施した。

(2) アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援

日本赤十字社中国・四国各県支部と連携し、アジア・大洋州地域における「給水・衛生キット」の配備をはじめとした給水・衛生活動の支援を行った。

Ⅲ 事業の実施状況

1 赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強

地区・分区や赤十字奉仕団、赤十字協賛委員、赤十字有功会、各種ボランティア等の協力と会員の支援を得て、次のとおり実績をあげることができた。

(1) 社資募集実績表

項 目		目標額（円）	実績額（円）	達成率（％）
一 般 社 資		139,000,000	171,705,863	123.5
内 訳	社 費	129,000,000	93,495,166	72.5
	寄 付 金	10,000,000	78,210,697	782.1
	指定寄付金	0	0	－
法 人 社 資		18,000,000	50,200,716	278.9
内 訳	指定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他社資	16,000,000	48,200,716	301.3
合 計		157,000,000	221,906,579	141.3

※ 達成率は小数第2位を四捨五入

(2) 地区別社費実績表

年度別 地区名	令和6年度			令和5年度		
	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)
徳島市区 地 区	45,540,000	24,518,360	53.8	45,393,000	25,143,093	55.4
鳴門市区 地 区	9,357,000	8,178,340	87.4	9,361,000	8,296,503	88.6
小松島市区 地 区	6,184,000	2,130,200	34.4	6,209,000	1,863,650	30.0
阿南市区 地 区	11,767,000	10,429,858	88.6	11,784,000	10,692,019	90.7
吉野川市区 地 区	6,495,000	5,592,778	86.1	6,529,000	5,823,320	89.2
阿波市区 地 区	5,739,000	4,880,000	85.0	5,761,000	5,033,420	87.4
美馬市区 地 区	4,681,000	3,920,397	83.8	4,703,000	3,974,710	84.5
三好市区 地 区	3,925,000	4,176,005	106.4	3,997,000	4,337,719	108.5
東部地区	23,458,000	10,616,790	45.3	23,303,000	10,986,366	47.1
南部地区	4,347,000	4,267,823	98.2	4,407,000	4,346,970	98.6
西部地区	3,507,000	3,731,746	106.4	3,553,000	3,773,521	106.2
その他	4,000,000	11,052,869	276.3	4,000,000	11,542,642	288.6
計	129,000,000	93,495,166	72.5	129,000,000	95,813,933	74.3

※1 達成率は小数第2位を四捨五入

※2 「その他」は日本赤十字社徳島県支部扱いの社費協力

(3) 分区域社費実績表

年度別 地区・分区名		令和6年度			令和5年度		
		目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)
徳島市地区		45,540,000	24,518,360	53.8	45,393,000	25,143,093	55.4
鳴門市地区		9,357,000	8,178,340	87.4	9,361,000	8,296,503	88.6
小松島市地区		6,184,000	2,130,200	34.4	6,209,000	1,863,650	30.0
阿南市地区		11,767,000	10,429,858	88.6	11,784,000	10,692,019	90.7
吉野川市地区		6,495,000	5,592,778	86.1	6,529,000	5,823,320	89.2
阿波市地区		5,739,000	4,880,000	85.0	5,761,000	5,033,420	87.4
美馬市地区		4,681,000	3,920,397	83.8	4,703,000	3,974,710	84.5
三好市地区		3,925,000	4,176,005	106.4	3,997,000	4,337,719	108.5
東部地区	勝浦町分区	803,000	823,600	102.6	813,000	907,800	111.7
	上勝町分区	242,000	271,300	112.1	244,000	259,300	106.3
	佐那河内村分区	345,000	456,600	132.3	349,000	487,700	139.7
	石井町分区	4,258,000	1,958,310	46.0	4,233,000	1,974,950	46.7
	神山町分区	789,000	899,103	114.0	803,000	856,500	106.7
	松茂町分区	2,540,000	1,493,965	58.8	2,516,000	1,727,282	68.7
	北島町分区	4,133,000	895,654	21.7	4,084,000	1,015,406	24.9
	藍住町分区	6,246,000	1,353,851	21.7	6,193,000	1,372,428	22.2
	板野町分区	2,189,000	898,000	41.0	2,168,000	925,800	42.7
	上板町分区	1,913,000	1,566,407	81.9	1,900,000	1,459,200	76.8
	計	23,458,000	10,616,790	45.3	23,303,000	10,986,366	47.1
南部地区	那賀町分区	1,236,000	1,291,600	104.5	1,256,000	1,226,700	97.7
	美波町分区	1,038,000	1,084,400	104.5	1,050,000	1,095,070	104.3
	牟岐町分区	621,000	634,523	102.2	636,000	761,500	119.7
	海陽町分区	1,452,000	1,257,300	86.6	1,465,000	1,263,700	86.3
	計	4,347,000	4,267,823	98.2	4,407,000	4,346,970	98.6
西部地区	つるぎ町分区	1,289,000	1,506,006	116.8	1,327,000	1,409,561	106.2
	東みよし町分区	2,218,000	2,225,740	100.3	2,226,000	2,363,960	106.2
	計	3,507,000	3,731,746	106.4	3,553,000	3,773,521	106.2
その他		4,000,000	11,052,869	276.3	4,000,000	11,542,642	288.6
計		129,000,000	93,495,166	72.5	129,000,000	95,813,933	74.3

※1 達成率は小数第2位を四捨五入

※2 「その他」は日本赤十字社徳島県支部扱いの社費協力

(4) 年度別社資実績状況

年度	項 目	目 標 額 (円)	実 績 額 (円)	達 成 率 (%)
令和2年度	一般社資	139,000,000	138,379,086	99.6
	社費金	129,000,000	111,769,262	86.6
	寄付金	10,000,000	26,609,824	266.1
	法定寄付金	0	0	—
	法人社資	18,000,000	49,522,081	275.1
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	47,522,081	297.0
	計	157,000,000	187,901,167	119.7
令和3年度	一般社資	139,000,000	136,765,146	98.4
	社費金	129,000,000	98,322,798	76.2
	寄付金	10,000,000	38,442,348	384.4
	法定寄付金	0	0	—
	法人社資	18,000,000	40,384,584	224.4
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	38,384,584	239.9
	計	157,000,000	177,149,730	112.8
令和4年度	一般社資	139,000,000	157,804,428	113.5
	社費金	129,000,000	98,709,795	76.5
	寄付金	10,000,000	57,228,134	572.3
	法定寄付金	0	1,866,499	—
	法人社資	18,000,000	59,419,563	330.1
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	57,419,563	358.9
	計	157,000,000	217,223,991	138.4
令和5年度	一般社資	139,000,000	122,928,047	88.4
	社費金	129,000,000	95,813,933	74.3
	寄付金	10,000,000	26,716,937	217.2
	法定寄付金	0	397,177	—
	法人社資	18,000,000	48,150,392	267.5
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	46,150,392	288.4
	計	157,000,000	171,078,439	109.0
令和6年度	一般社資	139,000,000	171,705,863	123.5
	社費金	129,000,000	93,495,166	72.3
	寄付金	10,000,000	78,210,697	782.1
	法定寄付金	0	0	—
	法人社資	18,000,000	50,200,716	278.9
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	48,200,716	301.3
	計	157,000,000	221,906,579	141.3

※ 達成率は小数第2位を四捨五入

(5) 赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施

① 徳島新聞での記事連載

毎月第3土曜日に、徳島新聞のくらし面に「いのちを守る赤十字活動」と題した記事連載を行い、県内での様々な赤十字活動を紹介するとともに、災害時等に役立つ知識や技術の普及に努めた。

なお、掲載内容は次のとおりである。

掲 載 日	記 事 内 容
令和6年4月20日	赤十字の災害救護活動について
5月18日	災害時の炊き出しについて
6月15日	水難事故の防止と救助について
7月20日	献血と健康管理について
8月17日	災害時の心理状態について
9月21日	南海トラフ巨大地震への備えについて
10月19日	乳児院と里親制度について
11月16日	子供の防災教育について
12月21日	窒息事故の予防と手当について
令和7年1月18日	家庭でできる防災対策について
2月15日	医療的ケア児者の防災について
3月15日	篤志看護婦人会とボランティアについて

② 赤十字看板や懸垂幕による広報

交通量の多い幹線道路沿いへの赤十字看板の設置を継続するとともに、行政庁舎（徳島県東部県税局・藍住町役場）に懸垂幕を設置し、「いのちと健康、尊厳を守る」という日本赤十字社の使命と、その活動原資が赤十字活動支援費であることを広く啓発した。

③ 地域に根ざした広報活動の展開

赤十字運動月間を中心に、地域の人々が集まる公共施設等に地区・分区、赤十字奉仕団等の協力を得て「赤十字のほり」を設置するとともに、四国放送及び県内ケーブルテレビ局の協力を得てスポットCMを放送するなど、地域に根ざした広報活動を展開した。

(6) 「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施

世界赤十字デーの5月8日から12日までの間、万代中央ふ頭のアクアチッタパーク内において、隣接建物の壁面を赤十字カラーである赤色のライトで照らすとともに、近隣店舗での「能登半島地震パネル展」や、ふ頭内各店舗への募金箱の設置を行い、赤十字思想の啓発を図った。



ライトアップの様子

(7) 「赤十字フラッグキャンペーン」の実施

5月の赤十字運動月間を中心に、県庁前ヨットハーバー「ケンチョピア」に停泊中のヨットに赤十字フラッグを掲げるとともに、沿道添いにのぼりを設置し、赤十字思想の普及を図った。

(8) 赤十字事業説明バス

地域で赤十字活動に深い関わりのある赤十字奉仕団や自治会、町内会等を対象に実施した。

赤十字の仕組みと活動に関する説明や救護倉庫の見学、非常食の炊き出し体験等を行うとともに、板東俘虜収容所跡地に設置している「赤十字ゆかりの地」を見学し、赤十字活動への理解促進に努めた。



炊き出しの説明を受ける参加者

なお、実施状況は次のとおりである。

No.	実施年月日	対 象	参加者数(名)
1	5月29日	東部地区佐那河内村赤十字奉仕団	38名
2	6月11日	小松島市地区赤十字奉仕団新開分団	28名
3	7月10日	阿南市地区赤十字奉仕団羽ノ浦分団	30名
4	8月6日	阿南市地区赤十字奉仕団	16名
5	8月27日	鳴門市地区赤十字奉仕団川東分団	19名
6	9月20日	徳島市地区赤十字奉仕団応神分団	21名
7	11月19日	南部地区美波町赤十字奉仕団	21名
8	12月11日	三好市川崎分館	24名
計8回			197名

(9) 時代に応じた寄付制度の普及・啓発

超高齢社会を迎え、御香典の寄付や相続財産の寄付、遺贈等の相談が寄せられている中で、寄付者の思いを実現できるように、相談窓口において情報提供や関係機関の紹介を行った。

また、ライフプランに応じた赤十字支援の方法について、ホームページ等での広報活動を行うとともに、遺贈等について分かりやすく説明したパンフレットを関係機関へ送付するなど積極的な情報発信を行った。



遺贈等について説明したパンフレット

(10) 日本赤十字社功労表彰の実施

長年、赤十字活動に功労のあった方々への顕彰を行い、地域に根ざした赤十字活動の更なる進展を図った。

(11) 企業等と連携した赤十字活動の推進

企業等の社会貢献活動と連携して、新たに1台の「赤十字活動支援自動販売機」を設置するとともに、「チャリティーボックス（募金箱）」設置場所の拡充を図り、身近で手軽に赤十字支援ができる環境を整備した。

また、自動販売機や募金箱に赤十字マークや人道活動の内容をデザインすることにより、赤十字活動の啓発に努めた。

なお、自動販売機の設置状況は次のとおりである。



藍住町総合文化ホールに
設置した支援自動販売機

① 赤十字活動支援自動販売機設置状況

(令和7年3月31日現在)

No.	市町村名	設 置 場 所	No.	市町村名	設 置 場 所
1	徳島市	株式会社阿波銀行 本店	52	小松島市	徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院
2		株式会社阿波銀行 本店	53		徳島赤十字病院
3		株式会社阿波銀行 本店	54		徳島赤十字病院
4		株式会社阿波銀行 本店	55		徳島赤十字病院 工事現場 *
5		株式会社阿波銀行 事務センター	56		徳島赤十字病院 工事現場 *
6		株式会社阿波銀行 事務センター	57	阿南市	日亜化学工業株式会社
7		株式会社阿波銀行 本店営業部	58		日亜化学工業株式会社
8		阿波銀住友生命ビル *	59		日亜化学工業株式会社
9		あわぎん相談プラザ *	60		阿南川島クリニック
10		株式会社阿波銀行 研修所	61		キョーエイ 羽ノ浦店
11		株式会社阿波銀行 研修所	62	吉野川市	本庄公会堂
12		株式会社阿波銀行 福島支店	63		長生町自販機コーナー *
13		株式会社阿波銀行 昭和町支店	64		原嘉彦氏所有地
14		株式会社阿波銀行 川内支店 *	65		日本フネン株式会社
15		株式会社阿波銀行 徳島北支店	66	松茂町	鴨島川島クリニック
16		株式会社阿波銀行 中洲管理センター	67		株式会社阿波銀行 鴨島支店 *
17		株式会社阿波銀行 新町ビル前公園 *	68		株式会社阿波銀行 鴨島事務センター
18		沖洲コミュニティセンター *	69		株式会社阿波銀行 鴨島事務センター
19		徳島県医師会館	70		株式会社阿波銀行 鴨島事務センター
20		徳島県医師会館 *	71	阿波市	阿波中央バス *
21		キョーエイ 沖浜店	72		有限会社三宅生コン *
22		キョーエイ 山城橋店	73	美馬市	株式会社北岡組
23		キョーエイ 三ッ合橋店	74		株式会社阿波銀行 石井支店
24		ショッピングプラザタクト	75	北島町	徳島阿波おどり空港
25		川島病院	76		株式会社阿波銀行 松茂支店
26		川島病院	77	藍住町	四国化工機株式会社
27		川島透析クリニック	78		キョーエイ 北島店
28		川島透析クリニック	79		株式会社渡辺不動産 *
29		川島透析クリニック	80		渡辺不動産サンチュエリッパタウン *
30		川島透析クリニック	81		株式会社阿波銀行 北島支店
31		川島透析クリニック *	82	板野町	キョーエイ 笠木店
32		川島病院 工事現場 *	83		株式会社吉岡組 *
33		川島病院 工事現場 *	84		稲次整形外科病院
34		社会福祉法人飛鳥	85		かねこみそ株式会社 *
35		社会福祉法人飛鳥	86	美波町	かねこみそ株式会社
36		社会福祉法人飛鳥	87		かねこみそ株式会社
37		阿波製紙株式会社	88		藍住川島クリニック
38		一般社団法人徳島新聞社	89		藍住川島クリニック
39		徳農種苗株式会社	90		藍住町歴史館 藍の館 *
40		徳農種苗株式会社	91	美波町	藍住町総合文化ホール
41		高橋利弘氏所有地	92		上田食品店 *
42		岸化学グループ	93	海陽町	テック情報株式会社
43		喜多機械産業株式会社	94		美波町国民健康保険美波病院
44		リハビリテーション大神子病院	95	つるぎ町	美波町医療保健センター
45		日本赤十字社徳島県支部	96		株式会社丸本
46	鳴門市	キョーエイ 鳴門店	97	東みよし町	株式会社丸本
47		鳴門クルーズサービス有限会社	98		株式会社丸本ホットフーズ
48	小松島市	日亜化学工業株式会社	99	東みよし町	カラオケコスモス *
49		徳島赤十字ひのみね医療療育センター	100		東みよし町社会福祉協議会
50		徳島赤十字ひのみね医療療育センター	101		三好デイサービスセンターさざんか荘 *
51		徳島赤十字ひのみね医療療育センター	102		

※ 網掛けは、令和6年度に設置した支援自販機

※ *印は、一時待避または撤去した支援自販機

2 災害救護体制の充実・強化

今後30年以内に80％程度の確率で発生が懸念されている南海トラフ巨大地震をはじめ、日本各地で激甚化、頻発化する豪雨災害等の自然災害に備え、災害発生直後から慢性期までの医療救護活動が迅速かつ的確に展開できるよう、各種救護訓練や研修等を通して、救護体制の充実・強化に努めた。

(1) 救護班の編成

医師や看護師、薬剤師等で編成する医療救護班をはじめ、災害急性期に活動するための専門的な訓練を受けた DMAT や、災害時における心理的苦痛の予防と軽減を図るためのこころのケア指導者の育成、また被災地の保健医療福祉調整本部等で救護活動のコーディネート業務を担う「日赤災害医療コーディネートチーム」を編成するなど、有事即応の体制を整えている。

医療救護班等の編成状況は、次のとおりである。

① 医療救護班の編成

(人)

施設名	職種	医師 (班長)	臨床研 修医師	看護 師長	看護師	薬剤師	主事 (自動車操作員 を兼ねる)	福祉 専門職	計
徳島赤十字病院 (5 個班)		5	12	5	20	5	5	－	52
徳島赤十字ひのみね 医療療育センター (1 個班)		1	－	1	4	1	1	1	9
徳島県赤十字血液センター (1 個班)		1	－	1	4	－	2	－	8
徳島赤十字ひのみね 医療療育センター 附属乳児院		－	－	－	1	－	－	1	2
計 (7 個班)		7	12	7	29	6	8	2	71

（注） 1 個班の編成基準

医 師 1 人 看護師長 1 人 看護師 4 人

薬剤師 1 人 主事（自動車操作員を兼ねる） 1 人 計 8 人

※徳島赤十字病院は、1 個班あたり 2 名～ 3 名の臨床研修医師を加えて編成

※徳島赤十字ひのみね医療療育センター及び同センター附属乳児院の福祉専門職等は、被災地のニーズにあわせ、臨機的に救護班に加わり活動する。

② 日赤徳島 DMAT [災害派遣医療チーム] (3チーム) (人)

施設名 \ 職種	医 師	看 護 師	業務調整員
日本赤十字社徳島県支部	－	－	1
徳島赤十字病院	4	10	16

(注) 1チームの編成基準 (基本)

医師 1 人 看護師 2 人 業務調整員 1 人 計 4 人

③ 日赤災害医療コーディネートチーム (2チーム) (人)

名称 \ 職種	医 師	看護師	事務職員	計
災害医療 コーディネーター	2	－	－	2
災害医療コーディネート スタッフ	－	2	6	8

(注) 1チームの編成基準 (基本)

医師 1 人 看護師・事務職員等 3 人 計 4 人

④ こころのケア指導者 (人)

施設名 \ 職種	看 護 師	公認心理師 臨床心理士	計
徳島赤十字病院	14	－	14
徳島赤十字ひのみね 医療療育センター	5	1	6

(2) 各種災害救護訓練・研修等の実施及び参加

救護活動に必要な知識と技術を習得するため、全救護班要員を対象とした救護班要員研修や救護班主事を対象とした実働研修等を実施した。

また、日本赤十字社中国・四国ブロック災害救護訓練に参加し、各県支部相互の連携体制を強化するとともに、自治体等が主催する訓練等に積極的に参加し、災害対応力の向上に努めた。



中国・四国ブロック災害救護訓練で、災害対策本部の運営を行う救護員

① 支部が主催する救護員に対する研修の実施

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)
令和6年 4月13日	日本赤十字社徳島県支部救護班要員研修	徳島赤十字 病院	120
6月21日	日本赤十字社徳島県支部救護班要員 主事研修	日本赤十字社 徳島県支部	13

② 日本赤十字社本社並びに中国・四国ブロックが実施する訓練及び研修会

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)	
			支部	施設
7月5日 ～6日	日赤災害医療コーディネート研修会	本社	－	1
10月9日 ～10日	こころのケア指導者養成講習会	本社	－	1
11月8日 ～9日	日本赤十字社中国・四国ブロック（第5 ブロック）各県支部合同災害救護訓練	山口県	3	－
11月23日 ～24日	日赤災害医療コーディネート研修会	本社	－	2
令和7年 2月15日	日赤災害医療コーディネートフォロー アップ研修会	WEB形式	－	1
2月22日 ～23日	全国赤十字救護班研修会	広島県	2	8

③ 他機関が実施する災害救護訓練等

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)	
			支部	施設・Vo
11月7日	徳島県総合防災訓練	鳴門市	2	5
令和7年 2月4日	徳島県国民保護共同訓練	藍住町	2	5
3月4日	徳島空港航空機事故対処総合訓練	松茂町	2	－
3月10日	海上保安庁洋上訓練	松茂町	－	3

④ DMAT 関係訓練・研修への参加

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)	
			支部	施設
12月7日 ～8日	四国 DMAT 実働訓練	香川県	－	1
12月10日 ～12日	日本 DMAT 隊員養成研修	兵庫県	－	4
令和7年 1月14日	徳島県災害対策本部訓練	徳島県	－	5
1月22日	中国・四国ブロック DMAT 技能維持 研修	徳島県	－	9

(3) 日本赤十字社岡山県支部との合同研修会の開催

南海トラフ巨大地震に対応するため、日本赤十字社第5ブロック災害救護運用マニュアル等の計画に基づき、岡山県支部との合同研修会を令和7年3月に開催し、被害想定を考慮した医療救護班等の参集経路の確認や徳島県の災害医療体制等についての研修を行った。



災害拠点病院等を確認する岡山県支部職員

(4) 救護物資及び救護資材

南海トラフ巨大地震等の大災害に備え、救護所及び後方支援の拠点として設置する天候万能型フレーム一体式テントをはじめ、赤十字の救護活動を自己完結するための車両として救護員輸送車等を整備している。



牟岐町に設置している南部救護倉庫

また、道路が寸断された災害時にも迅速に活動が展開できるよう、県南部及び西部に設置している救護倉庫に救護資機材等を備蓄している。

更には、原子力災害の発生やその恐れがある場合に対応するためのデジタル個人線量計や防護服セット等、災害対応能力強化を図るための資器材も整備し、災害に備えている。

① 救護装備一覧

(令和7年3月31日現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
災害救援車（普通自動車）	4台	防護マスク	12個
災害救援車（トラック）	1台	防護服	12着
フレーム一体式テント	2張	デジタル個人線量計	7台
エアータント	3張	防護服セット	7セット
除染テント	1張	寝袋	49枚
簡単テント	2張	敷きマット	28枚
パイプテント	1張	エア枕	500個
救護所用冷暖房器	3台	救命胴衣	10着
発電機	5台	災害用移動炊飯器	4台
投光器	19台	衛星携帯電話（モバイル）	1台
医療セット	2セット	衛星携帯電話（車載）	1台
初動用医療セット	1セット	簡易無線機	7台
折り畳み寝台	21台	業務用無線局（150MHz）基地局	4台
担架	12本	〃 移動局	10台
担架台	4組	業務用無線局（400MHz）基地局	1台

品 名	数 量	品 名	数 量
バックボード	4 台	業務用無線局 (400MHz) 移動局	22台
ラップ式簡易トイレ	12台	アマチュア無線機	14台
簡易型トイレ	53個	充電式 LED ライト	19台
災害救護用自転車	1 台	折り畳みテーブル	10台
カセットガスストーブ	5 台	ハイブリッド発電機	7 台
スポットクーラー	2 台	弾性ストッキング	1,000足
折り畳みチェア	30脚	段ボールベッド (要配慮者用)	50セット
災害用アルミボート (船外機付)	1 艇	段ボールベッド (乳児用)	50セット
蓄電池 (大)	2セット	災害用段ボールトイレ	40個
蓄電池 (小)	3セット	非常用トイレセット (袋・凝固剤)	10個

② 南部救護倉庫収納資機材一覧

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
災害対策用ワンタッチ多目的テント	1 式	ラップ式トイレ専用折り畳み個室	2 個
全方位型 LED 投光器	2 台	簡易型トイレ	10個
発動発電機	2 台	個室型ワンタッチテント	10張
コードリール	2 本	備蓄用長尺トイレトーパー	10ロール
担架	2 本	災害用段ボールトイレ	30個
折り畳み寝台	10台	非常用トイレセット (袋・凝固剤)	10個
テーブル・椅子セット	3セット	ガソリン携行缶	1 個
折り畳みリヤカー	1 台	災害用移動炊飯器	2 台
台車	1 台	カセットコンロ・カセットガス	1セット
ノーパンク折り畳み自転車	1 台	大型やかん	1 個
折り畳み式ホワイトボード	2 台	大型なべ	1 個
トリアージタグ	200枚	毛布	240枚
防水型メガホン	2 台	緊急セット	30セット
防水シート	3 箱	安眠セット	60セット
シャベル	3 本	大判バスタオル	120枚
救助用レンジャーロープ	1 本	タオルケット	120枚
遠赤石油ストーブ	2 台	タオル・石けん	1 箱
保存用飲料水	108 ^{リットル}	段ボールベッド	10個
ラップ式移動型トイレ	2 台	間仕切り	10個

③ 西部救護倉庫収納資機材一覧

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
災害時活動用テント (付属品含)	2 張	ラップ式移動型トイレ (付属品含)	1 セット
災害用移動炊飯器 (付属品含)	2 台	災害用段ボールトイレ	30個
折りたたみ机	4 台	非常用トイレセット (袋・凝固剤)	10個
折りたたみ椅子	16脚	備蓄用トイレトーパー	1 箱
防水シート	10枚	ライティングシート	2 本
投光器	4 台		

④ 救援物資備蓄状況

(令和7年3月31日現在)

区 分	前年度 繰越数	県外から の受入数	本年度 購入数	計①	本年度 払出数	その他 払出数	計②	残数 ①－②
毛 布	2,783	0	0	2,783	47	0	47	2,736
緊急セット	1,036	0	0	1,036	28	0	28	1,008
安眠セット	375	0	0	375	0	5	0	370
大判バスタオル	980	0	0	980	0	8	8	972
タオルケット	849	400	0	1,249	0	0	0	1,249



毛布



緊急セット



大判バスタオル



安眠セット



タオルケット

(5) 災害用移動炊飯器を活用した炊き出し訓練の実施

県下217カ所の学校や公民館等に配備している災害用移動炊飯器を活用し、赤十字奉仕団等が各地域で炊き出し訓練等を実施し、災害に強い地域づくりや災害への備えを進めるとともに、災害時の食に対する支援体制の充実・強化を図った。



地域で災害用移動炊飯器を活用して、炊き出し訓練を行う地域赤十字奉仕団

① 災害用移動炊飯器設置状況

(令和7年3月31日現在)

No.	地区・分区名	設 置 場 所	No.	地区・分区名	設 置 場 所
1	徳島市	内町コミュニティセンター	41	徳島市	多家良中央コミュニティセンター
2		内町小学校	42		丈六コミュニティセンター
3		出来島公園防災倉庫	43		上八万地区ボランティアセンター
4		新町公民館	44		上八万小学校
5		西富田コミュニティセンター	45		一宮小学校
6		東富田コミュニティセンター	46		入田コミュニティセンター
7		昭和コミュニティセンター	47		入田中学校
8		徳島市昭和地区猪之津株式会社 昭和倉庫	48		不動コミュニティセンター
9		渭東コミュニティセンター	49		川内町民会館
10		渭東コミュニティセンター	50		川内町民会館
11		住吉・城東コミュニティセンター	51		川内南小学校
12		徳島商業高等学校	52		徳島県赤十字有功会 株式会社キョーエイ本部
13		徳島中学校	53		徳島県赤十字有功会 株式会社キョーエイ本部
14		渭北コミュニティセンター	54		応神コミュニティセンター
15		佐古コミュニティセンター	55		応神コミュニティセンター
16		佐古コミュニティセンター	56		国府コミュニティセンター
17		沖洲コミュニティセンター	57		南井上コミュニティセンター
18		沖洲小学校	58		南井上コミュニティセンター
19		津田コミュニティセンター	59		北井上コミュニティセンター
20		津田中学校	60		北井上コミュニティセンター
21		津田小学校	61	鳴門市	鳴門市福祉事務所
22		加茂名コミュニティセンター	62		鳴門市福祉事務所
23		ショッピングプラザタクト	63		鳴門市婦人会館
24		神明神社防災倉庫	64		木津地区ふれあい公園防災倉庫
25		若宮神社防災倉庫	65		里浦公民館
26		喜多機械産業株式会社	66		里浦小学校
27		加茂コミュニティセンター	67		鳴門西地区防災倉庫
28		千松小学校	68		北灘公民館
29		城西中学校	69		堀江公民館
30		八万中央コミュニティセンター	70		堀江公民館
31		八万中央コミュニティセンター	71		鳴門東地区コミュニティセンター
32		夷山緑地	72		黒崎集会所
33		八万小学校	73		黒崎集会所
34		八万南小学校	74		矢倉集会所
35		城南高等学校	75		渦潮ふれあい館
36		ふれあい健康館	76		瀬戸公民館
37		勝占中部コミュニティセンター	77		瀬戸公民館
38		勝占東部コミュニティセンター	78		島田小学校
39		方上公民館	79		北泊公民館
40		論田小学校	80		明神北集会所

No.	地区・分区名	設 置 場 所	No.	地区・分区名	設 置 場 所
81	鳴門市	日出集会所	121	阿波市	阿波市役所 阿波支所
82		徳島県赤十字有功会 鳴門シーガル病院	122		阿波市役所 土成支所
83		徳島県赤十字有功会 鳴門シーガル病院	123		阿波市役所 吉野支所
84		鳴門公民館	124		大俣公民館
85		川東公民館	125		大俣公民館
86		斎田集会所	126	美馬市	美馬市総合防災倉庫
87		折野北条集会所	127		三島会館
88		板東南ふれあいセンター	128		有限会社藤田計夫商店
89		岡田石油有限会社	129		美馬市消防本部
90	小松島市	小松島市役所	130	三好市	三好市防災倉庫
91		サウンドハウスホール	131		池田町中央公民館
92		徳島赤十字病院	132		三好市社会福祉協議会
93		徳島赤十字ひのみね医療療育センター	133		三好市社会福祉協議会 三野支所
94		みなと高等学園	134		三好市社会福祉協議会 山城支所
95		立江小学校	135		三好市社会福祉協議会 西祖谷支所
96		新開公民館	136		三好市社会福祉協議会 東祖谷支所
97		櫛渕公民館	137	勝浦町	勝浦町役場
98		JA 東とくしま旧和田島支所倉庫	138		勝浦町農村環境改善センター
99	阿南市	阿南市役所	139		勝浦町福祉センター
100		橘地区防災公園	140		勝浦町民体育館
101		ショッピングプラザアピカ	141	上勝町	旭基幹集落センター
102		大野公民館	142		上勝町社会福祉協議会
103		宝田公民館	143		高銓公民館
104		新野公民館	144		福原ふれあいセンター
105		福井公民館	145	佐那河内村	佐那河内村役場
106		那賀川公民館	146		佐那河内村社会福祉協議会
107		徳島県建設業協会阿南支所	147		佐那河内村社会福祉協議会
108		中野島総合センター	148		佐那河内小・中学校
109		長生公民館	149	石井町	石井中学校
110		富岡公民館	150		高浦中学校
111		阿南市勤労女性センター	151		石井町社会福祉協議会
112		桑野公民館	152		石井町地域防災交流センター
113		加茂谷公民館	153		平島水防倉庫
114	吉野川市	鴨島公民館	154	神山町	神山町社会福祉協議会
115		上浦公民館	155		神山町社会福祉協議会
116		西麻植会館	156		下分公民館
117		牛島公民館	157	松茂町	松茂町役場
118		川島公民館	158		松茂町役場
119	阿波市	山川地域総合センター	159		松茂町津波防災センター
120		阿波市役所	160		松茂町社会福祉協議会

No.	地区・分区名	設 置 場 所	No.	地区・分区名	設 置 場 所
161	松茂町	喜来小学校	190	那賀町	鷺敷中央公民館
162		徳島阿波おどり空港	191	美波町	南部総合県民局 美波庁舎
163		松茂小学校	192		美波町ストックヤード
164	北島町	北島町社会福祉協議会	193		美波町ストックヤード
165		北島町社会福祉協議会	194		美波病院
166		北島町社会福祉協議会	195		木岐聖ヶ丘農林漁業体験施設
167		北島小学校	196	牟岐町	牟岐町役場 高倉倉庫
168	藍住町	藍住町社会福祉協議会	197		牟岐町役場 西山倉庫
169		藍住町社会福祉協議会	198		牟岐町役場 西山倉庫
170		藍住東小学校	199		牟岐町役場 西山倉庫
171		藍住西小学校	200	海陽町	海陽町役場 海部庁舎
172		藍住南小学校	201		海陽町役場 海部庁舎
173		藍住北小学校	202		海陽町役場 海部庁舎
174	板野町	板野町災害対策用備蓄倉庫	203		海陽町役場 海部庁舎
175		板野町社会福祉協議会	204		株式会社丸本（災害避難場所）
176		板野南小学校	205		株式会社丸本（災害避難場所）
177		板野西小学校	206	つるぎ町	つるぎ町役場
178		板野町南公会堂	207		つるぎ町役場
179		板野町民ふれあいプラザ	208		つるぎ町役場
180	上板町	上板町社会福祉協議会	209		つるぎ町役場 半田支所
181		高志消防コミュニティセンター	210		つるぎ町役場 一字支所
182		大山消防コミュニティセンター	211		つるぎ町役場 一字支所
183		松島消防コミュニティセンター	212	東みよし町	東みよし町社会福祉協議会
184	那賀町	那賀町役場	213		東みよし町社会福祉協議会
185		那賀町役場 木沢支所	214		東みよし町デイサービスさざんか荘
186		那賀町役場 木頭支所	215		東みよし町デイサービスさざんか荘
187		那賀町平谷出張所	216		東みよし町デイサービスさざんか荘
188		平谷小学校	217		東みよし町デイサービスさざんか荘
189		桜谷小学校			

(6) 赤十字災害用移動炊飯器「専用鉄板」の配備

南海トラフ巨大地震等の大災害に備え、非常食のメニューの幅を広げるとともに長期の避難生活を見据えた地域での「食」の支援体制の充実・強化を図るため、地域へ配備している「赤十字災害用移動炊飯器」で調理可能な「専用鉄板」を、令和5年度に全地区・分区へ配備した。



災害用移動炊飯器「専用鉄板」を活用して炊き出しを行う地域赤十字奉仕団

本年度は、南海トラフ巨大地震において特に甚大な被害が想定されている沿岸部及び孤立が想定される山間部の13地区・分区に「専用鉄板」の追加配備を行った。

① 災害用移動炊飯器「専用鉄板」配備状況 (令和7年3月31日現在)

No.	地区・分区名	設 置 場 所	No.	地区・分区名	設 置 場 所
1	徳島市	内 町 内町コミュニティセンター	31	阿波市地区	阿波市役所
2		新 町 新町公民館	32	美馬市地区	美馬市福祉事務所
3		西富田 西富田コミュニティセンター	33	三好市地区	三好市役所井川支所
4		東富田 東富田コミュニティセンター	34	東部	勝浦町役場
5		昭 和 昭和コミュニティセンター	35		勝浦町役場
6		渭 東 渭東コミュニティセンター	36		上勝町社会福祉協議会
7		渭 北 渭北コミュニティセンター	37		上勝町社会福祉協議会
8		佐 古 佐古コミュニティセンター	38		佐那河内村社会福祉協議会
9		沖 洲 沖洲コミュニティセンター	39		佐那河内村災害備蓄倉庫
10		津 田 津田コミュニティセンター	40		石井町社会福祉協議会
11		加茂名 加茂名コミュニティセンター	41		神山町社会福祉協議会
12		加 茂 加茂コミュニティセンター	42		神山町社会福祉協議会
13		八 万 八万中央コミュニティセンター	43		松茂町社会福祉協議会
14		勝 占 勝占中部コミュニティセンター	44		松茂町役場
15		多家良 多家良中央コミュニティセンター	45		北島町社会福祉協議会
16		上八万 上八万地区ボランティアセンター	46		北島町社会福祉協議会
17		入 田 入田コミュニティセンター	47		藍住町社会福祉協議会
18		不 動 不動コミュニティセンター	48		板野町社会福祉協議会
19		川 内 川内町民会館	49		上板町社会福祉協議会
20		応 神 応神コミュニティセンター	50	南部	那賀町役場相生支所
21		国 府 国府コミュニティセンター	51		那賀町役場相生支所
22		南井上 南井上コミュニティセンター	52		美波町医療保健センター
23		北井上 北井上コミュニティセンター	53		美波病院
24	鳴門市地区	鳴門市役所	54		牟岐町役場
25		鳴門市役所	55		牟岐町役場西山倉庫
26	小松島市地区	サウンドハウスホール	56		海陽町役場海部庁舎
27		サウンドハウスホール	57		海陽町役場海部庁舎
28	阿南市地区	阿南市役所	58	西部	つるぎ町役場
29		阿南市役所	59		東みよし町社会福祉協議会
30	吉野川市地区	鴨島公民館			

※ゴシック体は、令和6年度に配備した地区・分区

(7) 赤十字災害時活動用テントの配備

地域における災害時の炊き出し支援活動や
平時の防災訓練等において、簡単に設営が可
能な折りたたみ式テントを地区・分区に83張
配備している。

赤十字奉仕団や自主防災組織等が、地域の
防災訓練等で活用することにより、地域の災
害対応力の向上を図った。



地域でテントの組み立て訓練を行う地域
赤十字奉仕団等

① 赤十字災害時活動用テント配備状況

(令和7年3月31日現在)

No.	地区	設 置 場 所	No.	地区	設 置 場 所
1	徳島市	内町コミュニティセンター	32	阿南市	富岡公民館
2		新町コミュニティセンター	33		羽ノ浦公民館
3		西富田コミュニティセンター	34		大野公民館
4		東富田コミュニティセンター	35		長生公民館
5		昭和コミュニティセンター	36		見能林公民館
6		渭東コミュニティセンター	37		新野公民館
7		渭北コミュニティセンター	38	吉野川市	吉野川市役所
8		佐古コミュニティセンター	39		ふるさとセンター
9		沖洲コミュニティセンター	40		川島公民館
10		津田コミュニティセンター	41		山川地域総合センター倉庫
11		加茂名地区名東3丁目自主防災会防災倉庫	42	阿波市	阿波市大保公民館
12		加茂コミュニティセンター	43		阿波市役所
13		八万中央コミュニティセンター	44		吉野地域福祉センターこすもす
14		勝占中部コミュニティセンター	45	美馬市	美馬市福祉事務所
15		多家良中央コミュニティセンター	46		美馬市福祉事務所
16		上八万小学校	47		美馬市社会福祉協議会
17		入田コミュニティセンター	48	三好市	三好市中央公民館
18		不動コミュニティセンター	49		三好市社会福祉協議会
19		川内町民会館	50	勝浦町	勝浦町民体育館
20		応神コミュニティセンター	51		勝浦町農村改善環境センター
21		徳島市立考古資料館敷地内防災倉庫	52	上勝町	上勝町旭基幹集落センター
22		南井上コミュニティセンター	53		上勝町高鋒公民館
23		北井上コミュニティセンター	54	佐那河内村	佐那河内村 防災倉庫
24	鳴門市	鳴門市役所	55		佐那河内村災害備蓄倉庫
25		鳴門公民館	56	石井町	石井町社会福祉協議会
26		林崎防災倉庫	57		石井町社会福祉協議会
27		矢倉消防団詰所	58	神山町	神山町社会福祉協議会
28		堀江公民館	59		神山町社会福祉協議会
29	小松島市	サウンドハウスホール	60	松茂町	松茂町老人福祉センター
30		JA とくしま旧和田島支所倉庫	61		松茂町老人福祉センター
31		和田島緑地公園倉庫	62	北島町	北島町社会福祉協議会

No.	地区	設 置 場 所	No.	地区	設 置 場 所
63	北島町	北島町社会福祉協議会	74	牟岐町	牟岐町役場 西山倉庫
64	藍住町	藍住町福祉センター	75		牟岐町役場 西山倉庫
65		藍住町社会福祉協議会	76	海陽町	海陽町役場 海部庁舎
66	板野町	板野町町民センター	77		海陽町役場 海部庁舎
67		板野町社会福祉協議会	78	つるぎ町	つるぎ町役場
68	上板町	上板町社会福祉協議会	79		つるぎ町役場
69		上板町社会福祉協議会	80	東みよし町	東みよし町社会福祉協議会
70	那賀町	那賀町役場 相生庁舎	81		東みよし町デイサービスさざんか荘
71		那賀町役場 相生庁舎	82	その他	日本赤十字社徳島県支部
72	美波町	日和佐公民館	83		日本赤十字社徳島県支部
73		美波町医療保健センター			

(8) 大規模災害時における要支援者支援体制の強化

これまでの東日本大震災や熊本地震等における救護活動の経験を踏まえ、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害時に、長期にわたる避難所生活において特に支援が必要な要配慮者や乳児を対象とした「赤十字要支援者用段ボールベッド」を当支部で独自開発し、全地区・分区へ配備している。

本年度は、中央構造線断層帯の地震対策として、徳島市から美馬市までの吉野川流域の市町を中心に10地区・分区へ追加配備し、災害時における地域の要支援者支援体制の充実・強化を図った。



要配慮者用



乳児用

① 災害時要支援者用段ボールベッドの整備数 (令和7年3月31日現在)

地区・分区名	設 置 場 所	配備年度	配 備 数	
			要配慮者用	乳児用
—	日本赤十字社徳島県支部	令和2年度	50	50
徳島市地区	旧徳島市社会福祉センター分館	令和4年度	10	10
		令和6年度	5	5
鳴門市地区	トリーデなると	令和3年度	10	10
	鳴門市人権福祉センター	令和5年度	5	5

地区・分区名	設 置 場 所	配備年度	配 備 数	
			要配慮者用	乳児用
小松島市地区	サウンドハウスホール	令和3年度	10	10
		令和5年度	5	5
阿南市地区	阿南市役所（防災倉庫）	令和3年度	10	10
	阿南ひまわり会館	令和5年度	5	5
吉野川市地区	川島かもめこども園3F	令和4年度	10	10
	日本フネン市民プラザ	令和6年度	5	5
阿波市地区	大俣公民館	令和4年度	10	10
		令和6年度	5	5
美馬市地区	美馬市総合防災倉庫	令和4年度	10	10
	美馬市総合防災倉庫	令和6年度	5	5
三好市地区	三好市社会福祉協議会 本所	令和4年度	1	1
	旧 池田第一中学校	令和4年度	3	7
	旧 池田第一中学校	令和6年度	5	5
	三好市社会福祉協議会 西祖谷支所	令和4年度	3	1
	三好市社会福祉協議会 東祖谷支所	令和4年度	3	1
勝 浦 町	生名希望の広場 防災倉庫	令和3年度	5	5
上 勝 町	上勝町コミュニティセンター	令和3年度	5	5
佐那河内村	佐那河内村防災倉庫	令和3年度	5	3
	佐那河内村多目的地域交流施設	令和5年度	5	3
石 井 町	石井町備蓄倉庫	令和4年度	5	5
		令和6年度	5	5
神 山 町	神山町社会福祉協議会	令和3年度	5	5
	神山町役場防災倉庫	令和5年度	5	5
松 茂 町	松茂町老人福祉センター松鶴苑	令和3年度	5	5
		令和5年度	5	5
北 島 町	北島町社会福祉協議会	令和3年度	2	0
	北島東児童館	令和3年度	1	1
	北島西児童館	令和3年度	1	1
	北島町 中央地区学習等供用施設	令和5年度	2	3
	北島町 南部地区学習等供用施設	令和5年度	2	2
	北島町 北部地区学習等供用施設	令和5年度	2	3
藍 住 町	藍住町総合文化ホール	令和4年度	5	5
	藍住町防災備蓄倉庫	令和6年度	5	5
板 野 町	板野町防災ステーション	令和4年度	5	5
	板野町災害備蓄倉庫	令和6年度	5	5
上 板 町	上板町社会福祉協議会	令和4年度	5	5
那 賀 町	延野体育館	令和4年度	3	3
		令和5年度	2	2

地区・分区名	設 置 場 所	配備年度	配 備 数	
			要配慮者用	乳児用
美 波 町	美波町防災備蓄倉庫	令和 3 年度	5	5
	美波町北河内水防倉庫	令和 5 年度	5	0
牟 岐 町	中村地域活性化センター 3 階	令和 3 年度	5	5
		令和 5 年度	5	5
海 陽 町	海陽町役場海部庁舎	令和 3 年度	3	5
		令和 5 年度	2	2
	海陽町役場穴喰庁舎	令和 5 年度	3	3
つ る ぎ 町	貞光中学校	令和 4 年度	5	5
		令和 6 年度	5	5
東 み よ し 町	旧三好学校給食センター	令和 4 年度	5	5
		令和 6 年度	5	5
合 計			308	301

※ゴシック体は、令和6年度に配備した地区・分区

② 赤十字要支援者用段ボールベッド設営訓練実施状況

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
小松島市地区赤十字奉仕団 新開分団	30	藍住町社会福祉協議会	900
池田支援学校美馬分校	51	吉野川市地区赤十字奉仕団 鴨島（知恵島）分団	28
小松島高等学校	36	阿波市地区赤十字奉仕団 市場分団	63
東部地区北島町赤十字奉仕団	25	徳島市地区赤十字奉仕団 昭和分団	11
内町まちづくり協議会	35	計 10 回	1,209
佐古コミュニティセンター	30		

(9) 地域における防災・減災事業の推進

過去の災害の教訓や当支部の救護活動の経験を通して、今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震等の大規模災害から、いのちを守り被害を最小限に抑えるために、災害や防災についての考え方、平時の備えについて啓発を図る「防災セミナー」を学校や地域において実施した。

また、高校生を対象に「自助」の大切さを学ぶ一環として、災害に備えて家の中の安全対策につ



高校生を対象とした「防災セミナー」

いて考え、共有する機会を設けた。

なお、実施状況は、次のとおりである。

① 講習実施状況

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
櫛木ハリ町内会	50	シルバー大学校	30
吉野川市地区赤十字奉仕団 山川（山瀬）分団	30	藍住町徳命地区推進協議会	45
佐那河内中学校	18	とくしまあいランド推進協議会	30
松茂町社会福祉協議会	19	東部地区推進協議会	41
鳴門教育大学附属幼稚園	47	吉野川市婦人団体連合会	65
徳島赤十字ひのみね医療療育センター	70	とくしまあいランド推進協議会	25
シルバー大学校	30	徳島北高等学校	20
名東町一丁目町内会	59	計 15 回	579

(10) 臨時救護の状況

屋外行事やスポーツ競技、各種イベントの救護や小学校での福祉体験学習のサポートを実施した。

回数	派遣人数
16回	31人

(11) 赤十字小規模災害見舞金等交付状況

県内で発生した災害により死亡または行方不明、もしくは住家が全焼（壊）・半焼（壊）・流失・床上浸水の被害をうけた住民に対し、次の基準により見舞金品を交付した。

① 交 付 基 準

区分 被害別	見舞金 (弔慰金)	毛 布	緊急セット
死 亡 行 方 不 明	30,000円	1 人 に 1 枚	1 世帯に 1 個 (3 人まで) 1 世帯に 2 個 (4 人以上)
全 焼 全 壊 全 流 失	20,000円		
半焼・半壊	10,000円		
床 上 浸 水			1 世帯に 1 個

(注) 小規模災害に対する赤十字見舞金品交付要領に基づく。(災害救助法が適用される場合及び自己放火の火災については除く。)

② 市町村別交付状況

区 分		死 亡 行方不明 (件)	全焼・全壊 世帯件数 (件)	半焼・半壊 世帯件数 (件)	床上浸水 世帯件数 (件)	見舞金等交付状況		
						見舞金 (円)	毛 布 (枚)	緊急セット (個)
市 地 区	徳 島 市 地 区	0	3	3	0	90,000	14	6
	鳴 門 市 地 区	0	1	0	0	20,000	1	1
	小松島市地区	0	2	1	0	50,000	6	3
	阿 南 市 地 区	0	1	0	0	20,000	1	1
	吉野川市地区	0	0	0	0	0	0	0
	阿 波 市 地 区	0	0	1	0	10,000	2	1
	美 馬 市 地 区	0	4	0	0	80,000	6	4
	三 好 市 地 区	0	1	0	0	20,000	1	1
	市 地 区 計	0	12	5	0	290,000	31	17
東 部 地 区	勝 浦 町 分 区	0	1	0	0	20,000	1	1
	上 勝 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	佐那河内村分区	0	0	0	0	0	0	0
	石 井 町 分 区	0	1	0	0	20,000	1	1
	神 山 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	松 茂 町 分 区	0	1	1	0	20,000	4	3
	北 島 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	藍 住 町 分 区	0	0	1	0	10,000	1	1
	板 野 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	上 板 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	3	2	0	70,000	7	6
南 部 地 区	那 賀 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	美 波 町 分 区	1	1	0	0	30,000	0	0
	牟 岐 町 分 区	0	0	1	0	10,000	4	1
	海 陽 町 分 区	1	3	0	0	90,000	3	3
	計	2	4	1	0	130,000	7	4
西 部 地 区	つるぎ町分区	0	1	0	0	20,000	2	1
	東みよし町分区	0	1	0	0	20,000	0	0
	計	0	2	0	0	40,000	2	1
町 村 分 区 計		2	9	3	0	240,000	16	11
合 計		2	21	8	0	530,000	47	28

(12) 国内の災害義援金の受付状況

(令和7年3月31日現在)

区 分	件 数 (件)	受 付 額 (円)
令和6年能登半島地震災害義援金	378	28,829,526
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	1	60,000
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	152	7,631,476
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	39	1,818,697
計	570	38,339,699

3 赤十字の救急法等の普及活動

「いのちと健康」を守る赤十字の基本理念である「人道」を、具体的な知識や技術として普及し、県民が健康で安全な日常生活を送るとともに、いざ不測の事態が起こった際には、迅速に手当を実践することで、尊い「いのち」が救われるよう、県内各地で赤十字講習を開催した。

また、AEDの一般使用が認められて20年の節目にあたり、赤十字AEDを設置している地区・分区の担当者等にAEDの管理方法やAEDの使い方等に関する研修会を実施した。

更には、救急法指導員を新たに養成し、救急法普及体制の充実・強化を図った。

(1) 救 急 法

地域や学校、職域等で心肺蘇生やAEDの使用法を中心とした一次救命処置の普及を図った。

普及にあたっては、従来からの集合形式による講習に加え、学校におけるプール時期などの重複する講習ニーズ等に柔軟に対応するために「リモート」による講習も併用し、多くの人々に効果的に一次救命処置の知識と技術の普及を図った。



心肺蘇生とAEDの使い方を学ぶ生徒

① 講習実施状況

ア. 指導員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部	20	20

イ. 基礎講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部 一般対象①	21	21
日本赤十字社徳島県支部 一般対象②	8	8
日本赤十字社徳島県支部 一般対象③	17	17
徳島赤十字ひのみね医療療育センター 職員対象	6	6
徳島赤十字病院 職員対象①	15	15
徳島赤十字病院 職員対象②	34	34
徳島県警察学校 学生対象①	17	17
徳島県警察学校 学生対象②	23	23
日本スイミングクラブ協会四国支部	13	13
徳島文理大学 学生対象	29	29
徳島科学技術高等学校 教員対象	10	10
計 11 回	193	193

ウ. 救急員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部 一般対象①	18	18
日本赤十字社徳島県支部 一般対象②	16	16
徳島赤十字ひのみね医療療育センター 職員対象	6	6
徳島赤十字病院 職員対象①	15	15
徳島赤十字病院 職員対象②	34	34
徳島県警察学校 学生対象①	14	14
徳島県警察学校 学生対象②	26	26
徳島文理大学 学生対象	29	29
徳島科学技術高等学校 教員対象	10	10
計 9 回	168	168

エ. 短期講習（集合型）

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
北 島 中 学 校	45	阿 南 第 二 中 学 校	17
八 万 中 学 校	40	徳島県教育委員会体育健康安全課	7
徳島市地区赤十字奉仕団加茂分団	34	喜 多 機 械 産 業 株 式 会 社	49
徳 島 視 覚 支 援 学 校	95	徳 島 山 と 友 の 会	20
鳴門教育大学附属特別支援学校	30	とくしまあいランド推進協議会	30

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
児 安 小 学 校	18	徳 島 県 バレーボール協会	30
近 藤 内 科 病 院	48	東部地区勝浦町赤十字奉仕団	200
徳 島 文 理 大 学	32	北 小 松 島 小 学 校	75
吉 野 川 高 等 学 校	56	川 内 町 民 生 委 員	25
徳 島 市 立 高 等 学 校	43	羽ノ浦第3児童クラブ	37
徳 島 文 理 大 学 薬 学 部	48	あいずみスポーツクラブ	25
芝 田 小 学 校	15	鳴 門 渦 潮 高 等 学 校	60
徳 島 科 学 技 術 高 等 学 校	22	徳 島 県 歯 科 医 師 会	37
宮 井 小 学 校	12	羽ノ浦第1児童クラブ	50
南 井 上 小 学 校	28	三好市社会福祉協議会井川支所	100
ひ の み ね 支 援 学 校	50	平 島 児 童 ク ラ ブ	25
八 万 小 学 校	45	四 国 大 学 生 活 科 学 部	15
北 島 北 小 学 校	30	徳 島 県 庁 職 員 厚 生 課	30
上 勝 小 学 校	35	徳 島 県 防 災 対 策 推 進 課	10
上 勝 中 学 校	34	徳 島 県 労 働 者 福 祉 協 議 会	30
板 野 東 小 学 校	92	飯 尾 敷 地 小 学 校	350
王 地 小 学 校	46	大 俣 小 学 校	35
徳 島 名 西 警 察 署	50	小 松 島 西 高 等 学 校	26
徳島大学人と地域共創センター	15	小 松 島 中 学 校	141
鳴 門 高 等 学 校	80	吉野川市地区赤十字奉仕団	35
ネ オ ビ エ ン ト 株 式 会 社	20	シ ル バ ー 大 学 校	14
南 小 松 島 小 学 校	70	鳴 門 高 等 学 校	50
小 松 島 警 察 署	20	西 郷 自 主 防 災 会	84
つるぎ町社会福祉協議会	15	三好市社会福祉協議会西祖谷支所	30
長 生 小 学 校	17	千 年 の 森 ふ れ あ い 館	10
平 島 小 学 校	40	渭 北 自 主 防 災 会	219
那 賀 川 社 会 福 祉 会 館	25	徳 島 県 弓 道 連 盟	23
吉 野 中 学 校	133	鳴門市地区赤十字奉仕団鳴門西分団	134
城 南 高 等 学 校	100	中 央 自 動 車 株 式 会 社	50
鴨 島 東 中 学 校	50	入 田 学 童 保 育 ク ラ ブ	11
佐 那 河 内 小 ・ 中 学 校	73	神 領 小 学 校	15
富 岡 小 学 校	30	阿南市地区赤十字奉仕団羽ノ浦分団	30
神 山 中 学 校	14	土 成 中 学 校	72
徳 島 県 庁 職 員 厚 生 課	17	青少年赤十字高校生協議会	31
青少年赤十字中学生メンバー	15	入 田 ま ち づ くり 協 議 会	30
青少年赤十字小学生メンバー	40	徳 島 市 立 高 等 学 校	300
加 茂 名 自 主 防 災 連 合 会	29	シルバー大学校東みよし校	30
小 松 島 中 学 校	20	富 田 小 学 校	21
伊 座 利 校	23	上 勝 町 社 会 福 祉 協 議 会	39
沖 洲 小 学 校	40	計 89 回	4,486

オ. 短期講習（オンライン講習） (人)

開催日	対 象 ・ 主 催 等	受講者数	開催日	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
6月6日	橘 小 学 校	15	6月20日	助 任 小 学 校	41
	津 乃 峰 小 学 校	10		相 生 小 学 校	15
	学 島 小 学 校	11		辻 小 学 校	12
	岩 脇 小 学 校	13		城 東 小 学 校	25
	横 見 小 学 校	10		市 立 川 島 中 学 校	11
	新 野 東 小 学 校	7		山 口 小 学 校	22
	宝 田 小 学 校	16		阿 南 支 援 学 校	24
6月13日	立 江 小 学 校	14	計 4 回 (16校)		250
	下 名 小 学 校	4			

② 救急法指導員数

職 員	4 9 名	計 1 1 3 名
ボ ラ ン テ ィ ア 指 導 員	6 4 名	

③ 赤十字 AED の設置状況 (令和7年3月31日現在)

No.	地区・分区名	設 置 施 設 名	No.	地区・分区名	設 置 施 設 名
1	徳 島 市	日本赤十字社徳島県支部事務局	21	鳴 門 市	鳴 門 市 役 所
2		徳 島 市 役 所	22		鳴門市健康福祉交流センター
3		阿 波 お ど り 会 館	23	小松島市	小 松 島 市 役 所
4		内町コミュニティセンター	24	阿 南 市	阿 南 市 役 所
5		西富田コミュニティセンター	25		つ ば き 会 館
6		東富田コミュニティセンター	26		阿 南 市 文 化 会 館
7		昭和コミュニティセンター	27		阿南市情報文化センター
8		渭東コミュニティセンター	28		長 生 隣 保 館
9		渭北コミュニティセンター	29		福 井 総 合 セ ン タ ー
10		佐古コミュニティセンター	30		伊 島 診 療 所
11		沖洲コミュニティセンター	31		阿 南 ひ ま わ り 会 館
12		加茂コミュニティセンター	32		加 茂 谷 総 合 セ ン タ ー
13		八万中央コミュニティセンター	33		本 庄 公 会 堂
14		勝占中部コミュニティセンター	34		南部総合県民局阿南庁舎
15		勝占東部コミュニティセンター	35		南部総合県民局阿南保健所庁舎
16		方 上 公 民 館	36	吉野川市	吉 野 川 市 役 所
17		多家良中央コミュニティセンター	37		吉 野 川 市 役 所
18		応神コミュニティセンター	38	美 馬 市	美馬市地域交流センターミライズ
19		南井上コミュニティセンター	39		美 馬 市 社 会 福 祉 協 議 会
20		東 部 保 健 福 祉 局	40		西 部 総 合 県 民 局 美 馬 庁 舎

No.	地区・分区名	設 置 施 設 名	No.	地区・分区名	設 置 施 設 名
41	阿 波 市	阿 波 市 役 所	59	藍 住 町	藍 住 町 役 場
42		阿 波 市 役 所 阿 波 支 所	60		藍 住 町 保 健 セ ン タ ー
43		阿波市交流防災拠点施設「アエルワ」	61	板 野 町	板 野 町 民 セ ン タ ー
44		吉 野 保 健 セ ン タ ー	62	上 板 町	上 板 町 老 人 福 祉 セ ン タ ー
45		土 成 保 健 セ ン タ ー	63	那 賀 町	南 部 総 合 県 民 局 那 賀 庁 舎
46		阿 波 市 土 成 支 所	64	美 波 町	美 波 町 役 場
47	三 好 市	三 好 市 総 合 体 育 館	65		道 の 駅 ひ わ さ
48		山 城 公 民 館	66	牟 岐 町	南 部 総 合 県 民 局 美 波 庁 舎
49		井川町ふるさと交流センター	67		牟 岐 町 役 場
50		三 好 市 西 祖 谷 総 合 支 所	68	海 陽 町	海陽町デイサービスセンターさつき荘
51		三好市三野老人福祉センター	69		海 陽 町 役 場 海 部 庁 舎
52		西部総合県民局三好庁舎	70	つるぎ町	海 陽 町 役 場 宍 喰 庁 舎
53	勝 浦 町	勝 浦 町 役 場	71		つるぎ町役場一字支所
54	上 勝 町	上 勝 町 役 場	72	東みよし町	つるぎ町就業改善センター
55	佐那河内村	佐那河内村社会福祉協議会	73		東 み よ し 町 役 場
56	石 井 町	石 井 町 中 央 公 民 館	74		東みよし町老人福祉センター
57		石 井 町 社 会 福 祉 協 議 会	75		東 み よ し 町 役 場 三 好 庁 舎
58	松 茂 町	松 茂 町 役 場			

④ AED 管理担当者研修会の開催

AED の一般使用が認められて20年の節目にあたり、赤十字 AED を設置している施設の管理担当者や地区・分区の担当者に、AED の日常点検の方法や管理方法、AED の使用方法を中心とした一次救命処置に関する研修会を実施した。



AED の電極パッドの交換方法を確認する参加者

- ア. 開催日 令和6年9月9日（月）
- イ. 場 所 日本赤十字社徳島県支部事務局
- ウ. 参加者 赤十字 AED 設置施設管理担当者及び地区・分区
赤十字担当者 33名
- エ. 内 容 ・ AED の一般使用20年について
・ AED の取り扱い及び管理方法について
・ 心肺蘇生と AED を用いた一次救命処置

(2) 水上安全法

水の事故から命を守るための泳ぎの基本や自己保全、事故防止、また万一、事故が発生した際の救助方法や応急手当の方法についての知識や技術を普及した。



溺者の救助法を学ぶ水上安全法

ア. 救助員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日 本 赤 十 字 社 徳 島 県 支 部 一 般 対 象	10	10

イ. 短期講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数
北 島 北 小 学 校	55
海上自衛隊徳島教育航空群	50
徳 島 県 警 察 学 校	33
計 3 回	138

① 水上安全法指導員数

職 員	1 名	計 20 名
ボランティア指導員	19 名	

(3) 健康生活支援講習

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、家庭での自立に向けた介護の方法や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の普及を図った。

また、災害時における高齢者の支援方法を中心とした防災講話や座ってできる健康体操等、実技を交えた健康生活支援講習を実施した。

① 講習実施状況

ア. 支援員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
徳 島 赤 十 字 病 院	35	35
徳 島 赤 十 字 ひ の み ね 医 療 療 育 セ ン タ ー	8	8
日 本 赤 十 字 社 徳 島 県 支 部	5	5

イ. 短期講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
三好市社会福祉協議会	15	徳島県老人クラブ連合会	30
吉野川市川島婦人会	30	鳴門市北灘公民館	20
徳島県老人クラブ連合会	30	羽ノ浦第3児童クラブ	33
徳島県老人クラブ連合会	30	計7回	188

② 健康生活支援講習指導員数

職 員	23名	計 33名
ボランティア指導員	10名	

(4) 幼児安全法

乳幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、また、かかりやすい病気と発熱・けいれんなどの症状に対する手当などの知識と技術の普及を図るのが幼児安全法講習である。

乳幼児の胸骨圧迫や AED の使用方法を中心とした一次救命処置の実技講習を保育所や幼稚園を中心に行い、幼児安全法の普及に努めた。



乳児の一次救命処置を学ぶ受講者

① 講習実施状況

ア. 支援員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部 一般対象	3	3
徳島赤十字ひのみね医療療育センター	10	10
徳島赤十字病院 職員対象	34	34
計3回	47	47

イ. 短期講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
鳴門教育大学附属幼稚園	9	徳島ファミリー・サポート・センター	44
みどり保育園	17	徳島ファミリー・サポート・センター	38
横須保育園	23	徳島ファミリー・サポート・センター	22
県前保育園	10	福島幼稚園	10

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
徳 島 県 教 育 委 員 会	15	津 田 保 育 所	16
み つ ぼ し こ ど も 園	14	今 津 こ ど も セ ン タ ー	14
み の り 認 定 こ ど も 園	33	吉野川市子育て支援センターちびっこプラザ	23
こども家庭支援センターひかり	8	み ず ほ 保 育 園	20
お お ぎ 認 定 こ ど も 園	20	さ か の 認 定 こ ど も 園	21
鴨 島 児 童 館	300	小松島健祥会認定こども園	24
沖浜シーズ認定こども園	10	計 22 回	708
田宮シーズ認定こども園	17		

② 幼児安全法指導員数

職 員	29名	計 57名
ボランティア指導員	28名	

4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町村ごとに組織され、地域に根ざした活動を行う「地域赤十字奉仕団」と社会人や学生により組織されている「青年赤十字奉仕団」、また特定の資格や技能、知識等を活かした活動を行う「特殊赤十字奉仕団」で組織されている。

地域や社会のニーズに対応した奉仕団活動を展開し、活動の見える化を図るとともに、若い世代への活動参画を促進し、奉仕団活動の充実・強化を図った。

種別		区 分	団 数 (団)	団 員 数 (人)		
				男	女	計
地 域 赤 十 字 奉 仕 団			23	1,420	25,963	27,383
青 年 赤 十 字 奉 仕 団	青年赤十字奉仕団		1	17	13	30
	学生赤十字奉仕団		2	19	28	47
	計		3	36	41	77
特 殊 赤 十 字 奉 仕 団	赤十字救護救援奉仕団		1	36	19	55
	赤十字救急法奉仕団		1	34	79	113
	赤十字水上安全法奉仕団		1	17	3	20
	青少年赤十字賛助奉仕団		1	24	7	31
	赤十字看護奉仕団		1	2	82	84
	赤十字アマチュア無線奉仕団		1	63	4	67
	赤十字船舶奉仕団		1	33	1	34
	赤十字バイク奉仕団		1	71	5	76
計			8	280	200	480
合 計			34	1,736	26,204	27,940

(1) 地域赤十字奉仕団

各市町村の地域赤十字奉仕団活動の充実・強化を図るために、「モデル奉仕団の指定」等を行い、地域に根ざした奉仕活動を行うとともに、美化活動等を通して心豊かな地域づくりや地域福祉に貢献した。

また、奉仕団組織の強化を図るために、奉仕団活動の紹介と団員募集のチラシ等を作成し、各地域で積極的な広報活動を行い、奉仕団員の増強と活動の活性化に努めた。



奉仕団ごとに作成したオリジナルの募集チラシ

① 主な奉仕活動

- ア 会員増強に関する活動
- イ 災害救護に関する活動
- ウ 青少年赤十字の普及・育成に関する活動
- エ 献血推進に関する活動
- オ 赤十字の講習等の普及活動
- カ 赤十字病院や施設における奉仕活動
- キ 老人や障がい者の援助活動
- ク 地域の環境美化活動
- ケ 子育て支援活動

② 会 議

開催年月日	名 称	備 考
令和6年 5月30日～5月31日	赤十字奉仕団中央委員会	本 社

③ 研 修 会

開催年月日	名 称	備 考
令和6年 10月17日～10月18日	中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会	徳 島 県
令和7年2月18日	地 域 赤 十 字 奉 仕 団 研 修 会	徳 島 市

④ モデル奉仕団の指定

奉仕団活動の充実と活性化を図るため、令和6年度の新規5団と2年目の5団は、地域に根ざした様々な活動を行った。

ア 令和5年度～令和6年度指定（2年目5団）

地 区 名	奉 仕 団 名
徳 島 市	徳島市地区赤十字奉仕団加茂分団
小 松 島 市	小松島市地区赤十字奉仕団新開分団
吉 野 川 市	吉野川市地区赤十字奉仕団鴨島(知恵島)分団
吉 野 川 市	吉野川市地区赤十字奉仕団山川(川田中部)分団
南 部 地 区	南部地区美波町赤十字奉仕団

イ 令和6年度～令和7年度指定（1年目5団）

地 区 名	奉 仕 団 名
徳 島 市	徳島市地区赤十字奉仕団応神分団
鳴 門 市	鳴門市地区赤十字奉仕団川東分団
阿 南 市	阿南市地区赤十字奉仕団羽ノ浦分団
三 好 市	三好市地区赤十字奉仕団三野分団
東 部 地 区	東部地区北島町赤十字奉仕団



段ボールベッド組立訓練



地域の美化活動



炊き出し訓練



子どもたちへの学習支援



福祉体験学習支援

⑤ 未来を担う青少年等への「人道のこころ」の普及

第一次世界大戦時に板東俘虜収容所で展開された人道的な史実を描いた赤十字人道紙芝居「ばんどうのコスモス」を活用した人道学習を、青少年赤十字を中心に実施し、未来を担う青少年の心の醸成と「人道のこころ」の普及を図った。

なお、紙芝居の上演状況は次のとおりである。



ドイツ館を訪れた青少年赤十字メンバーに紙芝居を披露する地域赤十字奉仕団

実 施 内 容	実施回数(回)	参加者数(名)
小学校や地域等での上演活動	1	9
鳴門市内の小学校に対する人道学習支援活動	1	18
県外の赤十字関係団体に対する上演活動	1	16
合 計	3	43

(2) 青年赤十字奉仕団

若い力を集結して各種奉仕活動を展開するために、当支部や中国四国ブロック主催の協議会・研修会に参加するとともに、献血キャンペーンや学内献血、「海外たすけあい」街頭募金活動等を実施した。



炊き出し訓練を行う青年赤十字奉仕団

① 会議及び研修会等

開催年月日	行 事 名	場 所 等
令和6年4月20日	徳島県青年赤十字奉仕団総会及び研修会	支部事務局
5月11日	青年赤十字奉仕団全国協議会（第1回） 第1回中国四国学生献血推進協議会代表委員会	W E B 開催
6月8日～9日	第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	徳島市ビックセンター
7月27日	第2回中国四国学生献血推進協議会代表委員会	W E B 開催
9月7日～8日	第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会	愛 媛 県
10月19日～20日	中国四国学生献血推進協議会研修会	香 川 県
令和7年1月18日	青年赤十字奉仕団全国協議会（第2回）	W E B 開催
3月8日	第3回中国四国学生献血推進協議会代表委員会	W E B 開催
3月18日	徳 島 県 献 血 推 進 協 議 会	徳 島 県 庁
3月28日	徳 島 県 学 生 赤 十 字 奉 仕 団 総 会	W E B 開催

② 主要奉仕活動

開催年月日	行 事 名	備 考
令和6年5月12日	シャレンで！献血キャンペーン	ポカリスエットスタジアム
7月14日	中国四国学生献血統一キャンペーン	ゆめタウン徳島
7月15日、20日 8月10日～11日	親子で楽しくけんけつ教室2024	血液センター
10月20日	藍住町防災イベント	藍住町体育館

開催年月日	行 事 名	備 考
11月17日	徳島県高等学校青少年赤十字協議会秋期学習会	とくぎんトモニプラザ
12月22日	全国学生クリスマス献血キャンペーン2024	ゆめタウン徳島
令和7年1月12日	はたちの献血キャンペーン	ゆめタウン徳島
通年	学内献血	四国大学、徳島大学常三島キャンパス

(3) 特殊赤十字奉仕団

各特殊赤十字奉仕団が、それぞれの専門的な技術と能力を活かした活動を展開した。



車いす体験のサポートを行う
赤十字看護奉仕団員

① 会議及び研修等

開催年月日	行 事 名	備 考
令和6年4月27日	救 急 法 奉 仕 団 総 会 及 び 研 修 会	中央テクノスクール
5月22日	青 少 年 赤 十 字 賛 助 奉 仕 団 総 会	支部事務局
6月14日	水 上 安 全 法 奉 仕 団 総 会 及 び 研 修 会	支部事務局
9月19日	看 護 奉 仕 団 総 会 及 び 研 修 会	支部事務局

5 青少年赤十字

青少年赤十字（JRC）は、児童・生徒が赤十字精神に基づき、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にするとともに、地域社会、国家・世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としている。

未来を担う青少年赤十字リーダーを養成するための「リーダーシップ・トレーニング・センター」を開催するとともに、加盟校を対象とした福祉体験学習を実施し、青少年赤十字活動の充実と活性化を図った。

(1) 青少年赤十字の加盟促進等

「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標掲げる青少年赤十字の更なる普及を図るため、青少年赤十字未加盟校への加盟を促進した。

① 徳島県の加盟校数、加盟メンバー数

校 種 別	加盟校数 (校)		加盟メンバー数 (名)					
	令和6年度	令和5年度	男		女		計	
			令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度
幼 稚 園	28	28	782	868	758	846	1,540	1,714
小 学 校	162	164	15,866	16,661	14,813	15,687	30,679	32,348
中 学 校	82	84	8,552	8,352	8,126	8,021	16,678	16,373
高等学校	35	35	2,043	1,075	2,218	959	4,261	2,034
特別支援 学 校	12	12	377	569	171	235	548	804
計	319	323	27,620	27,525	26,086	25,748	53,706	53,273

② 令和6年度青少年赤十字加盟校一覧表

令和7年3月31日現在

区分 郡市	幼稚園等	小学校	中学校
徳島市	鳴教大附属・八万・上八万・助任・千松・沖浜シーズ・国府・入田・福島・みのり認定こども園・西富田こども園	内町・新町・佐古・富田・福島・城東・助任・津田・昭和・沖州・加茂名・加茂名南・八万・八万南・千松・大松・論田・方上・宮井・渋野・不動・上八万・一宮・入田・川内北・川内南・応神・国府・南井上・北井上・鳴教大附属・徳島文理	徳島・城西・富田・城東・津田・加茂名・八万・南部・不動・上八万・入田・川内・応神・国府・北井上・鳴教大附属・徳島文理・城ノ内・しらさぎ
鳴門市		撫養・林崎・桑島・鳴門市第一・里浦・鳴門西・明神・大津西・堀江北・堀江南・板東・黒崎	鳴門市第一・鳴門市第二・鳴門・瀬戸・大麻・大麻広塚分校
小松島市		小松島・南小松島・北小松島・千代・児安・芝田・立江・櫛渕・坂野・和田島・新開	小松島・小松島南
阿南市	大野・富岡・加茂谷・横見・見能林	中野島・横見・富岡・宝田・大野・長生・見能林・津乃峰・桑野・山口・吉井・橘・福井・椿・新野・新野東・今津・平島・羽ノ浦・岩脇・椿泊	阿南・阿南第一・阿南第二・加茂谷・福井・椿町・那賀川・羽ノ浦・富岡東・新野
吉野川市		牛島・森山・飯尾敷地・知恵島・川島・学島・山瀬・鴨島・高越・西麻植	鴨島東・鴨島第一・川島・県立川島・山川
阿波市		御所・土成・久勝・伊沢・林・一条・市場・八幡・大俣・柿原	吉野・土成・市場・阿波
美馬市	木屋平	江原南・江原北・脇町・岩倉・美馬・三島・穴吹・木屋平	江原・脇町・美馬・三島・穴吹・岩倉
三好市		王地・芝生・箸蔵・池田・白地・馬路・三縄・山城・下名・辻・西井川・櫛生・東祖谷	三野・池田・山城・井川・東祖谷
勝浦郡		生比奈・横瀬・上勝	勝浦・上勝
名東郡		佐那河内	佐那河内
名西郡	高原・浦庄・藍畑・高川原・石井	石井・浦庄・藍畑・広野・神領・高川原・高原	石井・高浦・神山

区分 郡市	幼稚園等	小学校	中学校
那賀郡		鷺敷・相生・木頭	鷺敷・相生・木頭
海部郡		牟岐・日和佐・伊座利・海部・由岐・海南・穴喰	牟岐・日和佐・由岐・海陽・穴喰・由岐伊座利分校
板野郡	北島・神宅・高志・板野東・板野西・板野南	長原・松茂・喜来・北島北・北島・北島南・藍住北・藍住南・藍住西・藍住東・板野東・板野東大坂分校・板野西・板野南・神宅・東光・松島・高志	松茂・北島・藍住東・藍住・板野・上板
美馬郡		半田・貞光	半田・貞光
三好郡		足代・昼間・加茂・三庄	三加茂・三好

幼稚園28園

小学校計162校

中学校82校

高等学校	城東・城南・城北・城ノ内・徳島北・徳島市立・城西・城西神山分校・科学技術・徳島商業・徳島文理・徳島中央・小松島・小松島西・小松島西勝浦校・富岡東・富岡東羽ノ浦校・富岡西・阿南光・那賀・海部・鳴門・鳴門渦潮・板野・名西・川島・阿波・阿波西・穴吹・脇町・つるぎ・池田・池田三好校・池田辻校・吉野川	35校
特別支援校	聴覚支援・視覚支援・国府支援・池田支援・池田支援美馬分校・鴨島支援・ひのみね・阿南支援・鳴教大附属特別支援・板野支援・みなと・阿南支援ひわさ分校	12校

合計 319校

(2) 会議及び研修会

① 本社主催

開催年月日	行 事 名	場 所
令和6年5月31日 ～ 6月2日	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会	国立オリンピック記念 青少年総合センター
7月12日	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	日本赤十字社本社
令和7年1月10日	指導主事対象青少年赤十字研究会	日本赤十字社本社
3月22日～26日	青少年赤十字スタディー・センター	山 梨 県

② 中・四国ブロック主催

開催年月日	行 事 名	場 所
令和6年 11月28日～29日	第5ブロック青少年赤十字指導者協議会長 並びに青少年赤十字事務担当者会議	鳥 取 県

③ 支部及び指導者協議会主催

開催年月日	行 事 名	場 所
令和6年5月22日	青少年赤十字指導者協議会総会	支部事務局
7月3日	リーダーシップ・トレーニング・センター事前打合会（中学校の部）	支部事務局

開催年月日	行 事 名	場 所
7月4日	リーダーシップ・トレーニング・センター事前打合せ（高等学校の部）	支部事務局
7月8日	リーダーシップ・トレーニング・センター事前打合せ（小学校の部）	板野東小学校
令和7年3月18日	青少年赤十字徳島県指導者協議会役員・常任幹事会	支部事務局

④ 高等学校 JRC 協議会主催行事

開催年月日	行 事 名	場 所 等
令和6年6月22日	徳島県高等学校青少年赤十字協議会総会	W E B 開催
11月17日	徳島県高等学校青少年赤十字協議会秋期学習会	とくぎんトモニプラザ
令和7年2月11日	徳島県高等学校青少年赤十字協議会冬期学習会	支部事務局



献血の呼びかけ活動を行う様子



心肺蘇生と AED の使い方を学ぶ様子

⑤ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

赤十字や青少年赤十字に関する知識や技術を学ぶことにより、自主・自立の精神を身につけたリーダーを養成することを目的として実施した。小学校の部は3年ぶりの開催となった。

ア 月日・参加状況

校 種	月 日	参加校数 (校)	参加メンバー (名)	指導者 (名)	特別参加指導者 (名)
小 学 校	令和6年 8月8日～9日	10	28	12	5
中 学 校	7月25日～26日	4	11	4	3
高 等 学 校	8月1日～2日	8	20	3	9



炊き出し訓練の様子（小学校の部）



ワークショップの様子（中学校の部）



避難所体験ゲームの様子（高等学校の部）

(3) 福祉体験学習の実施

車いす操作や高齢者疑似体験装具の着用、アイマスクを着用しての歩行者体験を通じて、高齢者や障がい者の方々の身体状態を体験し、その人の気持ちを考えることにより「思いやり」や「たすけ合い」の心を育むことを目的とした福祉体験学習を青少年赤十字加盟校で実施した。



高齢者疑似体験を行う青少年赤十字メンバー

① 福祉体験学習実施状況

No.	実施日	学校名	参加者数	学 習 内 容
1	10月1日	津田中学校	78	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
2	10月2日	加茂名中学校	167	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
3	10月3日	国府小学校	115	高齢者疑似体験・アイマスク
4	10月25日	論田小学校	55	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
5	11月1日	八万小学校	93	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
6	11月22日	新開小学校	43	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
7	11月25日	方上小学校	24	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
合 計			575	

(4) 書き損じはがき収集活動実施状況

第30回受付分	受 付 枚 数	9 9 3 枚
	換 金 額	5 8 , 5 9 4 円
	協 力 校	板野東幼稚園、神宅幼稚園、加茂名小学校、鳴門市第一小学校、横見小学校、鴨島小学校、知恵島小学校、市場小学校、王地小学校、佐那河内中学校、鳴門教育大学附属特別支援学校、ひのみね支援学校、鴨島支援学校

(5) 青少年赤十字活動資金（1円玉募金）

受 付 件 数	1 3 件
募 金 額	4 , 4 1 9 円
協 力 校	西富田こども園、加茂名小学校、応神小学校、山口小学校、徳島中学校、城西中学校、鳴門教育大学附属中学校、福井中学校、高浦中学校、城西高等学校、板野高等学校、鳴門教育大学附属特別支援学校、鴨島支援学校

※ エコキャップ等換金分を含む

(6) 中古本等買い取りプログラム「キモチと」

換 金 物 品 数	2 0 2 点
換 金 額	8 , 3 0 9 円
協 力 校	徳島北高等学校、吉野川高等学校、鳴門教育大学附属特別支援学校

(7) 青少年赤十字優良児童・生徒表彰状況

校 種 別	学 校 数 (校)	メ ン バ ー 数 (名)
小 学 校	2	4
中 学 校	4	8
高 等 学 校	1 4	2 1
特 別 支 援 学 校	1	2
計	2 1	3 5

6 国際活動

世界各地で多発する紛争や自然災害等による犠牲者・被災者等を支援するために、日本赤十字社本社や中国・四国各県支部等と連携した国際活動を展開し、国境や民族、宗教を越えた人道的活動を推進した。

(1) 各種災害救援金及び人道危機救援金の募集

台湾での地震災害をはじめ、ウクライナやイスラエル・ガザで続いている人道危機に対して、被災者や避難者の支援を行うことを目的として、救援金の募集を行った。

なお、救援金の受付状況は、次のとおりである。

① 海外救援金の受付状況

区 分	件 数 (件)	受付額 (円)
アフガニスタン人道危機救援金	1	20,000
ウクライナ人道危機救援金	14	570,670
イスラエル・ガザ人道危機救援金	13	140,856
台湾東部沖地震救援金	59	74,714,400
レバノン人道危機救援金	2	40,000
計	89	75,485,926

(2) アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援

アジア・大洋州地域では、洪水やサイクロン災害による被害が多く、災害時の給水・衛生活動のニーズが継続している状況にある。

当支部では、本社や中国・四国各県支部と連携して、浄水器やタンク、水質検査キット、簡易トイレ用資材等をセットにした「給水・衛生キット」をアジア・大洋州地域に配備する事業の支援を行った。



携帯型浄水装置の組み立てを行う
バングラデシュ赤新月社のボランティア

これにより、バングラデシュでの豪雨災害では、訓練を受けたスタッフ等により給水ユニットが迅速に配備され、被害の大きかった地域を中心に安全な飲料水の配給が行われた。

(3) 「海外たすけあい」キャンペーンの実施

世界各地で多発する自然災害や地域紛争等による犠牲者の緊急救援、及び開発途上国赤十字社の行う保健衛生、災害対策事業等の開発協力を行うために、12月1日から25日までの間、NHKとの共催により海外たすけあい募金キャンペーンを実施した。

令和6年度「NHK海外たすけあい」の実績表

区分	件数(件)	金額(円)	(前年度)(円)	前年比(%)	区分	件数(件)	金額(円)	(前年度)(円)	前年比(%)
本 社	14,907	225,290,406	267,129,158	84.3	滋 賀 県	1,299	5,561,486	6,808,480	81.7
北 海 道	2,549	15,021,015	16,223,792	92.6	京 都 府	1,671	9,905,038	10,771,240	92.0
青 森 県	293	3,015,530	3,367,509	89.5	大 阪 府	2,551	26,609,518	39,834,999	66.8
岩 手 県	957	5,780,896	7,154,612	80.8	兵 庫 県	2,397	18,565,152	23,983,018	77.4
宮 城 県	768	8,136,667	15,419,650	52.8	奈 良 県	569	5,454,529	7,422,994	73.5
秋 田 県	425	2,959,621	3,900,008	75.9	和歌山県	350	5,154,012	5,590,014	92.2
山 形 県	455	3,375,862	2,971,980	113.6	鳥 取 県	198	2,301,270	2,945,104	78.1
福 島 県	952	10,769,608	10,723,821	100.4	島 根 県	993	3,212,747	3,247,969	98.9
茨 城 県	1,213	8,763,639	9,047,987	96.9	岡 山 県	766	7,836,325	8,934,286	87.7
栃 木 県	2,968	6,353,507	9,562,828	66.4	広 島 県	2,214	15,938,517	17,125,782	93.1
群 馬 県	457	5,644,202	12,914,730	43.7	山 口 県	1,317	6,112,631	13,701,468	44.6
埼 玉 県	1,735	15,976,254	19,390,551	82.4	徳 島 県	304	3,336,575	5,495,499	60.7
千 葉 県	1,943	19,888,193	26,021,347	76.4	香 川 県	844	4,458,321	5,445,431	81.9
東 京 都	3,375	55,066,184	71,735,329	76.8	愛 媛 県	1,484	12,517,969	8,149,394	153.6
神奈川県	3,136	30,707,959	37,604,515	81.7	高 知 県	660	2,890,231	4,054,102	71.3
新 潟 県	1,718	7,750,051	9,025,510	85.9	福 岡 県	2,895	15,455,653	16,350,353	94.5
富 山 県	928	11,461,828	11,460,695	100.0	佐 賀 県	345	4,739,130	4,983,788	95.1
石 川 県	759	4,570,926	5,855,177	78.1	長 崎 県	585	4,867,800	4,158,911	117.0
福 井 県	735	6,771,305	6,829,098	99.2	熊 本 県	2,268	6,295,862	8,469,818	74.3
山 梨 県	572	5,124,318	5,812,970	88.2	大 分 県	1,209	6,004,974	5,878,345	102.2
長 野 県	2,364	12,068,976	13,023,052	92.7	宮 崎 県	281	2,503,677	2,905,866	86.2
岐 阜 県	937	14,095,859	11,973,961	117.7	鹿 児 島 県	662	4,456,948	4,642,631	96.0
静 岡 県	1,052	18,284,745	15,379,246	118.9	沖 縄 県	272	4,058,709	4,421,762	91.8
愛 知 県	5,373	41,291,171	46,033,243	89.7	合 計	78,462	725,941,418	863,841,244	84.0
三 重 県	1,757	9,535,622	9,959,221	95.7					

(参 考)

最近における「NHK海外たすけあい」の最終実績

平成28年度（第34回）635,829,119円

平成29年度（第35回）704,476,254円

平成30年度（第36回）756,095,488円

令和元年度（第37回）656,561,824円

令和2年度（第38回）750,388,183円

令和3年度（第39回）720,882,194円

令和4年度（第40回）787,088,711円

令和5年度（第41回）863,841,244円

Ⅳ 一般会計決算状況

1 総 括

区 分	当初予算額	補正予算額	計	決 算 額	予算額に比し増減
歳 入	219,809,000 ^円	75,936,000 ^円	295,745,000 ^円	290,311,397 ^円	△ 5,433,603 ^円
歳 出	219,809,000	75,936,000	295,745,000	247,627,114	△ 48,117,886
歳入歳出差引繰越額			42,684,283円		

(1) 歳 入

科 目	令和 6 年度 決 算 額	令和 5 年度 決 算 額	増 減	対前年度比
1 支 部 収 入	290,311,397 ^円	243,725,934 ^円	46,585,463 ^円	119.1%
(1) 社 資 収 入	221,906,579	171,078,439	50,828,140	129.7
(2) 委 託 金 等 収 入	2,747,633	0	2,747,633	－
(3) 補助金及び交付金収入	11,002,862	10,291,350	711,512	106.9
(4) 繰 入 金 収 入	187,500	1,197,899	△1,010,399	15.7
(5) 資 産 収 入	380,000	0	380,000	－
(6) 雑 収 入	1,081,684	1,011,139	70,545	107.0
(7) 前 年 度 繰 越 金	53,005,139	60,147,107	△7,141,968	88.1

(小数第 2 位四捨五入)

(2) 歳 出

科 目	令和 6 年度 決 算 額	令和 5 年度 決 算 額	増 減	対前年度比
1 支 部 費	247,627,114 ^円	190,720,795 ^円	56,906,319 ^円	129.8%
(1) 災 害 救 護 事 業 費	13,228,058	13,387,570	△159,512	98.8
(2) 社 会 活 動 費	25,651,782	24,399,142	1,252,640	105.1
(3) 国 際 活 動 費	757,882	1,155,966	△398,084	65.6
(4) 指定事業地方振興費	0	397,177	△397,177	－
(5) 地区分区交付金支出	9,910,022	10,127,869	△217,847	97.8
(6) 社 業 振 興 費	30,283,641	27,626,209	2,657,432	109.6
(7) 基盤整備交付金・補助金支出	1,250,000	7,250,000	△6,000,000	17.2
(8) 積 立 金 支 出	103,032,870	46,987,306	56,045,564	219.3
(9) 総 務 管 理 費	26,745,548	30,674,644	△3,929,096	87.2
(10) 資産取得及び資産管理費	3,781,325	3,412,723	368,602	110.8
(11) 本 社 送 納 金 支 出	32,985,986	25,302,189	7,683,797	130.4

(小数第 2 位四捨五入)

2 社会福祉施設特別会計（本部会計拠点区分）決算状況

(1) 総 括

区 分	当初予算額	補正予算額	計	決 算 額	予算額に比し増減
収 入	0 ^円	0 ^円	0 ^円	0 ^円	0 ^円

区 分	当初予算額	補正予算額	計	決 算 額	不 用 額
支 出	0 ^円	0 ^円	0 ^円	0 ^円	0 ^円

収入支出差引額 0 円

(2) 前期末支払資金残高

前期末支払資金残高	0 ^円
-----------	----------------

Ⅱ 徳島赤十字ひのミネ医療療育センター 徳島赤十字ひのミネ医療療育センター附属支援施設

基 本 理 念

私たちは、利用される皆様と心を通わせ、

質の高い医療・福祉サービスを提供し、

豊かな生活に向けての支援を行います。

徳島赤十字ひのみね医療療育センター
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

Ⅱ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター

1 ひのみね医療療育センターの概要

(1) 沿革

年 月 日	事 項
昭和34. 5. 1	肢体不自由児施設として、徳島県立ひのみね学園（定員40名）を開設（児童福祉法第43条の3）
5. 29	病院開設許可（医療法第7条第1項）（許可病床40床）
6. 1	患者収容施設及びその他の設備の使用許可（医療法第27条）
37. 9. 17	運営事務を日本赤十字社徳島県支部に委託され、小松島赤十字病院 武田七郎院長が兼務で初代園長に就任
38. 3. 10	定員60名（許可病床60床）
40. 3. 31	定員100名（許可病床100床）
	運営事務を小松島赤十字病院から分離、日本赤十字社徳島県支部が直接管理
4. 1	加藤直則診療部長が2代目園長に就任
41. 9. 8	定員105名（許可病床105床）
42. 6. 6	名誉副総裁常陸宮、同妃殿下ご視察
44. 6. 21	重度棟（30床）母子棟（10床）を増築、定員145名（許可病床145床）
46. 3. 29	診療棟完成
8. 3	名誉副総裁皇太子、同妃殿下ご視察
52. 4. 1	在宅重度心身障害児（者）緊急保護事業（その後、事業名が短期入所事業（ショートステイ）に変更）を開始
53. 4. 1	徳島県立ひのみね整肢医療センターと改称（県条例）
54. 6. 2	創立20周年記念式典を挙
57. 1. 20	厚生大臣視察
58. 3. 30	総合援護施設第1期工事（居住棟）完成
3. 31	病院の開設許可事項の変更許可（医療法第7条第2項）（一般病床145床）
	構造設備の使用許可（医療法第27条）
4. 1	診療所（ひのみね療護園）の開設許可（医療法第7条第1項）
	徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね学園と改称（県条例）
	徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね療護園（定員50名）を開設（県条例）
59. 3. 31	総合援護施設第2期工事（診療管理棟・外構工事）完成
4. 7	落成式を挙
4. 12	小児科、歯科の診療を開始
62. 11. 24	名誉副総裁三笠宮妃殿下ご視察
平成元. 6. 15	創立30周年記念式典を挙
4. 4. 1	徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね療育園を開設（県条例）
	ひのみね学園 定員105名
	ひのみね療育園 定員40名（許可病床は併せて145床）
	ひのみね療育園において在宅重度心身障害児（者）緊急保護事業を開始（その後、事業名が短期入所事業（ショートステイ）に変更）

年 月 日	事 項
平成 5. 9. 7	名誉副総裁秋篠宮、同妃殿下ご視察
6. 4. 1	ひのみね学園 定員65名 ひのみね療育園 定員80名（許可病床は併せて145床） ひのみね療育園において重症心身障害児（者）通園事業を開始
9. 7. 24	皇太子、同妃殿下ご視察
10. 1	ひのみね療育園において障害児（者）地域療育等支援事業（その後、事業名が障害児等療育支援事業に変更）を開始
11. 3. 31	加藤直則園長退任、4月1日付で名誉園長の称号を授与
4. 1	森 舜次副園長が3代目園長に就任 ひのみね学園 定員40名 ひのみね療育園 定員100名（許可病床は併せて140床）
10. 1	ひのみね療護園において市町村障害者生活支援事業（その後、事業名が障害者相談支援事業に変更）及び重度身体障害者短期入所事業（ショートステイ）を開始
16. 4. 1	ひのみね学園 定員30名 ひのみね療育園 定員110名（許可病床は併せて140床）
18. 4. 1	徳島県から日本赤十字社徳島県支部が経営委譲を受け開設 徳島赤十字ひのみね総合療育センターと改称（ひのみね学園・ひのみね療育園・ひのみね療護園） 障害者自立支援法の施行に伴い、ひのみね学園・ひのみね療育園・ひのみね療護園において短期入所事業を新体系で開始 ひのみね療育園において発達障害児者南部圏域支援体制整備事業を開始（平成20年3月で事業終了）
19. 10. 21	森 舜次園長が逝去により退任
10. 22	阿部秀吉副園長が園長職務代理として園長業務を代行
20. 4. 1	鳴門教育大学教授 橋本俊顕氏が4代目園長に就任 内科を新設
10. 1	ひのみね療育園において発達障害児者東部圏域支援体制整備事業を開始（平成22年3月で事業終了）
21. 4. 10	ひのみね療育園において発達障害早期サポート支援事業を開始（平成24年3月で事業終了）
6. 10	創立50周年記念式典を挙行
23. 11. 15	診療棟竣工
24. 3. 15	居住棟、管理棟改修工事終了
4. 1	ひのみね療護園が障害者自立支援法に基づき障害者支援施設の指定を受ける ひのみね療育園が障害者自立支援法に基づき療養介護の指定を受ける ひのみね学園が児童福祉法に基づき医療型障害児入所施設に移行（みなし規程）
6. 1	ひのみね療育園において児童発達支援センターを開設 児童発達支援、放課後等デイサービスを開始
10. 1	ひのみね学園が児童福祉法に基づき医療型障害児入所施設の指定を受ける
25. 4. 1	神経小児科、精神科を新設

年 月 日	事 項
平成27. 3. 31 4. 1	橋本俊顕園長退任。 徳島赤十字病院第一小児科部長 中津忠則氏が5代目園長に就任 社会福祉施設の設置内容変更により、ひのみね学園、ひのみね療育園を統合して徳島赤十字ひのみね総合療育センターに、ひのみね療護園を徳島赤十字障がい者支援施設ひのみねに改称
28. 1. 1 1. 6 2. 1	重症心身障害児対象の放課後等デイサービス受入開始 児童発達支援センターの拡充のための集団活動棟竣工 集団活動棟での事業開始
30. 3. 30 4. 1	大規模災害における利用者の生活空間を2階へと移転するための居住棟改修工事竣工 県内の短期入所に対するニーズに対応するため、短期入所（併設型）の受け入れを4床へと増床し、入所定員140名、短期入所定員4名（許可病床は併せて144床）
31. 4. 1	重度の知的、身体障がいがある18歳以上の障がい者対象の生活介護「かがやき」を定員9名から20名へと拡充
令和2. 4. 1 5. 1	児童発達支援センターの重症心身障がい児対象を分離し、「ほっぷ」として事業変更し、児童発達支援センターを発達障がい児対象のみに事業変更 在宅で生活している重症心身障がい児者の嚥下障がいに対応するための「嚥下外来」を新設
3. 3. 31 4. 1 5. 1	中津忠則園長退任 徳島大学病院副院長 加藤真介氏が6代目園長に就任 リハビリテーション科を新設
5. 1. 10 4. 1	徳島県医療的ケア児等支援センターを開設（徳島県より受託） 県内の社会福祉施設の高機能化・多機能化を進めるため、徳島赤十字乳児院および徳島赤十字障がい者支援施設を徳島赤十字ひのみね総合療育センターの附属として再編し施設名称を変更 徳島赤十字ひのみね医療療育センターへと改称 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設へと改称 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院へと改称
6. 3. 31	児童発達支援センター事業を廃止

(2) 施設の概要

1) 設置運営 日本赤十字社徳島県支部

2) 事業の種類

徳島赤十字ひのみね医療療育センター

令和7年4月1日

施設名・事業所名	定数	開設年月日	現法に基づく 事業開始日
医療型障害児入所施設	140床	S34. 5. 1	H24. 4. 1
療養介護		H4. 4. 1	H24. 4. 1
短期入所（空床型）	4床	H4. 4. 1	H24. 4. 1
短期入所（併設型）		H4. 4. 1	H24. 4. 1

施設名・事業所名		定数	開設年月日	現法に基づく 事業開始日
生活介護		20名	H 4. 4. 1	H31. 4. 1
児童発達支援 放課後等デイサービス	重症心身障害対象	6名	H24. 6. 1	H24. 6. 1
障害児等療育支援事業			H 9. 10. 1	
徳島県医療的ケア児等支援センター			R 5. 1. 10	
相談支援事業 一般相談支援 特定相談支援 障害児相談支援			H11. 10. 1	H24. 4. 1

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

令和7年4月1日

施設名・事業所名		定数	開設年月日	現法に基づく 事業開始日
障害者支援施設 生活介護 施設入所支援		50名	S58. 4. 1	H24. 4. 1
短期入所（併設型）		3名	H11. 10. 1	H24. 4. 1

3) 施設の規模

ア 敷地の面積 18,177.74㎡

イ 建物の規模、構造、面積

鉄筋コンクリート造2階建 延13,753.58㎡

(内 訳)

居 住 棟 5,802.56㎡

管 理 棟 2,340.21㎡

診 療 棟 5,445.19㎡

集団活動棟 165.62㎡



航空写真

4) 定員、許可病床数

徳島赤十字ひのみね医療療育センター 144床

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設
50名

5) 診療科

小児科・神経小児科・整形外科・リハビリ

テーション科・内科・歯科・精神科



診療棟

6) 承認されている主な届出事項

障害者施設等入院基本料（10対1看護基準）
特殊疾患入院施設管理加算
強度行動障害入院医療管理加算
感染対策向上加算3
連携強化加算
サーベイランス強化加算
超重症児（者）入院診療加算・準超重症児（者）入院診療加算
看護補助加算
夜間看護体制加算
診療録管理体制加算3
データ提出加算1・3
入院時食事療養/生活療養（Ⅰ）
薬剤管理指導料
無菌薬剤処理料2
CT撮影及びMRI撮影
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
障害児（者）リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法
クラウン・ブリッジ維持管理料（歯科）
う蝕に罹患している患者の指導管理
（歯科：保険外併用療養費）
小児運動器疾患指導管理料
先天性代謝異常検査
外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
医療的ケア児（者）入院前支援加算



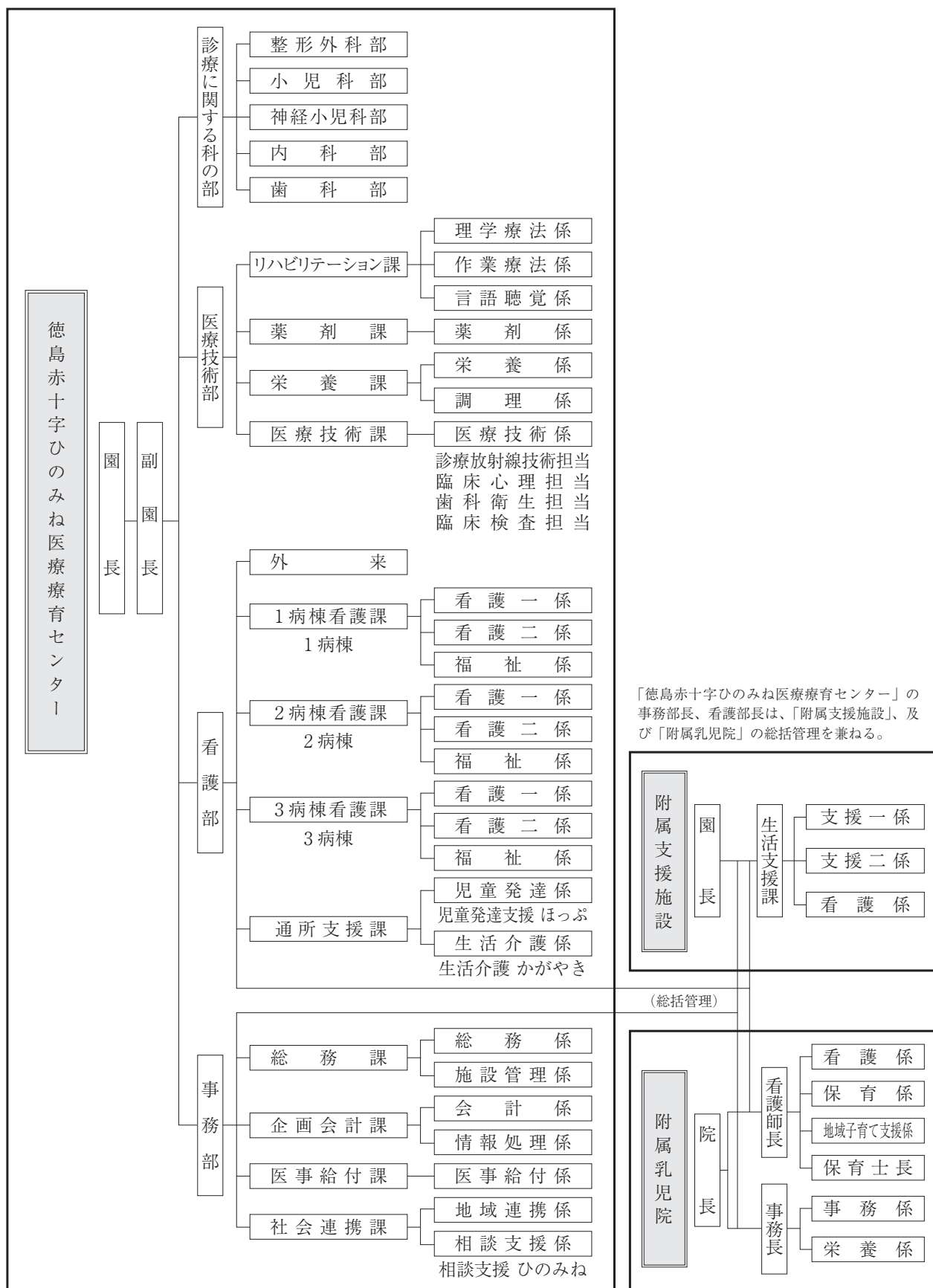
NICU後方支援6床室



集団活動棟

(3) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター 組織図

令和7年4月1日



(4) 職 員 数

(令和7年4月1日現在)

職 種	徳島赤十字ひのみね 医療療育センター	徳島赤十字ひのみね医療 療育センター附属支援施設	計	備考
医 師	11 (6)人	人	11 (6)人	
薬 剤 師	2		2	
放 射 線 技 師	1		1	
理 学 療 法 士	16 (2)		16 (2)	
作 業 療 法 士	7		7	
言 語 聴 覚 士	6		6	
歯 科 衛 生 士	1		1	
臨 床 検 査 技 師	1		1	
心 理 判 定 員	2		2	
管 理 栄 養 士	1	1	2	
調 理 師	12 (2)	1	13 (2)	
看 護 師	96 (13)	3 (1)	99 (14)	
准 看 護 師	3 (3)		3 (3)	
介 護 福 祉 士	15 (3)	19 (3)	34 (6)	
保 育 士	16 (3)	6	22 (3)	
社 会 福 祉 士	2		2	
児 童 指 導 員	2		2	
介 助 員	5 (5)	1 (1)	6 (6)	
事 務 職 員	16 (6)		16 (6)	
技 術 員	3 (1)		3 (1)	
業 務 員	3 (3)		3 (3)	
合 計	221 (47)	31 (5)	252 (52)	

※ () 内は臨時職員再掲

2 事業の実施状況

施設の基本理念である利用される方の豊かな生活に向けての質の高い医療・福祉サービスの提供を全職員が常に意識し、日々向上を図るとともに地域に融和した施設として各種行事等を通じ、多くの方々との交流に努めた。

令和5年4月1日、県内社会福祉施設の施設統合により、徳島赤十字ひのみね医療療育センターとして名称変更し、支援施設ひのみねと徳島赤十字乳児院を附属施設として再編した。複合施設の利点を生かして人的・物的資源を最大限に有効活用し、健全運営に努める。

各施設の事業概要等は次のとおりである。

徳島赤十字ひのみね医療療育センター

(1) 外来診療

1) 外来診療

外来においては、発達障害、てんかんなどの小児神経疾患や先天性股関節脱臼、先天性内反足、ペルテス病等の整形外科疾患の治療にあたる専門病院としての機能を発揮し、障がい児者の自立寄与の支援に努めた。



整形外科の外来診察

		令和6年度	令和5年度
医 科	外 来 患 者 延 数	24,720人	24,560人
	1 日 平 均	102.1	101.9
	新 規 外 来 患 者 数	511	636
歯 科	外 来 患 者 数	1,191人	1,152人
	1 日 平 均	9.0	8.7
	新 規 患 者 数	24	2

2) 乳児先天性股関節脱臼検診

市町村からの要望により医師を派遣し、乳児期の股関節脱臼の早期発見、早期治療に取り組んだ。

	令和6年度	令和5年度
延 回 数	61回	59回
派 遣 市 町 村	15市町村	15市町村
延 検 診 数	1,114人	1,223人

3) 心理相談

市町村からの要望により心理判定員を派遣し、幼児期の心理相談に取り組んだ。

	令和 6 年度	令和 5 年度
延 回 数	24回	12回
派 遣 市 町 村	2	0
関 係 機 関	1	1
延 検 診 数	126人	75人



外来ホール



小児リハビリの様子

(2) 入所（入院）施設

1) 医療型障害児入所施設

県内唯一の肢体不自由児を対象とする施設として事業を実施してきたが、児童福祉法に基づくサービス体系の移行に伴い、平成24年度より18歳未満の障がい児を対象とした医療型障害児入所施設として再編した。

手足や体幹の機能に障がいのある子ども達や重度の肢体不自由と重度の知的障がいを併せ持つ子ども達のために医療・看護・リハビリテーションの提供と入所生活の支援に努め、また呼吸管理等を必要とする超重症児及び準超重症児に対する医療的ケアの充実を図った。

なお、医療型障害児入所施設と療養介護の定員は、サービス再編に伴って一体的な運営を行っているため、それぞれの定員は定めず、併せて140名となる。

① 医療型障害児入所施設の実績

	令和 6 年度	令和 5 年度
入 所 延 数	5,367人	5,136人
1 日 平 均	14.7	14.0
入 所 児 数	0	3
退 所 児 数	2	1

2) 療養介護

重度の肢体不自由と重度の知的障がいを含む障がい児（者）のための重症心身障害児施設から、障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）に基づくサービス体系の移行に伴い、平成24年度より18歳以上の重症心身障がい者を対象とした療養介護へと再編した。利用者の状況に応じた治療・看護・入所生活の支援、また、呼吸管理等を必要とする超重症者及び準超重症者に対する医療的ケアの充実に努めた。

① 療養介護の実績

	令和6年度	令和5年度
入所延数	44,445人	45,158人
1日平均	121.8	123.4
入所者数	1	1
退所者数	4	2

3) 利用児（者）の状況

年齢別、性別調

（各年度末現在）

年齢別	性別		令和6年度	令和5年度
	男	女		
00～05	1人	0人	1人	2人
06～11	3	1	4	4
12～14	2	1	3	2
15～17	3	2	5	7
18～20	0	3	3	3
21～29	11	9	20	23
30～39	18	10	28	28
40～49	20	18	38	44
50～59	15	11	26	20
60～69	5	0	5	5
計	78	55	133	138

4) 一般入院

一般入院の受入状況は次のとおりである。

	令和6年度	令和5年度
入院延数	590人	298人
1日平均	1.6	0.8

(3) 地域を対象とした事業

1) 重症心身障がい児（者）及び障がい児を対象にした短期入所・日中一時支援事業

在宅の重症心身障がい児（者）及び障がい児の保護者が、社会的または私的理由により、一時的保護を必要とした場合の短期入所事業（宿泊を伴う利用）及び日中一時支援事業（宿泊を伴わない利用）を実施した。

① 医療型短期入所（空床型）の実績

空 床 型		令和 6 年度	令和 5 年度
短 期 入 所	実 利 用 数	5人	3人
	延 利 用 数	17	10

② 医療型短期入所（併設型）の実績

併 設 型		令和 6 年度	令和 5 年度
短 期 入 所	実 利 用 数	32人	38人
	延 利 用 数	842	629
日 中 一 時	実 利 用 数	13	9
	延 利 用 数	87	62

2) ほっぷ（児童発達支援事業所）

体調により通所が左右されやすい医療的ケア児や重症心身障がいのある児童に対して、児童発達支援（未就学児）及び放課後等デイサービス（就学児）を実施し、通所による訓練や療育を通じ、日常生活における基本的な動作の獲得や、社会生活技能及びコミュニケーション技能の獲得による集団生活への適応ができるよう支援強化を図った。

① ほっぷの実績

		令和 6 年度	令和 5 年度
児 童 発 達 支 援	実 利 用 数	97人	70人
	延 利 用 数	629人	573人
	実 施 日 数	242日	242日
	1 日 平 均	2.6人	2.4人
放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス	実 利 用 数	211人	235人
	延 利 用 数	935人	1,023人
	実 施 日 数	242日	242日
	1 日 平 均	3.9人	4.2人



感染対策した療育場面



ほっぷの療育の様子

3) 生活介護 かがやき

医療的ケアを必要とする利用者が安心して過ごせる場を提供し、日常生活動作、運動機能等に係る訓練等により、運動機能の維持・促進を行うとともに、利用者の日中活動の充実と保護者の精神的余裕の確保に努めた。

① 生活介護 かがやきの実績

	令和6年度	令和5年度
実 利 用 数	405人	380人
延 利 用 数	3,209人	3,026人
実 施 日 数	242日	243日
1 日 平 均	13.3人	12.5人



感染対策した活動の様子



桜満開のマスキングアート

4) 障害者相談支援事業（相談支援ひのみね）

南部第Ⅰサブ圏域（小松島市、阿南市、那賀町）にお住まいの障がいのある方々やご家族の地域生活を支援するため、個々のニーズと様々な社会資源の間に立って、福祉サービスの利用援助や地域で安心して自分らしく生きていくための総合的かつ継続的な支援体制を確保し、「できる」ことの応援と「できない」ことへの支援を行い、ライフステージに合わせた社会参加と自立促進を図った。

① 相談支援事業所の実績

	令和 6 年度	令和 5 年度
延 相 談 件 数	1,149件	1,486件

5) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（相談支援ひのみね）

自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、心身の状況や環境に応じて、適切な保健、医療、福祉、教育等のサービスが多様な事業所から受けることができるように、市町村、事業所等との連携を図り、個々にサービス等利用計画または、障害児支援利用計画を作成した。作成後も継続的なモニタリングを行い、その達成状況の確認を行い、必要があればサービス利用計画を再度作成した。

① 特定相談支援事業・障害児相談支援事業の実績

	令和 6 年度	令和 5 年度
特 定 相 談 支 援	442件	578件
障 害 児 相 談 支 援	102	164
合 計	544	742

6) 障害児等療育支援事業（県受託事業）

在宅の重症心身障がい児（者）、知的障がい児（者）、身体障がい児を支援の対象に相談・支援等に努めた。

① 障害児等療育支援事業の実績

		令和 6 年度	令和 5 年度
訪問による療育相談		2件	0件
訪問による健康診査		28	23
外来による療育相談	個別	198	160
	集団	0	0
施設職員等に対する療育技術指導		11	15
療育機関に対する支援		0	0

7) 徳島県医療的ケア児等支援センター（県受託事業）

医療技術の進歩等を背景として、NICU 等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障がい児（医療的ケア児等）は増加しており、令和 3 年 9 月に施行された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」を受けて、医療

的ケア児等の日常生活・社会生活を社会全体で支え、個々の医療的ケア児等の状況に応じて切れ目なく支援することを目的に、令和5年1月10日、県から受託、開設した。

コーディネーターを2名配置し、住み慣れた地域で、医療・保健・福祉・教育・就労等の関係機関と切れ目ない支援が受けられるよう、連絡調整や情報提供、従事者への研修を実施する。

① 相談実績

		令和6年度	令和5年度
延	相 談 人 数	264人	199人
延	相 談 件 数	1,294件	1,320件
相 談 手 段 (重複有)	来 所	501	345
	電 話	709	844
	メ ー ル	224	131



講演会の様子



災害デイクャンプ

② 研修・イベント実績

	令和6年度	令和5年度
医 療 的 ケ ア 児 等 支 援 者 養 成 研 修	54人	98人
医 療 的 ケ ア 児 等 コ ー デ ィ ネ ー タ ー 研 修	27人	30人
コ ー デ ィ ネ ー タ ー フ ォ ロ ー ア ッ プ 研 修	20人	28人
医 ケ ア 児 の 家 族 と 支 援 者 の 研 修	14人	26人
医 療 的 ケ ア 児 者 を 支 援 す る 看 護 師 養 成 研 修	8人	
災 害 デ イ キ ャ ン プ	140人	
バリフリ BOX 医療的ケア児者の災害時の支援セミナー	20名	20名

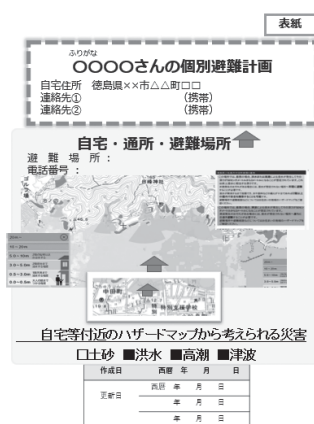


医療的ケア児者を支援する看護師養成研修



医ケア児の家族と支援者の研修

③ 災害時対応ガイドブック作成と個別避難計画作成の支援



8) 実習生・研修生等の受け入れ

徳島赤十字ひのみね医療療育センターにおいて、他職種の実習生を受け入れ、次世代の育成に努めた。

	令和6年度	令和5年度
	実人数(人)	実人数(人)
医師	9	4
看護師	152	133
准看護師	40	31
理学療法士	7	5
作業療法士	3	3
歯科衛生士	31	25
介護福祉士	8	4
保育士	0	1
社会福祉士	1	1
相談支援専門員	7	5
臨床心理士・公認心理師	5	17
計	263	229

※専門学校健祥会学園、四国大学、徳島県立総合看護学校、徳島大学、徳島文理大学、徳島医療福祉専門学校、鳴門教育大学大学院、徳島赤十字病院、徳島大学病院他

(4) 決算状況

1) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター

① 総括

区 分	当初予算額	補正予算額	計	決算額	増 減
収 入	3,240,247,000 ^円	0 ^円	3,240,247,000 ^円	3,180,878,639 ^円	△59,368,361 ^円
支 出	2,439,420,000	0	2,439,420,000	2,335,216,665	104,203,335

収入支出差引額 845,661,974円

※収入決算額には、前期末支払資金残高842,808,257円を含む。

② 事業活動による収入及び支出

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
児童福祉事業収入	16,642,153 ^円	15,524,166 ^円	1,117,987 ^円	7.2%
障害福祉サービス等 事業収入	634,468,521	618,430,664	16,037,857	2.6
医療事業収入	1,513,962,770	1,504,900,703	9,062,067	0.6
経常経費寄附金収入	180,000	180,000	0	—
受取利息配当金収入	328,829	218,721	110,108	50.3
その他の収入	8,356,047	7,796,577	559,470	7.2
収 入 計	2,173,938,320	2,147,050,831	26,887,489	1.3
人件費支出	1,537,055,078	1,445,319,981	91,735,097	6.3
事業費支出	325,054,499	335,615,663	△10,561,164	△3.1
事務費支出	188,067,671	217,454,741	△29,387,070	△13.5
支払利息支出	1,043,617	1,118,648	△75,031	△6.7
支 出 計	2,051,220,865	1,999,509,033	51,711,832	2.6

③ 施設整備等による収入及び支出

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
施設整備等補助金収入	0 ^円	3,862,575 ^円	△3,862,575 ^円	－ %
施設整備等寄付金収入	100,000	0	100,000	－
収 入 計	100,000	3,862,575	△3,762,575	△97.4
設備資金借入金元金償還支出	50,000,000	50,000,000	0	－
固定資産取得支出	141,381,077	13,675,345	127,705,732	933.8
ファイナンス・リース 債務の返済支出	12,148,365	9,263,677	2,884,688	31.1
支 出 計	203,529,442	72,939,022	130,590,420	179.0

④ その他の活動による収入及び支出

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
他会計繰入金収入	41,039,000 ^円	121,000 ^円	40,918,000 ^円	33,816.5 %
拠点区分間繰入金収入	0	16,000,000	△16,000,000	－
その他の活動による収入	122,993,062	69,670,312	53,322,750	76.5
収 入 計	164,032,062	85,791,312	78,240,750	91.2
積 立 資 産 支 出	0	50,000,000	△50,000,000	－
他会計繰入金支出	0	0	0	－
拠点区分間繰入金支出	0	8,000,000	△8,000,000	－
その他の活動による支出	80,466,358	85,311,991	△4,845,633	△5.7
支 出 計	80,466,358	143,311,991	△62,845,633	△43.9

⑤ 当期末支払資金残高

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
事業活動資金収支差額	122,717,455 ^円	147,541,798 ^円	△24,824,343 ^円	△16.8 %
施設整備等資金収支差額	△203,429,442	△69,076,447	△134,352,995	194.5
その他の活動資金収支差額	83,565,704	△57,520,679	141,086,383	△245.3
当期資金収支差額合計	2,853,717	20,944,672	△18,090,955	△86.4
前期末支払資金残高	842,808,257	821,863,585	20,944,672	2.5
当期末支払資金残高	845,661,974	842,808,257	2,853,717	0.3

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設〔障害者支援施設〕

(1) 入所施設

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設は、障害者総合支援法に基づく障害者支援施設として、日中に介護・機能回復訓練・行事・クラブ活動を行う「生活介護」と主に夜間のサービス提供を行う「施設入所支援」を提供している。



スペースを拡大した自治会室

生活施設としての質の高いサービスを提供すると共に、利用者各々の個別支援計画に応じた生活支援に努めた。

南海トラフ巨大地震での津波対策として、平成29年度より居住スペースを2階に移転し、利用者の命と安全な生活を確保することができ、減災対策としてタンスの固定などの環境整備を行っている。

① 障害者支援施設の実績

	令和6年度	令和5年度
入 所 延 数	16,681人	17,132人
1 日 平 均	45.7	46.8
入 所 者 数	2	2
退 所 者 数	1	4

(2) 利用者の状況

1) 年齢別、性別調（各年度末現在）

年 齢 別	性 別		令和6年度	令和5年度
	男	女		
18～29	0人	0人	0人	0人
30～39	1	2	3	3
40～49	3	5	8	6
50～59	5	4	9	11
60～69	10	9	19	19
70～79	1	5	6	5
80以上	1	2	3	3
計	21	27	48	47

(3) 地域を対象とした事業

1) 身体障がい者を対象にした短期入所事業

在宅の身体障がい者または介護者が、社会的・私的理由により、一時的保護を必要とした場合の短期入所事業（宿泊を伴う利用）を実施した。

支援施設では、併設型（3床）として実施

① 福祉型短期入所（併設型）の実績

併 設 型		令和6年度	令和5年度
短 期 入 所	実 利 用 数	6人	8人
	延 利 用 数	140	159



支援施設憩いの場



支援施設利用者の作品

(4) 決算状況

1) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

① 総括

区分	当初予算額	補正予算額	計	決算額	増減
収入	448,748,000 ^円	18,000,000 ^円	466,748,000 ^円	409,685,064 ^円	△57,062,936 ^円
支出	320,648,000	18,000,000	338,648,000	322,355,748	16,292,252

収入支出差引額 87,329,316^円

※収入決算額には、前期末支払資金残高118,678,491^円を含む。

② 事業活動による収入及び支出

科目	令和6年度決算額	令和5年度決算額	増減額	伸び率
障害福祉サービス等 事業収入	252,588,651 ^円	278,450,366 ^円	△25,861,715 ^円	△9.3%
経常経費寄附金収入	40,000	0	40,000	—
その他の収入	237,652	243,982	△6,330	△2.6
収入計	252,866,303	278,694,348	△25,828,045	△9.3
人件費支出	239,659,887	188,962,925	50,696,962	26.8
事業費支出	40,967,972	39,159,067	1,808,905	4.6
事務費支出	31,109,610	31,751,417	△641,807	△2.0
流動資産評価損等 による資金減少額	0	568,946	△568,946	—
支出計	311,737,469	260,442,355	51,295,114	19.7

③ 施設整備等による収入及び支出

科目	令和6年度決算額	令和5年度決算額	増減額	伸び率
収入計	0 ^円	0 ^円	0 ^円	—%
固定資産取得支出	0	1,116,260	△1,116,260	—
支出計	0	1,116,260	△1,116,260	—

④ その他の活動による収入及び支出

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
他会計繰入金収入	300,000 ^円	0 ^円	300,000 ^円	－ %
その他の活動による収入	37,840,270	1,972,000	35,868,270	1,818.9
収 入 計	38,140,270	1,972,000	36,168,270	1,834.1
拠点区分間繰入金支出	0	8,000,000	△8,000,000	－
その他の活動による支出	10,618,279	10,794,050	△175,771	△1.6
支 出 計	10,618,279	18,794,050	△8,175,771	△43.5

⑤ 当期末支払資金残高

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
事業活動資金収支差額	△58,871,166 ^円	18,251,993 ^円	△77,123,159 ^円	△422.5 %
施設整備等資金収支差額	0	△1,116,260	1,116,260	－
その他の活動資金収支差額	27,521,991	△16,822,050	44,344,041	△263.6
当期資金収支差額合計	△31,349,175	313,683	△31,662,858	△10,093.9
前期末支払資金残高	118,678,491	118,364,808	313,683	0.3
当期末支払資金残高	87,329,316	118,678,491	△31,349,175	△26.4

Ⅲ 徳島赤十字ひのミネ医療療育センター附属乳児院

【基本理念】

私たちは、こどもたちが児童憲章のもと、
その人権を重んじ、幸せになることを願い、
よりよい養育環境の提供に努めます。

【基本方針】

- 1 こどもたち一人ひとりの思いを汲み取り、安心して生活できる環境を提供します。
- 2 こどもたちとのふれあいを深め、豊かな愛着関係を築きます。
- 3 こどもたちの体調の変化に留意し、健康管理に努めます。
- 4 こどもたちが家庭に戻り、安定した生活を送れるように支援します。
- 5 ボランティアや地域と連携し、養育の専門性を活かした子育て支援に努めます。
- 6 職員は、専門職としてのより深い知識と確かな技術を身につけます。

Ⅲ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院

1 乳児院の概要

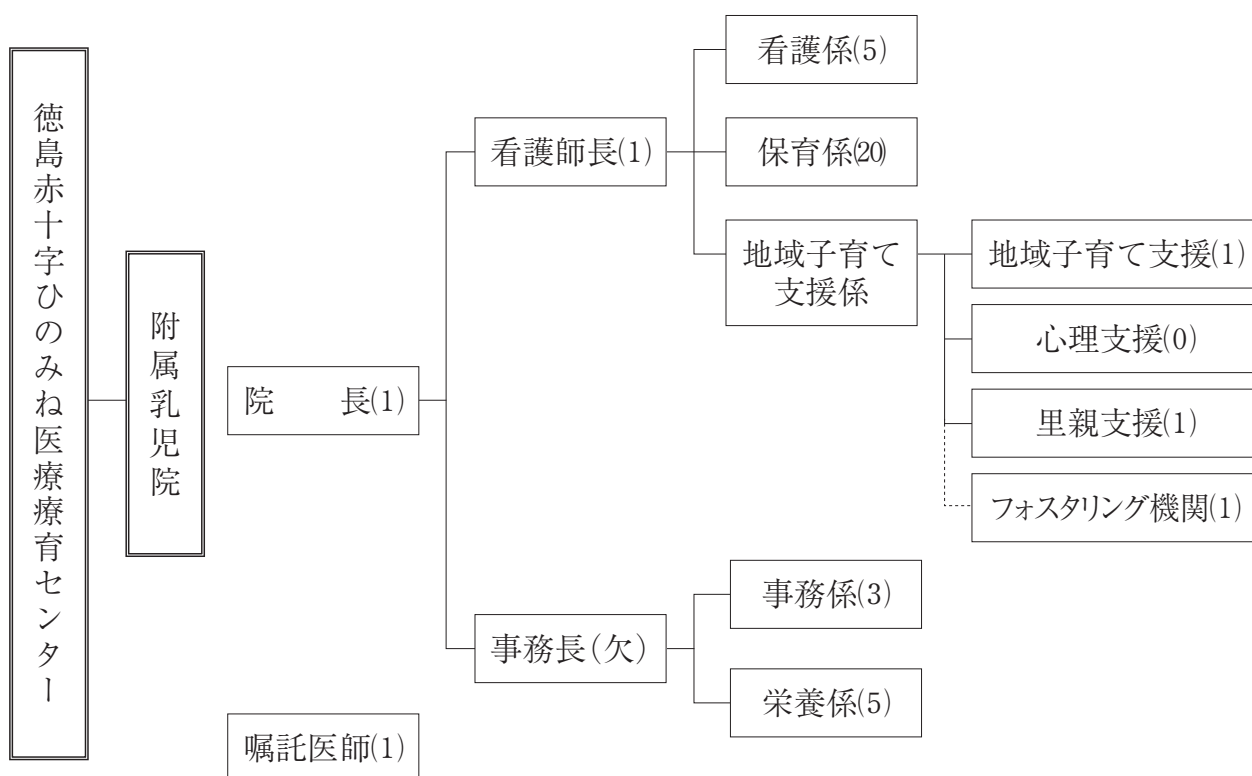
(1) 沿革

年 月 日	事 項
昭和28. 3. 31	徳島県により設置 建築落成（延べ面積288.75㎡）
6. 1	児童福祉法第37条の乳児院として許可（定員30名） 日本赤十字社徳島県支部に運営を委託（小松島赤十字病院が運営に当たる。）
8. 1	徳島県立徳島乳児院 開院
37. 5. 30	浩宮殿下ご誕生記念として遊戯室を新築（建坪66㎡）
40. 4. 1	小松島赤十字病院の運営より離れ日本赤十字社徳島県支部管理となる。
42. 4. 1	定員35名に増員
47. 6. 30	乳児院舎屋老朽と入所児童の増加のため改築工事落成（延べ面積1,059.55㎡）
7. 1	定員45名に増員
平成 8. 4. 1	地域における公益的な活動として ショートステイ事業、病児・病後児保育事業実施
16. 4. 1	小規模グループケア開始（1ユニット）
18. 4. 1	徳島赤十字乳児院 と改称 （徳島県から施設移管を受け、日本赤十字社徳島県支部が開設）
20. 4. 1	地域の子育て支援の取組として 「子育てスペースにこにこほっぺ」事業開始
24. 4. 1	発達障がい者総合支援ゾーンの施設として移転改築（延べ面積1,277.40㎡） 小規模グループケア2ユニットへ
26. 4. 1	里親支援専門相談員の配置 小規模グループケア3ユニットへ
令和 3. 4. 1	徳島県フォスタリング（里親養育包括支援）事業を受託
5. 4. 1	徳島県支部管内社会福祉施設における組織統合により、徳島赤十字ひのみね医療療育センターの附属施設となる 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院 と改称

(2) 施設の概要

- | | |
|---------|---|
| ① 所在地 | 小松島市中田町字新開 2 番地 2 |
| ② 設置主体 | 日本赤十字社 |
| ③ 経営主体 | 日本赤十字社徳島県支部 |
| ④ 設置年月日 | 平成24年 4 月 1 日 |
| ⑤ 施設の規模 | 鉄筋コンクリート造 3 階・地下 1 階
1 階部分 延べ面積1,277.40㎡ |
| ⑥ 定 員 | 31名
令和 6 年度暫定定員 31名
令和 7 年度暫定定員 30名予定 |

(3) 組 織 図（令和 7 年 4 月 1 日現在）



※カッコ内の数字は職員数

(4) 職 員 数

(令和7年4月1日現在)

職 種 別		定 員	現 員	備 考
院 長		1 人	1 人	
医 師		1	1	
直接 処 遇 職 員	看 護 師	20	6	3 歳以上児 3 人につき職員 1 人配置 2 歳児 2 人につき職員 1 人配置 2 歳未満児1.3人につき職員 1 人配置 看護師は、定員10人の場合は 2 人以上 10人を超える場合は10人増すごとに 1 人以上
	保 育 士		14	
	児童指導員		1	
家庭支援専門相談員		1	1	
里親支援専門相談員		1	1	
小規模グループケア		3	3	
個 別 対 応 職 員		1	1	
心理療法担当職員		1	0	
管 理 栄 養 士		1	1	
栄養士・調理師		4	4	定員30人未満は職員 4 人 30人以上10人ごとに 1 人加算
業 務 員			1	
事 務 員		1	3	
フォスタリング委託事業		1	1	
合 計		36	39	

※機能強化のための専門職員

- 家庭支援専門相談員…複雑な家庭環境等への専門的な関わりで家庭引取を目指す
- 心理療法担当職員…情緒面で不安定になっている子どもの支援を行う
- 里親支援専門相談員…里親委託を目指し支援を行う
- 個別対応職員…虐待で心や身体が傷ついた子どもに対し意図的に個別援助を行う

2 事業の実施状況

(1) 事業の概要

児童虐待相談対応件数は過去最多となっており、さまざまな理由で子育てに困難を有する世帯も、これまで以上に顕在化している状況となっている。こうした中で県内唯一の児童福祉施設として、目の前の子どもを守るため関係機関と連携を図り、家庭での養育が困難な乳幼児や、一時保護児の受け入れを積極的に行った。

養育においては「子どもの最善の利益」を念頭に、家庭に近い環境の提供を目指し、担当養育制、個別対応を導入することで愛着形成や発達促進を図り、また家庭復帰が困難な児の里親委託を推進するための、里親養育包括支援（フォスティング機関）事業にも取り組み、里親制度普及のための広報と里親登録者の増加に努めた。

更に、徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属施設の利点を活かし、関係機関と連携し家庭での養育が困難な病虚弱児の受入体制の充実・強化を図った。

(2) 重点事項

① 入所児の養育とその家庭支援への取り組み

ア. 小規模グループケア・個別対応の実施

入所児4～6人を1つの養育単位としてより厚いケアを行う「小規模グループケア」を3グループ実施し、家庭で味わうような愛情を実感する中で、豊かな感性や人間性の向上に努めた。

また、被虐待児や発達に問題のある子どもに対して、個別的な対応を行い、発達の促進や愛着形成の構築を行った。

イ. 子どもや保護者への支援

面会などを通して、保護者の思いを聴き良好な親子関係を築けるよう支援を行い、家庭復帰を目指した。

家庭復帰が叶わず措置変更となる児に対しては、少しでも安心して生活できるよう措置変更先の施設との交流を密に



小規模グループの様子



乳児院まつり
ストラックアウトで遊ぶ様子

行った。

また、5年ぶりに開催した「乳児院まつり」には施設や里親宅で生活する子どもたちを招待し担当だった職員等と交流するなどアフターケアに努めた。

ウ．幼稚園体験教育

「キッズルーム わくわく」

3歳以上の年齢の高い児に対し、普段とは異なる環境で季節行事や体験教育を行い、家庭で養育されている児にできるだけ近い社会経験を積むことで、社会性や生きる力、創造する力を習得できるよう努めた。



汽車に乗ってお出かけ



みんなでスライム作り

エ．切れ目のない成長への支援

日常保育と異なる活動の時間を設け、幼少期の思い出となる行事を企画し、たくさんの思い出作りが豊かな成長に繋がるよう、保育の充実を図った。また、その体験を壁新聞にして掲示し記憶の共有ができるよう努めた。

オ．病虚弱児の対応

病虚弱児に対し、健康管理に努めるとともに、児童に応じたきめ細かな養育を行った。



七五三の様子

カ．ボランティアの受け入れ

お散歩や外遊びなどの屋外での活動や、草抜き、入所児の衣類に関する裁縫、おもちゃの清拭などの環境整備活動を中心に11名延べ50日の支援をいただいた。

また、地域赤十字奉仕団の方々からミカン狩り等の院外体験の機会提供をいただくとともに、地域の有志団体「松島会」の方々からは餅つき開催など様々な協力をいただいた。



もちつきの様子

② 地域の子育て支援への取り組み

ア. 子育て短期支援事業（ショートステイ）

県内全域を対象に、保護者の病気や出産、就労、冠婚葬祭等の社会的事由により、一時的に養育困難となった乳幼児のショートステイを行った。

養育に不安を抱える保護者の増加により960人の利用があり、5年前と比較して約2.2倍増加した。また、ショートステイ利用から措置・一時保護となったケースが15件あった。

【利用状況】

	実利用市町村数	利用実人数	利用延べ人数
令和6年度	12（6市6町）	74人	960人
令和5年度	12（6市6町）	59人	752人

イ. 病児保育事業

12市町村を対象に、保護者の就労等の理由により入院治療は要しないが保育所等における集団保育が困難な児童を預かり、病児室で保育を行った。

【利用状況】

	利用実人数	利用延べ人数
令和6年度	39人	102人
令和5年度	62人	176人

ウ. 子育てスペースにこにこほっぺ・ハローベビーすくすく

クリスマスやひなまつりなど季節のイベントを通じて、地域での子育て仲間づくりや専門性を活かした育児相談の場を提供し、保護者支援を行った。

また、見守りを必要としている特定妊婦・要支援家庭や新たに里子の委託を受ける里親に向けて、離乳食の作り方や沐浴、オムツ替えの体験指導を行った。

参加者延数（人）	にこにこほっぺ		ハローベビーすくすく	
令和6年度	11回	100人	4回	2人
令和5年度	11回	129人	2回	2人

③ 里親養育包括支援（フォスタリング）事業の受託

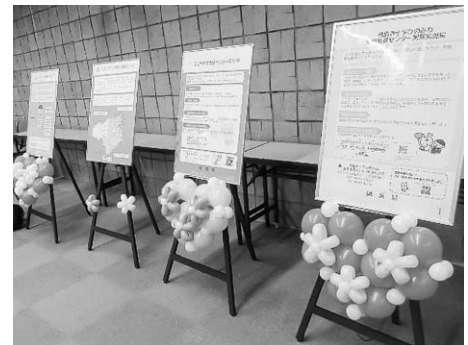
新しい社会的養育ビジョンや徳島県こども未来応援プラン等の計画に基づき、里親のリクルートから研修、委託後の支援に至るまでの一貫した里親支援（フォスタリング業務）を実施した。

ア. 里親制度等普及促進・リクルート事業

里親制度等の社会への理解を深めるため、県内各地で説明会を3回、個別

対応説明会を2回実施するとともに、広報資料を作成し、関係機関や保健センター、子育て支援拠点、商業施設に引き続き設置依頼をした。

また、里親制度普及活動として映画の上映会や里親制度講演会を開催し、延べ238名の方に参加いただき、里親制度について広く周知を図った。



里親制度パネル展

併せて、地域のイベントに参加しリーフレットの配布やパネルの展示を行い、積極的な啓発活動を行った。

イ. 里親研修・里親トレーニング等事業

里親登録及び登録の更新に必要な研修を実施した。

(a) 基礎研修

制度や子どもの養育についての研修・実習を実施し、講義及び実習に、それぞれ27名が参加した。

(b) 登録前研修

基礎研修を修了し、里親登録を希望される方に対し、研修と実習を実施し、講義に延べ23名、実習に35名が参加した。実習への参加しやすい環境をつくるため、受け入れ施設を増やし選択肢を広げた。

(c) 更新研修

5年ごとに必要な更新研修を実施し、講義に11名、実習に2名が参加した。

ウ. 里親訪問等支援事業

現に子どもを養育している里親からの相談に応じるとともに、里親21名に対し延べ20回訪問し、相談や助言を行った。未委託の里親に対しても6件訪問を行い、現状に対する考え方の確認等を行った。

また、里親へのレスパイト・ケア（休息）のため、子どもに応じた委託先を調整し、合計41回延べ139日間の調整を行った。

乳児院では11回51日間の受け入れを行った。



公園でふれあう里親家族

④ 発達障がい者総合支援ゾーンでの連携

発達障がい者総合支援ゾーンにおける連携会議で行事やイベントの情報を共有し、連携可能な事項を話し合い、協力体制を構築した。また、合同防災会議を開催し、津波避難時の生活空間確保協議を行うとともに、合同避難訓練を実施した。

みなと高等学園の生徒とともに野菜の収穫や植栽などの野外活動による交流で、入所児童の社会性向上を図った。



大根の収穫



お花の植栽

⑤ 広報活動

乳児院の事業内容を広く周知するため、広報紙「やっとなー！」及び地域子育て支援事業紹介チラシを幼稚園や児童養護施設に配布した。

また、乳児院事業の「見える化」を図るため、X（旧 Twitter）で61回の情報発信を行うとともに、徳島新聞に赤十字施設の事業紹介として「家庭に迎え養育 里親制度」を掲載した。

(3) 在籍児童の状況

① 延べ人数

		令和 6 年度	令和 5 年度
在	籍 児 童 数	9,263 人	9,059 人
内訳	措置 児	8,493	8,251
	一時 保 護 児	720	738
	里 親 レ ス パ イ ト	50	70

② 在籍児童の性別及び月齢

(令和7年4月1日現在)

月 齢	男	女	合 計	構成比
3 ヶ 月 未 満	0 人	0 人	0 人	0.0 %
3 ヶ 月 ～ 6 ヶ 月 未 満	0	0	0	0.0
6 ヶ 月 ～ 1 歳 未 満	1	1	2	12.5
1 歳 ～ 1 歳 6 ヶ 月 未 満	1	1	2	12.5
1 歳 6 ヶ 月 ～ 2 歳 未 満	1	0	1	6.3
2 歳 以 上	7	4	11	68.7
合 計	10	6	16	100.0

※構成比は小数第2位を四捨五入

③ 管轄地域別在籍児童の状況

(令和7年4月1日現在)

管轄地域別	男	女	合計
中 央	9 人	4 人	13 人
南 部	1	0	1
西 部	0	0	0
県 外	0	2	2
合 計	10	6	16

(4) 入所児童の状況

① 入所理由

入 所 理 由	令和6年度	令和5年度
虐 待	身体的虐待 1 人	0 人
	心理的虐待 3	4
	ネグレクト 3	3
養 育 困 難	0	4
母 の 疾 病	2	0
母精神障害（知的障害含）	2	2
育 児 疲 れ	1	0
児 童 自 身 の 障 害	0	1
そ の 他	0	1
合 計	12	15

② 入所時の月齢

月 齢	令和 6 年度	令和 5 年度
1 ケ 月 未 満	0 人	1 人
1 ケ 月 ～ 3 ケ 月 未 満	2	2
3 ケ 月 ～ 6 ケ 月 未 満	1	2
6 ケ 月 ～ 1 歳 未 満	5	4
1 歳 以 上	4	6
合 計	12	15

(5) 退所児童の状況

① 退所児童の退所理由

退 所 理 由	令和 6 年度	令和 5 年度
家 庭 引 取	10 人	7 人
里 親 委 託	0	2
他 の 施 設 に 移 管	10	4
そ の 他	0	0
合 計	20	13

(6) 決算状況

① 総 括

区 分	当初予算額	補正予算額	計	決 算 額	予算現額に比し増減
収 入	367,394,000 ^円	22,000,000 ^円	389,394,000 ^円	400,966,706 ^円	11,572,706 ^円
支 出	294,654,000 ^円	22,000,000 ^円	316,654,000 ^円	314,902,819 ^円	1,751,181 ^円

収入支出差引額 86,063,887円

※収入決算額には、前期末支払資金残高 81,713,369円を含む。

② 事業活動による収入及び支出

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
措 置 費 収 入	288,241,152 円	278,025,057 円	10,216,095 円	3.7 %
私的契約利用料収入	1,157,330	977,140	180,190	18.4
補 助 金 事 業 収 入	4,525,480	1,435,000	3,090,480	215.4
受 託 事 業 収 入	21,505,850	19,802,350	1,703,500	8.6
経常経費寄附金収入	60,000	20,000	40,000	200.0
そ の 他 の 収 入	140,000	555,735	△415,735	△74.8
収 入 計	315,629,812	300,815,282	14,814,530	4.9
人 件 費 支 出	217,130,670	230,776,059	△13,645,389	△5.9
事 業 費 支 出	19,026,587	18,432,386	594,201	3.2
事 務 費 支 出	17,779,217	14,385,433	3,393,784	23.6
支 出 計	253,936,474	263,593,878	△9,657,404	△3.7

③ 施設整備等による収入及び支出

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
施設整備等補助金収入	0 円	0 円	0 円	－ %
収 入 計	0	0	0	－
固定資産取得支出	4,650,731	1,293,380	3,357,351	259.6
支 出 計	4,650,731	1,293,380	3,357,351	259.6

④ その他の活動による収入及び支出

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
他会計繰入金収入	1,154,905 円	1,224,180 円	△69,275 円	△5.7 %
拠点区分間繰入金収入	0	0	0	－
その他の活動による収入	2,468,620	33,000,230	△30,531,610	△92.5
収 入 計	3,623,525	34,224,410	△30,600,885	△89.4
積 立 資 産 支 出	48,000,000	60,000,000	△12,000,000	△20.0
他会計繰入金支出	0	55,747	△55,747	－
拠点区分間繰入金支出	0	0	0	－
その他の活動による支出	8,315,614	7,168,485	1,147,129	16.0
支 出 計	56,315,614	67,224,232	△10,908,618	△16.2

⑤ 当期末支払資金残高

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	増 減 額	伸び率
事業活動資金収支差額	61,693,338 ^円	37,221,404 ^円	24,471,934 ^円	65.7 %
施設整備等資金収支差額	△4,650,731	△1,293,380	△3,357,351	259.6
その他の活動資金収支差額	△52,692,089	△32,999,822	△19,692,267	59.7
当期資金収支差額合計	4,350,518	2,928,202	1,422,316	48.6

前期末支払資金残高	81,713,369 ^円	78,785,167 ^円	2,928,202 ^円	3.7 %
当期末支払資金残高	86,063,887	81,713,369	4,350,518	5.3

IV 徳島赤十字病院

【徳島赤十字病院の理念】

私たちは断らない医療を実践し、
みなさまの健康と尊厳をお守りします。

【徳島赤十字病院の原則】

1 自 由

自由は創造の原点。組織は個人の集合体である。職員一人ひとりの尊厳を守る基本は、個々の発想や思想の自由を尊重することにある。生き生きとした個人により構成された組織でない限り、組織の発展はありえない。

2 高度先進医療

この病院は、常に世界の先端をいく医療を維持し、それを地域の人々に提供し続けなければならない。医療の資質向上は、究極的には全世界の人々が対象となるが、病院としての性格上、まず地域の人々に充分満足してもらえる医療を提供することから始まるものである。これは、時代が変わっても、病院組織である限り変わることはない原則である。地域に対する医療提供者としての責務を、常に忘れてはならない。

3 教 育

教育とは、人間の創造性を高める研修、訓練、人間相互の励まし合い、助け合いの中から生まれる個々の人間の成長、これが組織における教育の重要性であり、常に自己研鑽が出来る病院でなければならない。

4 文化の創造

病院は、疾患治療の場のみでなく、いろんな人々の知性の集まる場所でもある。これからの病院医療も、人間学、人間科学としての概念を持ち、疾患を持つ人々からも知的情報をできる限り与えて戴き、それらの人々にも参加して戴き、病院の場での文化創造を考える。また、そのような情報を人間社会（世界）に発信することが重要なこととなってくる。人類の未来に対する発信を、病院としての組織体から生み出すことが大切であり、病院職員は、常にその意識を持って行動することである。

5 世 界 性

視野を世界に持つ。医師をはじめとして、病院職員の全てが常に世界に目を向けることは、非常に大切なことである。世界からあらゆる情報を受けとり、正確に分析、理解し、適切な判断を下すこと、また、自分達が創造した情報を常に世界に発信することも大切である。情報取得の道は待つだけでなく、発信することにより大きな道が開かれることを認識することである。

IV 徳島赤十字病院

I 病院の概要

(1) 沿革

年	月	事	項
昭和24.	9	小松島町立診療所が日本赤十字社徳島県支部に移管され支部診療所として発足	
25.	3	本館新築工事竣工（昭和24年11月着工）	
	4	病院開設許可を受け、支部診療所を小松島赤十字病院と改称し内科、外科、放射線科の診療開始（60床）	
	8	眼科、産婦人科の診療開始	
26.	3	第1病棟（100床）及び試験室増築工事竣工	
	6	許可病床数112床となる	
	12	海部郡浅川村に分院として浅川診療所を設置	
27.	4	小松島市委託伝染病棟（16床）併設。徳島県立高等看護学校を併設し看護婦の養成開始	
	5	第2病棟（36床）増築工事竣工	
	5	小児科、耳鼻咽喉科の診療開始	
	6	総合病院の承認を得る	
	9	第3病棟（50床）増築工事竣工	
	9	許可病床数214床となる	
28.	8	徳島県から「乳児院」の業務委託を受け運営開始	
29.	4	整形外科診療開始	
	4	徳島県立高等看護学校が日本赤十字社徳島県支部に移管され小松島赤十字高等看護学院となる	
	8	第5病棟（60床）増築工事竣工	
	9	許可病床数262床となる（一般91床、結核155床、伝染16床）	
	9	血液銀行を新設し血液事業を開始	
30.	5	浅川診療所廃止	
33.	9	結核病床45床を一般病床に転用（一般136床、結核110床、伝染16床）	
34.	5	皮膚泌尿器科診療開始	
	6	徳島県から肢体不自由児施設「ひのみね学園」の業務委託を受け運営開始	
	6	看護婦宿舎（第一清鷺寮）新築工事竣工	
35.	1	許可病床数350床となる（一般224床、結核110床、伝染16床）	
37.	3	第7病棟（77床）増築工事竣工	
	11	併設の血液銀行が分離され徳島県赤十字血液銀行となる	
38.	1	歯科診療開始	
	2	許可病床数390床となる（一般260床、結核114床、伝染16床）	
39.	7	麻酔科新設	

年	月	事 項
昭和40.	4	徳島県から受託の「ひのみね学園」、「乳児院」を病院業務より分離
41.	9	脳神経外科診療開始
42.	3	心臓外科診療開始
	6	許可病床数416床となる（一般286床、結核114床、伝染16床）
	7	仁木イワノ看護部長、第21回フローレンス・ナイチンゲール記章受章
43.	5	第一期増改築工事竣工（本館200床）
	5	ガン治療棟竣工
	5	精神神経科診療開始。皮膚科、泌尿器科を分離
44.	12	救急病院として告示される
47.	5	結核病床26床を一般病床に転用（一般312床、結核88床、伝染16床）
48.	11	第二期増改築工事竣工（新館265床）
	11	小松島市ほか2町総合隔離病舎改築工事竣工（25床）
	11	許可病床数464床となる（一般312床、結核68床、精神59床、伝染25床）
50.	3	結核病床18床を一般病床に転用（一般330床、結核50床、精神59床、伝染25床）
	10	武田七郎院長、藍綬褒章受章
51.	4	学校教育法の一部改正に伴い、小松島赤十字高等看護学院の名称を小松島赤十字看護専門学校と改称
52.	3	小松島赤十字看護専門学校及び宿舍改築工事竣工。養成定員90名となる
	8	院内託児所新築工事竣工
	10	院内託児所開所（定員30名）
54.	12	第三期増改築工事竣工（50床）
55.	1	小児外科診療開始
	1	心臓外科を循環器科に名称変更
	2	許可病床数514床となる（一般380床、結核50床、精神59床、伝染25床）
	2	三期にわたる整備計画の完了に伴い各建物の呼称を1号棟（本館）、2号棟（新館）、3号棟（第三期建物）と改称
	4	創立30周年記念式典並びに第三期増改築工事落成式を挙行
	6	武田院長退任、同日付で名誉院長の称号を授与
	6	谷本副院長が院長に就任
57.	4	武田七郎名誉院長、勲三等瑞宝章受章
	6	谷本院長退任、7月1日付で名誉院長の称号を授与
	7	松森副院長が院長に就任
	10	小松島赤十字看護専門学校創立30周年記念式典挙行
58.	6	結核病床20床を一般病床に転用（一般400床、結核30床、精神59床、伝染25床）
	8	モービルICU運行開始
59.	9	第一回救急医療功労者県知事表彰受賞
60.	9	救急医療功労者厚生大臣表彰受賞
62.	12	許可病床数564床となる（一般450床、結核30床、精神59床、伝染25床）

年 月	事 項
平成元. 11	第四期増改築工事起工式
3. 3	第四期増改築工事竣工（４号棟、５号棟）
4	創立40周年記念式典並びに第四期増改築工事落成式を挙行
4	健診部新設
6	形成外科診療開始
4. 4	理学診療科新設
5. 4	呼吸器科診療開始
4	徳島県南部医療圏における救命救急センターに指定される
8. 10	徳島県地域災害医療センターに指定される
11	医療法の一部改正に伴い、理学診療科の名称をリハビリテーション科と変更
9. 3	松森院長退任、４月１日付で名誉院長の称号を授与
4	片岡副院長が院長に就任
4	松森茂名誉院長、勲三等瑞宝章受章
10. 3	心臓血管外科新設
5	徳島県臓器移植コーディネーター設置推進事業受託
7	救急部新設
11. 4	伝染病床25床を廃止（一般450床、結核30床、精神59床）
4	病理部新設
12. 2	１号棟３階の病棟を廃止し、アネックスに転用する
3	結核病床30床を廃止（一般450床、精神59床）
4	臨床研修指定病院に指定される
9	精神病床を39床減床（一般450床、精神20床）
13. 4	病院名を「徳島赤十字病院」に改称
6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver 3.1）の認定病院となる
10	地域医療支援病院に指定される
11	米国病理学会（CAP）認定を取得
14. 3	小松島赤十字看護専門学校を閉校
3	院内託児所閉所
4	救命救急センターが国の指定となる
4	小児救急医療拠点病院に指定される
4	臨床研修看護師制度を開始
10	紹介率80%の地域医療支援病院となる
15. 3	臓器移植法に基づく臓器提供施設となる
4	消化器科新設、内科・外科を主体として臓器別診療科に再編
10	ISO9001：2000認証取得
10	移転新築工事起工式
16. 4	新医師臨床研修制度での研修（単独型）を開始
17. 9	検査部 ISO15189認定取得
18. 1	移転新築工事竣工

年	月	事	項
平成18.	4	歯科を廃止	
	4	診断群分類別包括評価（DPC）対象病院となる	
	5	新病院開院（一般405床）	
	5	精神病床（20床）を廃止。精神神経科を神経科と精神科に変更	
	5	(社)照明学会「照明普及賞優秀施設賞」を受賞	
	5	「徳島県ひとにやさしいまちづくり条例」で定める整備基準の適合施設となる（平成19年9月条例廃止）	
	6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver 5.0）の認定病院となる	
19.	1	地域がん診療連携拠点病院に指定される	
	4	血管内治療科新設	
	10	(財)都市緑化技術開発機構主催、第6回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール屋上緑化部門「審査委員会特別賞」を受賞	
	12	NPO 法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価の認定病院となる	
20.	4	(社)日本医療福祉建築協会「医療福祉建築賞2007」を受賞	
	8	徳島県医師同乗救急ヘリコプターの搭乗医師の確保業務を受託（基幹病院）	
21.	4	循環器科を循環器内科に変更	
	4	管理型臨床研修病院に指定変更	
	5	基幹型臨床研修病院に指定名称変更	
	5	日本医療機能評価機構による付加機能「救急医療機能」の認定病院となる	
	6	高度救命救急センターに指定される	
	10	ISO9001を2008年版で登録更新	
22.	3	病院棟4階医局拡張工事及び病院棟1階仮眠室増築工事竣工	
	7	患者図書室「はなみずき」開設	
23.	1	創立60周年記念フォーラム開催	
	2	(財)骨髓移植推進財団による非血縁者間骨髓採取施設・移植診療科に認定	
	3	片岡院長退任、4月1日付で名誉院長の称号を授与	
	4	日浅副院長が院長に就任	
	4	地域周産期母子医療センターに認定される	
	6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver 6.0）の認定病院となる	
24.	2	へき地医療拠点病院に指定される	
	3	院内保育園新築工事竣工	
	4	「ぼんぼこ保育園」開園	
	4	臨床研修薬剤師制度を開始	
	4	呼吸器科を呼吸器内科と呼吸器外科に変更	
	4	「ホスピタルカフェ」の運営を開始	

年	月	事	項
平成24.	9	救急医療功労者県知事表彰受賞	
	10	徳島県赤十字有功会からモービル ICU の寄贈	
25.	1	産科医療功労者厚生労働大臣表彰受賞	
	4	産婦人科を産科と婦人科に変更	
	9	救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞	
26.	3	神経科を廃止	
	4	神経内科新設	
	5	病理部を病理診断科に変更	
	5	ハイブリッド手術室新設工事竣工	
	11	片岡名誉院長、瑞宝小綬章受章	
27.	4	産科・婦人科を産婦人科に変更	
	10	ISO9001：2000認証を返上。自主運営を開始する	
28.	4	増築・改修工事起工式	
	4	入院サポートセンター開設	
	6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG：Ver. 1.1）の認定病院となる	
	6	ラピッドレスポンスカー運行開始	
29.	9	西棟増築工事竣工	
	12	腎臓内科を新設、救急部・集中治療科部を救急科に変更	
30.	4	神経内科を脳神経内科に変更	
	7	既存建物の改修工事が完了	
	10	旧アンギオ室を手術室へ改修、手術室を12室体制とする	
31.	3	日浅院長退任、4月1日付で名誉院長の称号を授与	
	4	後藤副院長が院長に就任	
令和元.	11	小児がん連携病院に指定される	
2.	4	乳腺外科を新設。血液科を血液内科、代謝・内分泌科を糖尿病・内分泌内科に変更	
	7	新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定される	
	8	新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関に指定される	
4.	5	日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG：Ver. 2.0）の認定病院となる	
	5	小松島市との包括的連携に関する協定を締結	
5.	4	頭頸部外科を新設し、耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉科・頭頸部外科に変更	
	8	紹介受診重点医療機関に指定される	
	8	からだにやさしい治療センター開設	

(2) 概 要

① 土地、建物

・土地

所有地	37,748.96m ²
借地	4,830.12m ²
計	42,579.08m ²

・建物

所有建物	51,168.24m ²
借用建物	0m ²
計	51,168.24m ²

② 診療科

内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、脳神経内科、腎臓内科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、救急科（院内標榜：総合内科、血管内治療科）

③ 許可病床数

一般 405床

④ 特殊機能

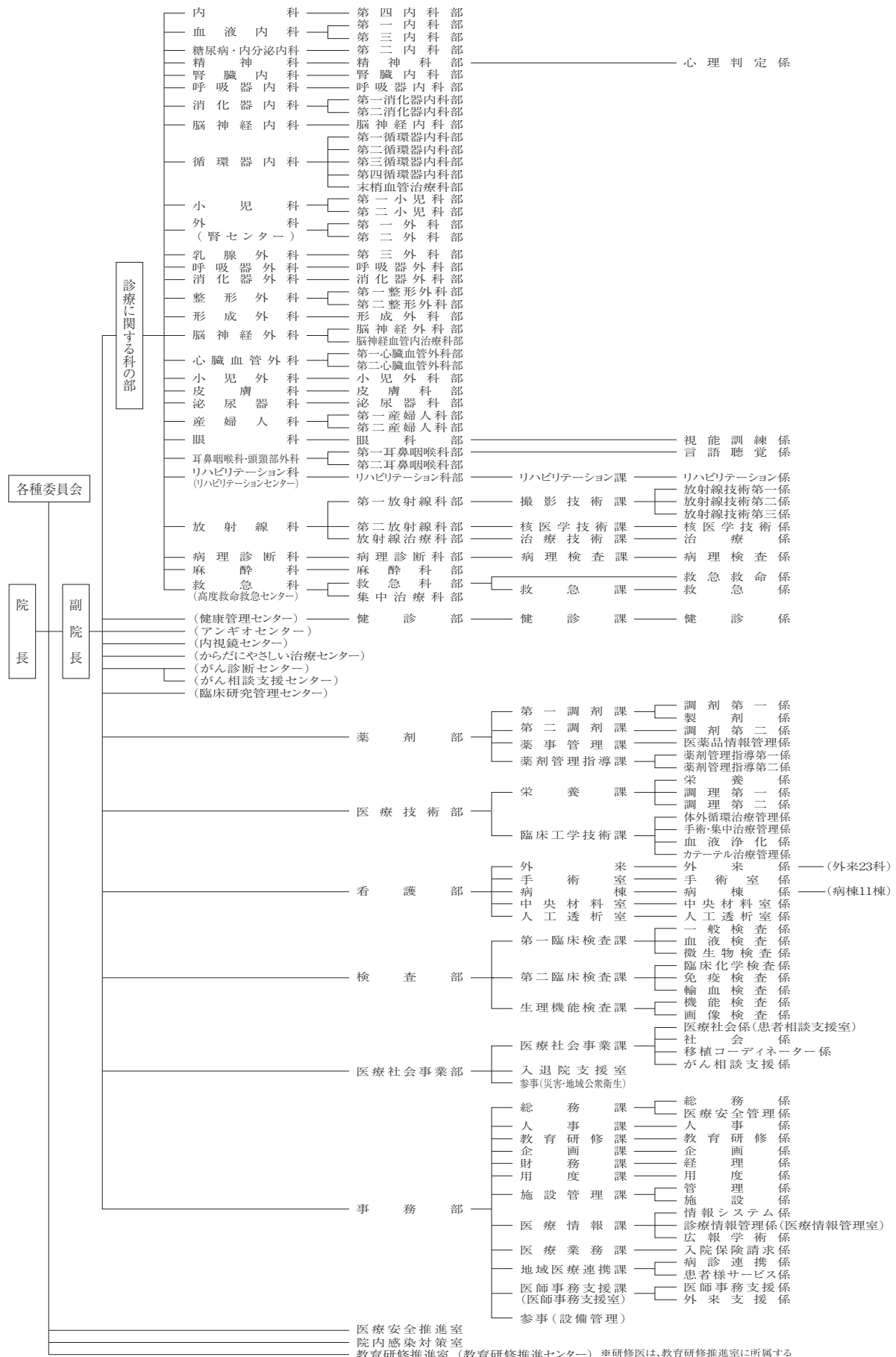
地域医療支援病院
高度救命救急センター
小児救急医療拠点病院
地域周産期母子医療センター
地域がん診療連携拠点病院
へき地医療拠点病院
地域災害医療センター
臨床研修病院
臓器提供施設
紹介受診重点医療機関

⑤ 職員数（常勤）

医師	159人
医療技術職員	156人
看護職員	576人
事務等その他	141人
計	1,032人

⑥ 組織図

(令和7年3月31日現在)



Ⅱ 重 点 事 項

コロナ禍を経て、人口動態や医療政策など病院を取り巻く環境は、以前にも増してダイナミックに変化している。これまで経験したことのない局面においても、当院は病院理念である「断らない医療」を実践し、地域医療支援病院、高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院をはじめとする各基幹機能の向上を図った。また、外来機能についても紹介と逆紹介を徹底することによって地域の医療機関と密な連携体制を構築し、高度化と専門化を更に推進した。

そして、大規模災害などの有事においても切れ目のない安定した高度急性期医療を提供し、日本赤十字社並びに災害医療拠点病院としての使命をいかなる状況下でも全うすべく、対応能力の増強を図った。

令和6年度より施行された医師の働き方改革の新制度については、引き続きタスク・シェア及びタスク・シフトを加速させ労働時間の短縮に取り組んだ。加えて、DXを積極的に利活用することにより、全職種において業務の変革を図ることでスタッフにしかできないことに注力できる環境の整備を推進した。その効果によってヒューマンエラーの発生を未然に防ぎ、より高度な医療に取り組める体制づくりを進めるとともに、患者の安全を最優先とする医療と医療従事者の負担軽減の両立を目指した。

1 地域の基幹病院としての特色発揮と機能強化

- (1) 地域医療支援病院として、病診（病）連携の強化を図り、紹介患者と救命救急を中心とした高度急性期医療への特化に努めた。
- (2) 高度救命救急センターとして、高度で専門的な医療を提供するとともに、「断らない医療」を実践し100%の救急医療対応の実現に向けて取り組んだ。更に、ラピッドレスポンスカー（医師派遣用自動車）により、救急現場や患者搬送中の救急車に一刻も早く救急処置薬剤・蘇生用具を携行した医師や看護師を派遣する積極的な「病院前救急診療」を展開することで、地域の救命率向上に寄与した。
- (3) 小児救急医療拠点病院として、小児救急患者の受け入れ体制を整備したほか、医療機関をはじめとする関係機関と密接に連携し、本県における小児救急医療体制の確保・充実に努めた。
- (4) 地域周産期母子医療センターとして、産科救急等の受け入れを強化するとともに、県内の周産期医療関連施設等との連携をより一層密にし、周産期医療体制の強化拡充を図った。

- (5) 地域がん診療連携拠点病院として、がんの診断・治療機能を強化し、地域におけるがん医療の充実に努め、診断から治療、更には社会復帰まで切れ目のない横断的な治療・支援体制の構築に取り組んだ。
- (6) へき地医療拠点病院として、医師が不足する地域への継続的な医師派遣により、その地域のプライマリを支援するとともに、3次救急医療機関として救急車やドクターヘリの受け入れ、ドクターカーの運行等を通じて地域医療の充実に努めた。
- (7) 5大疾病対応として、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病への対応力強化を継続し、精神疾患へはリエゾン精神医療実施体制を整備し、高度急性期病院として政策医療に積極的に取り組んだ。
- (8) 医療機能の分化・連携の推進として、DPC制度（DPC／PDPS）下においての医療の標準化と地域医療機関との連携により平均在院日数の短縮に努め、高度で高密度な医療提供体制の構築に努めた。また、日帰り手術センターを活用し、短期入院症例の外来化を促進するとともに、柔軟なベッドコントロールを展開することで入院患者の収容能力を強化した。
- (9) 手術支援ロボットを用いた手術の適用拡大など、治療や最先端の医療技術と低侵襲の治療をより一層推進するとともに、「からだにやさしい治療センター」の利活用により医療の質の更なる向上を図った。
- (10) 各医師会や地域の医療機関との親睦・連携を深めることにより、地域医療の向上に繋げる取り組みの一環として平成18年度から開催していた「各医師会と病院連携推進連絡会及び懇親会」をコロナ禍のため中止していたが、「地域医療連携懇談会」とより親しみやすい名称に変更して再開した。



徳島市内において開催した地域医療連携懇談会

2 安全・安心の医療提供体制の構築

- (1) 高度化・複雑化する医療環境の中で、安全で良質な医療を提供し続けるには、職員一人ひとりの心構えと医療安全や感染管理に関する知識の向上が不可欠である。医療安全推進室と院内感染対策室が核となり、病院の安全文化の醸成を図るとともに、患者の安全を最優先とする組織体制の充実と強化に努めた。また、RRS（院内救急対応システム）をより一層推進するなど、職種や年代の垣根を越えたチーム医療の充実に取り組んだ。
- (2) 患者・ご家族が病院や職員に求めるニーズは年々多様化しており、これらに対しても誠実に対応しなければならない。患者の視点を念頭においた接遇を心がけることで顧客満足度の向上に繋げるとともに、患者との十分な対話や円滑な意思疎通により「安心と満足」が得られる医療の提供に取り組んだ。
- (3) 近年、急増するサイバー攻撃や不正アクセスに対する万全なセキュリティ対策を講じるとともに、情報セキュリティについて全職員のコンプライアンス意識の徹底に努めた。

3 赤十字医療施設としての特色発揮と機能強化

- (1) 医療救護活動は赤十字事業として重要であることから、今後高い確率で発生が危惧されている大規模災害などの有事に備え、赤十字救護班や災害医療支援チーム（徳島日赤 DMAT）の養成に努めた。更に、赤十字のグループ力の発揮や防災関係機関とのネットワークの活用等により、災害マネジメントサイクル全体への関与を確立し、より一層の災害対応能力の強化に取り組んだ。
- (2) BCP に基づき、発災直後から復興期に至るまで切れ目のない医療活動が展開できるよう、院内災害医療訓練や関係団体との共同訓練等を通じて災害時の行動習熟を図った。なお、今年度の院内災害医療訓練においては津波による浸



院内災害医療訓練（左：災害対策本部、右：上階への患者搬送）

水被害を想定し、当院では初めてとなる籠城訓練を実施するなど、災害拠点病院としての質向上に努めた。

- (3) 日本赤十字社徳島県支部との連携・協力関係をより密接なものとし、赤十字医療施設としての特色を発揮するとともに、効果的な広報活動を展開することで、赤十字思想の着実な普及に努めた。

4 効率的な運営体制の構築

病院運営は、医療そのものの質の高さを確保することは勿論であるが、これと同時に安定した経営基盤の確立、即ち「経営の質」の強化が重要である。高度医療の推進に伴う材料費や設備投資だけでなく、社会情勢を要因とした費用の増加が今後も見込まれるが、共同購入事業の活用をはじめとするコストマネジメントに加え、新入院患者数の増加や適切な施設基準の取得、DPC 医療機関別係数のアップなどによる収益性の向上に徹底して取り組んだ。

また、種々のデータベースを活用することで、「人・物・金・情報・時間」を客観的・多角的に病院運営を検証し、柔軟かつ創造的な病院経営戦略の策定・実行を推進した。

全職員に対しては、今一度当院のビジョンや目的の浸透を図ることで、病院運営を担っているという責任感や使命感の向上に繋げ、積極的に経営参画ができる組織文化の醸成に努めた。

5 人材育成と確保

医療従事者の人材確保は最重要課題のひとつであるが、個々人がスキルを伸ばしてキャリアを形成できる土壌をつくり、内外から「働きたい」と思える組織風土を築くことが必要である。

有給休暇の取得促進や時間外労働の短縮をはじめとする労務管理を徹底し、職員の本質的な意識改革を促すことで、心身ともに健康的で働きやすい職場環境の整備を進めた。また、多職種が連携したチーム医療を根幹とするタスク・シフト／シェアを推進し、医療従事者の勤務環境改善に努めた。更には、令和6年の診療報酬改定で新設された「ベースアップ評価料」をはじめとする処遇改善に関連する施設基準を当初から届け出るなど、医療職の処遇改善に積極的に取り組んだ。

そして、地域医療に貢献できる人材を育成するため、専門知識や技術の修得を積極的に支援し、修得した知見や技能を存分に発揮し活躍できる組織運営に取り組んだ。

(1) 質の高い医師の確保と育成

社会問題となっている医師不足や偏在化に対し、初期臨床研修制度と新専門医制度などの研修プログラムの充実を図り、医師の確保に最大限努めた。また、医師から他職種へのタスク・シフトを推進し、医師の勤務環境改善に取り組んだ。

① 初期臨床研修制度（臨床研修医・2年間）

初期臨床研修を実施するにあたっては、医師としての人格を涵養し、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、将来に専門とする分野に関わらず幅広い臨床能力（知識・技術・態度・総合判断力等）を身につけ、チーム医療の一員としてその役割を理解し、チームメンバーと協力しながら全人的態度で医療を提供できる医師を守り育てることを研修理念とした。

また、幅広いプライマリ・ケアに対処し得る第一線の臨床医、あるいは高度の専門医を目指すために必要となる基本的な知識や技術、態度の修得を目的としている。特に、当院の特長である救命救急医療及び地域医療支援の特殊機能を活かし、すべての急性期疾患と救急疾患の初期治療を行える技能の修得を基本方針として掲げ、臨床研修病院として研修体制の充実を図った。

〔令和6年度 1年次10名、2年次12名、合計22名〕

② 新専門医制度（専攻医 3年・4年制）

「内科」「整形外科」「救急科」の3領域を中心に初期臨床研修を終えた専攻医を広く募集し、医師の専門医取得を支援するとともに、専門的な診療能力を備えた臨床医の養成に努めた。また、連携施設との関係を強化し、特に内科については県内外から広く受け入れを行うなど、より高度な専門性を持つ医師の養成に貢献した。

③ フェロー医（研究医）制度（4年間）

指導医師として必要な能力を身に付け、厚生労働省が認めた臨床研修指導医養成講習会の受講を促進した。

④ 国内外の救護活動に貢献できる赤十字臨床医としての誇りを持った医師を育成し確保に取り組んだ。

(2) 質の高い職員の確保と育成

安全・安心な医療の提供にはチーム医療の推進が重要であり、医療従事者に期待される役割は日々拡大している。細分化する専門資格の取得に要する費用の援助、及び学習環境づくりを推進することで、資格取得を積極的に支援した。

① 臨床研修看護師（助産師）の育成

基本的な臨床実践能力を修得し、臨床において確実な看護ケアが提供できる赤十字の看護職員を育成した。

〔令和6年度 33名〕

② 認定看護管理者、専門看護師、認定看護師の養成、特定行為研修の受講

医療の高度化・複雑化が進む中でチーム医療を推進するため、手順書により一定の診療の補助を行う看護師（特定行為に係る看護師）を養成する特定行為研修の受講を積極的に支援するなど、高度かつ専門的な知識・技術を有する看護師を育成するため、費用の援助と学習環境などへの配慮を行い、資格取得を推進した。

令和6年度は、家族支援専門看護師1名及び感染管理認定看護師1名の計2名を養成した。

(3) 地域における医療水準の向上

スキルスラボ（臨床技能学習室）などを活用し、職員のみならず医学生や地域の医療関係者を対象とした研修会などを、オンラインを含む形態で積極的に開催し、地域における医療水準の向上に寄与した。

6 保健事業

国の医療政策により義務付けられた特定健診をはじめ、女性スタッフだけの乳がん検診やPET-CT検診といった特色と魅力あふれる健診事業を推進した。

なお、コロナ禍以前には好評を得ていた「踊る血管阿波踊り健診」や市民公開講座については今年度の実施・開催には至らなかったが、当院の特性を活かして地域の方々の健康増進と疾病予防に寄与するため、今後の新たな保健事業の展開について模索した。

Ⅲ 事業実績数値

項 目		6 年度実績	5 年度実績
入 院	在 院 患 者 延 数 (1 日平均)	336.1人	326.0人
	新 入 院 患 者 数 (1 日平均)	37.8人	38.1人
	入 院 患 者 延 数 (1 日平均)	373.9人	364.1人
	平 均 在 院 日 数	8.9日	8.6日
	病 床 利 用 率	92.3%	89.9%
外 来	外 来 患 者 延 数 (1 日平均)	721.7人	726.6人
	新 患 者 数 (1 日平均)	104.5人	108.3人
	紹 介 率 (地域医療支援病院)	89.0%	87.2%
	院 外 処 方 箋 発 行 率	94.0%	93.5%

Ⅳ 事業の実施状況

(1) 入院患者延数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	136,477 人	133,265 人	3,212 人	102.4 %
一 日 平 均	373.9	364.1	9.8	

(2) 新入院患者数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	13,804 人	13,947 人	△143 人	99.0 %
一 日 平 均	37.8	38.1	△0.3	

(3) 平均在院日数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数
年 間 平 均	8.9 日	8.6 日	0.3 日

(4) 外来患者延数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	174,650 人	175,840 人	△1,190 人	99.3 %
一 日 平 均	721.7	726.6	△4.9	

(5) 紹介患者数（再診含む）

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	20,857 人	20,782 人	75 人	100.4 %
一 日 平 均	86.2	85.9	0.3	

(6) 初診の紹介率

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数
年 間 平 均	89.0 %	87.2 %	1.8 p

(7) 救急患者数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	13,605 人	15,159 人	△1,554 人	89.7 %

(8) ドクターカー出動件数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数	対前年度比率
消防機関からの要請	323 件	513 件	△190 件	63.0 %
医療機関からの要請	3	7	△4	42.9
他病院への搬送	61	94	△33	64.9
年 間 延 数	387	614	△227	63.0

(9) ドクターヘリ受入件数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	91 件	102 件	△11 件	89.2 %

診療実日数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	増 減 数
入 院	365 日	366 日	△1 日
外 来	242	242	0

(10) 保健医療圏患者数

ア. 入院

(単位：人)

保健医療圏	延患者数	市 町 村 別									
東 部 I	53,361 (39.1%)	徳島市	鳴門市	佐那河内村	石井町	神山町	松茂町	北島町	藍住町	板野町	上板町
		40,999	3,537	1,048	919	976	1,518	1,668	1,798	408	490
東 部 II	2,870 (2.1%)	阿波市	吉野川市								
		1,207	1,663								
南 部 I	67,304 (49.3%)	小松島市	阿南市	勝浦町	上勝町	那賀町					
		26,729	31,816	3,731	1,006	4,022					
南 部 II	7,346 (5.4%)	美波町	牟岐町	海陽町							
		2,760	1,209	3,377							
西 部 I	2,095 (1.5%)	美馬市	つるぎ町								
		1,664	431								
西 部 II	818 (0.6%)	三好市	東みよし町								
		513	305								
県 外	2,683 (2.0%)										
計	136,477 (100.0%)										

イ. 外来

(単位：人)

保健医療圏	延患者数	市 町 村 別									
東 部 I	62,218 (35.6%)	徳島市	鳴門市	佐那河内村	石井町	神山町	松茂町	北島町	藍住町	板野町	上板町
		50,954	3,430	1,009	900	807	1,183	1,340	1,666	481	448
東 部 II	2,692 (1.5%)	阿波市	吉野川市								
		1,223	1,469								
南 部 I	97,335 (55.7%)	小松島市	阿南市	勝浦町	上勝町	那賀町					
		43,920	43,475	4,518	1,278	4,144					
南 部 II	8,135 (4.7%)	美波町	牟岐町	海陽町							
		3,276	1,350	3,509							
西 部 I	1,490 (0.9%)	美馬市	つるぎ町								
		1,077	413								
西 部 II	789 (0.5%)	三好市	東みよし町								
		454	335								
県 外	1,991 (1.1%)										
計	174,650 (100.0%)										

V 決算の状況

(1) 収益的収入及び支出

(単位：円)

科 目 \ 年 度	令和 6 年度 予 算 額	令和 6 年度 決 算 額	予 算 額 との増減	令和 5 年度 決 算 額	前年度決算額 との 比 較	決算額 増減率 (%)
医 業 収 益	19,514,669,000	19,617,270,766	102,601,766	19,042,223,375	575,047,391	3.02
入院診療収益	14,476,966,000	14,392,956,514	△84,009,486	13,922,817,893	470,138,621	3.38
室料差額収益	390,724,000	416,640,225	25,916,225	395,840,462	20,799,763	5.25
外来診療収益	4,513,808,000	4,661,845,546	148,037,546	4,587,547,939	74,297,607	1.62
保健予防活動収益	161,643,000	165,924,626	4,281,626	162,166,373	3,758,253	2.32
受託検査・ 施設利用収益	6,429,000	5,094,450	△1,334,550	5,574,250	△479,800	△8.61
その他医業収益	49,302,000	44,802,769	△4,499,231	48,572,979	△3,770,210	△7.76
保険等査定減	△84,203,000	△69,993,364	14,209,636	△80,296,521	10,303,157	△12.83
医 業 外 収 益	292,478,000	281,010,729	△11,467,271	413,154,620	△132,143,891	△31.98
医療社会事業収益	6,020,000	5,950,382	△69,618	5,848,433	101,949	1.74
付帯事業収益	0	0	0	0	0	－
特 別 利 益	0	0	0	36,688	△36,688	－
収 益 的 収 入	19,813,167,000	19,904,231,877	91,064,877	19,461,263,116	442,968,761	2.28
医 業 費 用	19,295,587,000	17,847,460,528	△1,448,126,472	18,789,426,985	△941,966,457	△5.01
材 料 費	6,528,376,000	6,743,173,215	214,797,215	6,415,251,418	327,921,797	5.11
給 与 費	8,785,188,000	7,323,074,584	△1,462,113,416	8,750,671,358	△1,427,596,774	△16.31
委 託 費	1,122,295,000	1,146,467,003	24,172,003	1,104,921,743	41,545,260	3.76
設 備 関 係 費	1,968,813,000	1,825,074,218	△143,738,782	1,828,029,013	△2,954,795	△0.16
(再掲) 減価償却費	1,038,969,000	1,018,658,467	△20,310,533	1,058,031,285	△39,372,818	△3.72
研 究 研 修 費	75,302,000	77,632,947	2,330,947	70,874,811	6,758,136	9.54
経 費	815,613,000	732,038,561	△83,574,439	619,678,642	112,359,919	18.13
医 業 外 費 用	70,253,000	56,968,550	△13,284,450	69,173,668	△12,205,118	△17.64
医療奉仕費用	158,052,000	126,766,149	△31,285,851	159,504,298	△32,738,149	△20.52
付帯事業費用	0	0	0	0	0	－
特 別 損 失	1,994,000	1,959,844	△34,156	2,067,240	△107,396	△5.20
法 人 税 等	0	0	0	0	0	－
予 備 費	30,000,000	0	△30,000,000	0	0	－
収 益 的 支 出 合 計	19,555,886,000	18,033,155,071	△1,522,730,929	19,020,172,191	△987,017,120	△5.19
収 支 差 引 額	257,281,000	1,871,076,806	1,613,795,806	441,090,925	1,429,985,881	324.19

(2) 資本的収入及び支出

(単位：円)

年 度 科 目	令和6年度 予 算 額	令和6年度 決 算 額	予 算 額 との増減	令和5年度 決 算 額	前年度決算額 と の 比 較	決算額 増減率 (%)
固 定 負 債	23,280,000	64,931,138	41,651,138	5,469,435	59,461,703	1,087.16
資 産 売 却 収 入	0	0	0	0	0	－
その他資本収入	986,712,000	1,036,596,862	49,884,862	954,433,265	82,163,597	8.61
資本的収入合計	1,009,992,000	1,101,528,000	91,536,000	959,902,700	141,625,300	14.75
固 定 資 産	500,000,000	591,536,000	91,536,000	449,910,700	141,625,300	31.48
借 入 金 等 償 還	509,992,000	509,992,000	0	509,992,000	0	0.00
資本的支出合計	1,009,992,000	1,101,528,000	91,536,000	959,902,700	141,625,300	14.75

V 徳島県赤十字血液センター

基 本 理 念

血液製剤を必要としている方の尊い生命を救うため

需要に応じた献血血液を安定的に確保し

安全性・品質向上に取り組み

献血者の皆様の想いを届けます

V 徳島県赤十字血液センター

1 血液センターの概要

(1) 沿革

年 月 日	事 項
昭和29. 9. 21	小松島赤十字病院内に院内血液銀行を設置 (施設長として武田七郎氏就任)
37. 11. 1	徳島県赤十字血液銀行として発足 (所長に武田七郎氏就任)
39. 8. 21	「献血の推進について」閣議決定
12. 7	徳島県献血推進協議会設置
12. 14	徳島県赤十字血液センターに改称
41. 10. 17	所長に志賀信雄氏就任
10. 17	徳島市新蔵町に新築移転
42. 1. 25	徳島県血液配給公社設立 供給業務を開始
11. 1	所長に松本光幸氏就任
46. 4. 1	所長に安淵繁市氏就任
8. 5	所長に伊達和男氏就任
47. 9. 1	所長に島田徳男氏就任
48. 12. 16	所長に武田七郎氏就任
50. 4. 1	血液成分製剤の製造開始
52. 4. 1	生化学的検査開始
8. 1	徳島県計画採血実施要綱策定
57. 8. 1	HBs 抗原検査陽性者に通知開始
58. 4. 1	徳島県血液配給公社が解散し供給業務直配となる
8. 23	延献血者数50万人達成
10. 1	徳島駅前出張所 (献血ルーム アミコ) を開設
11. 1	徳島市庄町に新築移転
59. 10. 1	所長に近藤貞義氏就任
61. 4. 1	採血基準改正により400mL 献血開始
8. 1	成分献血開始
10. 23	AIDS・ATL・(HIV-1・HTLV-I) 抗体検査開始
平成元. 11. 20	HCV 抗体検査・HBc 抗体検査開始
2. 8. 16	延献血者数100万人達成
3. 12. 20	骨髓データセンター併設
4. 4. 1	献血由来凝固因子製剤 (クロスエイト M) 供給開始
4. 1	所長に遠藤悦男氏就任
7. 1	HCV 抗体検査陽性者に通知開始 (通知基準による)
6. 3. 1	AIDS2型 (HIV-2) 抗体検査開始

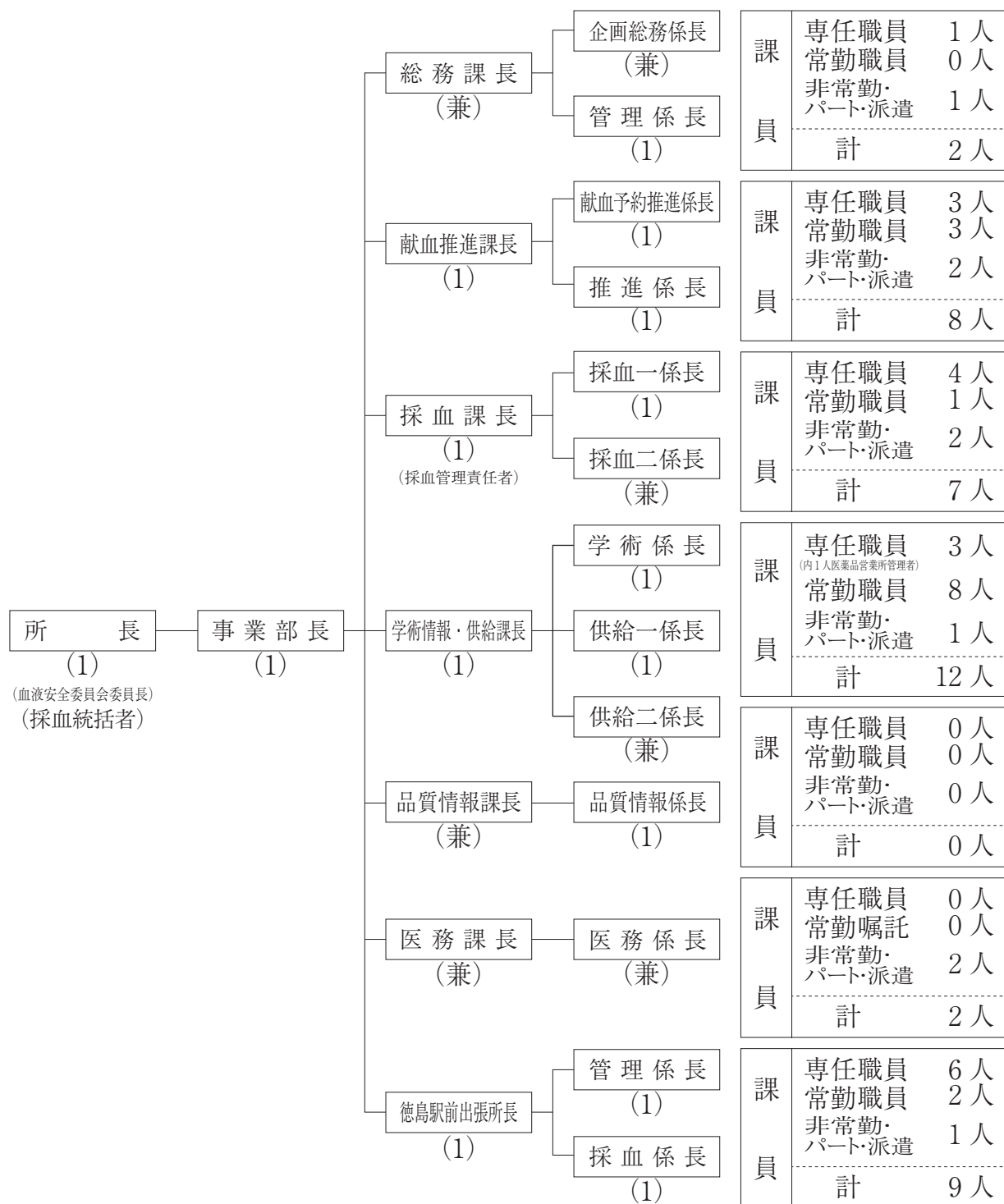
年 月 日	事 項
平成 6. 3. 15	徳島駅前出張所（献血ルーム アミコ）拡張
5. 1	血液事業統一システム運用開始
11. 1	血液専用 X 線照射装置を設置、照射協力を開始
7. 1. 1	GMP 適合医薬品製造業として許可更新
7. 1	製造物責任法（PL 法）の施行により輸血用血液が対象となる
8. 9. 1	輸血血液の検体保管開始
11. 20	赤血球 MAP 製剤の製造開始
9. 7. 22	皇太子殿下・同妃殿下、血液センター行啓
7. 23	第33回献血運動推進全国大会開催
10. 1	所長に林弘治氏就任
10. 6. 19	放射線照射輸血用血液製剤製造開始
11. 4. 1	採血基準の改正により献血可能年齢が変更（69歳まで）
10. 1	HTLV-I 抗体陽性者に通知開始
10. 10	核酸増幅検査開始
11. 1	血液製剤全てを放射線照射輸血用血液として製造開始
12. 12. 15	中央薬事審議会企画・制度改正特別部会 「新たな血液事業等のあり方について」の報告書を提出
13. 1. 31	「血液製剤の使用にあたって」（使用指針）を発行
4. 1	所長に渡辺恒明氏就任
4. 1	ヒトパルボウイルス B19抗原検査開始
8. 1	赤十字アルブミン25% 50mL 供給開始
14. 4. 1	HCV 抗体検査の結果を陽性者全員に通知開始
15. 3. 28	全国統一問診票の改訂
4. 1	HBc 抗体検査の結果を陽性者全員に通知開始
7. 30	「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の施行
8. 31	貯留保管後凍結血漿の供給開始
10. 15	検査業務を香川県赤十字血液センターに集約
16. 4. 1	「生物由来製品感染等被害救済制度」の施行
10. 1	献血者本人確認の全国実施
17. 4. 1	所長に小阪昌明氏就任
7. 7	徳島県赤十字血液センターに「献血推進本部」を設置
18. 8. 28	日赤ポリグロビン N 注 5 %の販売開始
10. 1	「献血者健康被害救済制度」の施行
19. 1. 16	白血球除去をした赤血球濃厚液の製造開始
3. 1	検査業務を岡山県赤十字血液センターに集約
11. 14	血小板製剤の有効期間が「採血後 4 日間」に延長
21. 3. 15	グリコアルブミン（GA）検査開始
3. 16	製剤業務を香川県赤十字血液センターに集約

年 月 日	事 項
平成21. 4. 1	所長に三木章男氏就任
23. 4. 1	徳島駅前出張所（献血ルーム アミコ）を同ビル内に増築移転 96.5㎡（6ベット）から305.0㎡（10ベット）に拡張 採血基準が改正され400mL 献血可能下限年齢が変更（男性17歳から）
24. 1. 1	所長に沖野實氏就任
4. 1	日本赤十字社中四国ブロック血液センターが広島市に新設され、香川製造所を所管 徳島県赤十字血液センターは地域血液センターに移行
8. 6	献血血液の検査基準が変更され、輸血後の B 型肝炎対策として HBc 抗体1.0以上12.0未満かつ HBs 抗体200mIU/mL 未満の献血者に対する献血を制限
25. 1. 16	「献血の同意説明書」による献血の同意事項の説明を開始
1. 23	日赤ポリグロビン N 注10%の販売開始
4. 1	災害時の通信手段として、衛星通信装置＜衛星電話・FAX＞（固定型）及び衛星携帯電話（携帯型）を整備
26. 5. 11	血液事業情報システムを導入
8. 1	職員安否確認システムを導入
8. 1	献血者20人分プールの NAT（核酸増幅検査）から個別 NAT に変更
27. 3. 30	日本赤十字社中四国ブロック血液センター香川製造所が廃止
3. 31	日本血液製剤機構（JB）との販売提携関係終了に伴い、血漿分画製剤の販売中止
28. 1. 1	所長に浦野芳夫氏就任
3. 20	母体採血施設の献血受付業務を終了
6. 13	分割血小板採血（20単位）が可能なトリマアクセルを導入
9. 13	照射洗浄血小板 -LR「日赤」及び照射洗浄血小板 HLA-LR「日赤」の供給開始
29. 9. 1	母体採血施設を「とくしま赤十字災害救護サポートセンター」設置のため日本赤十字社徳島県支部に無償貸与
30. 3. 17	全社統合情報システムを導入
10. 29	献血推進・予約システムを導入
31. 2. 20	国の血液事業部会運営委員会で、改めて血漿分画製剤を含むすべての血液製剤について、日本赤十字社が献血により確保する旨を宣言
4. 1	成分献血の増量採取開始
令和元. 11. 1	分割血小板採血強化策運用開始（土・日・祝日のみ）
2. 3. 1	分割血小板採血強化策の拡大運用開始（全日）

年 月 日	事 項
令和 2. 3. 2	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染防止対策として献血会場入場前の献血者に手指消毒と体温測定を開始
4. 1	中四国ブロック管内において、採血能力に応じた按分率での全血採血を開始
8. 5	HEV NAT を全国導入 従来の3価 NAT（HBV・HCV・HIV）に HEV を加え 4 価 NAT を実施
9. 1	全血献血時の指先穿刺による採血前検査を導入 血液法一部改正に伴い、採血基準を一部変更（脈拍、体温等を追加）
3. 4. 1	所長に新谷保実氏就任
11. 26	感染症検査結果における（梅毒トレポネーマ検査、HBV 検査、HCV 検査、HTLV-1 検査）偽陽性結果の通知を開始
4. 9. 28	献血カードアプリ「ラブラッド」を導入
5. 3. 13	（照射）赤血球液 -LR「日赤」の有効期間を「採血後28日間」に延長
5. 1	固定施設におけるすべての献血希望者を対象とした体重測定運用の開始
9. 25	移動採血車におけるすべての献血希望者を対象とした体重測定運用の開始
6. 2. 1	血漿分画製剤の海外輸出に係る同意の導入

(2) 組織と人員配置

(令和7年4月1日現在)



専任職員32人（医師1人、薬剤師1人、臨床検査技師1人、看護師12人、事務等17人）

常勤嘱託14人、非常勤嘱託・パート・派遣9人、計55人

2 重 点 事 項

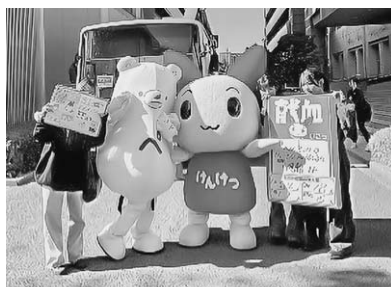
血液事業に携わる唯一の採血事業者として、安心・安全な輸血用血液製剤の確保に努めるとともに、医療機関への安定供給体制の構築に取り組んだ。

また、若年層や初回献血者の確保など、将来に亘る献血基盤を維持するための様々な施策を展開した。

(1) 若年層献血者及び複数回献血協力者の確保

① 学域への取り組み

献血の意義・重要性を認識してもらうことを目的に、高等学校や大学、専門学校で献血セミナーを行うとともに、若年期に献血に触れる機会の一環として、各学校に献血バスを配車し、将来の献血基盤の確立に取り組んだ。



学内献血での広報活動



献血をしている様子

② 将来の若年層献血者確保に向けた取り組み

献血を幅広い世代の方に理解していただくために、小学生と保護者を対象とした体験学習会（親子で楽しくけんけつ教室）を計8回実施した。

また、市町村等が主催する親子向けイベントに積極的に参加し、献血バスの展示や体験ブースを設置することで、献血に触れる機会を提供した。

ア 献血セミナーの回数

	高等学校	大学・専門学校
学 校 数	10	4
セミナー数	11	8
参 加 人 数	2,387	286



大学での献血セミナー

イ 高等学校・大学・専門学校での献血

	高等学校	大学・専門学校
学 校 数	8	8
配 車 台 数	13	19
献 血 者 数	228	319

③ 学生献血ボランティアの活動

徳島大学、四国大学の学生からなる徳島県学生献血ボランティアと連携し、学内献血や商業施設等でキャンペーンを実施した。また、献血バスの配車前に事前広報を実施し、献血キャンペーンの案内を行うなど献血者確保に取り組んだ。

また、当センター Instagram アカウントや各大学ボランティア部のアカウントを活用し、学内献血の広報を行った。

ア 学内献血

	R 5	R 6
実施回数	7	9
献血者数	136	118

イ キャンペーン

- a シャレンで！献血キャンペーン 1回（ポカリスエットスタジアム）
- b 中国四国学生献血統一キャンペーン 1回（ゆめタウン徳島）
- c 全国学生クリスマス献血キャンペーン2025 3回
（四国大学、徳島大学常三島キャンパス、ゆめタウン徳島）
- d 令和7年「はたちの献血」キャンペーン 1回（ゆめタウン徳島）



商業施設でのキャンペーン



スポーツ会場でのキャンペーン

ウ 年齢別献血者数

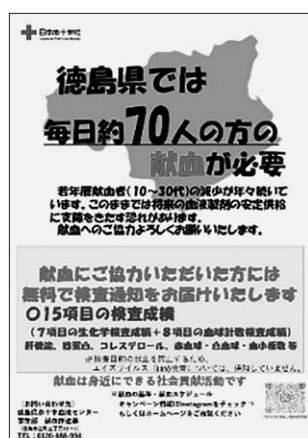
年 齢	年度	年度目標	延べ献血者数	実献血者数	初回献血者数
16歳～19歳	R 5	999	620	486	329
	R 6	1,177	577	455	295
20歳～29歳	R 5	4,267	2,648	1,703	352
	R 6	4,267	2,497	1,627	376
30歳～39歳	R 5	5,732	4,015	2,208	142
	R 6	5,732	3,726	2,058	133
40歳～69歳	R 5	16,099	19,302	9,236	124
	R 6	16,820	19,663	9,189	133

(2) 献血バス1稼働当たりの採血数の確保

① 情報発信の強化

ア ホームページやInstagramを活用し、輸血用血液製剤の在庫状況や献血バスおよび献血ルームでのキャンペーン情報等を発信した。また、ラブラッド会員にメールやLINEでの献血依頼についても発信したほか、非会員にはハガキや電話で献血協力を依頼した。

イ 大学での献血推進を強化するため、各大学校内に「献血基準」や「血液の現状」など基本的な内容等の資料を展示し、いつでも献血について触れられる機会を設けた。



項目	献血基準	献血スケジュール	献血バス1稼働当たりの採血数
年齢	18歳以上	18歳以上	約100人分
体重	50kg以上	50kg以上	約100人分
健康状態	健康で、献血に適した状態であること	健康で、献血に適した状態であること	約100人分
献血回数	1回/1ヶ月以上	1回/1ヶ月以上	約100人分
献血場所	献血バス、献血ルーム、献血センター	献血バス、献血ルーム、献血センター	約100人分
献血料	無料	無料	約100人分
献血の意義	献血は、命を救うための大切な活動です。	献血は、命を救うための大切な活動です。	約100人分
献血のお願い	献血は、命を救うための大切な活動です。	献血は、命を救うための大切な活動です。	約100人分

各大学内に設置している資料

② 地方公共団体や協力企業と連携を図り、新型コロナウイルス感染症の影響により中止・延期となった献血会場の再開および休眠団体での献血再開に努めた。

③ 献血バス配車先の事業所の社内回覧システムを利用し、血液からしか作ることができない血漿分画製剤に関する資料を紹介するとともに、輸血者やご家族から寄せられた心温まるメッセージ「ありがとうの声」を紹介した。



(3) 献血ルームの活性化

① 10～30代の献血者を対象として、継続的に献血協力をいただけるようアンケートを実施するとともに、多くの方に献血ルームの所在を知っていただけるよう案内動画を作成し、Instagramに掲載した。

② 徳島駅周辺の若者が集うコミュニティ施設に献血啓発の協力を求め、定期的にポスターの掲示やチラシの設置を行った。

③ 献血経験のある学生を対象に長期休暇期間中の献血協力を促したほか、献血

協力団体の研修会等に参加し、交流を深めることで団体関係者の献血協力を促した。

- ④ 徳島駅周辺の公共施設で開催された各イベント（とくしまマルシェ等）に赴き、献血啓発活動を行った。

(4) 献血推進団体等との連携強化

県内ライオンズクラブ、徳島県婦人団体連合会、天理教等、献血推進団体からのご協力をいただき、献血推進活動を強化するとともに、献血バスの配車事業所への事前訪問を推進した。

- ① 献血推進団体が主催する献血キャンペーンを増やしていただき、献血者の確保を図った。
- ② 献血バス配車先事業所への事前訪問回数を増やし、血液事業の現状について説明するとともに、事前予約を推進し献血見込み数の事前把握に努めた。

	ライオンズクラブ	婦人団体連合会	天 理 教
実 施 回 数	86 (うち31回は 記念品協賛)	85	32
受 付 人 数	4,182	2,779	1,596

(5) 輸血用血液製剤適正使用の促進

県内医療機関28施設に432回訪問し、主要医療機関16施設の輸血療法委員会に47回出席して情報共有及び情報収集を行った。また、医療機関の担当者とりモート形式や参集型での研修会を14回開催し、血液製剤の適正使用の啓発及び促進を図った。

なお、血液製剤の感染症にかかる遡及調査は25件あり、調査の結果、感染が確認された事例はなかった。

(6) 効率的な供給体制の構築

赤血球製剤を多数使用する医療機関に対して、院内在庫の適正化を推進した結果、定時配送便率は84.5%であった。

また、令和6年度から完全移行したWeb発注システム導入による発注率は昨年度85.7%から99.7%となり、県内医療機関の大部分がWeb発注システムを活用した発注が行える環境を構築することができた。

(7) 採血環境の改善と看護師の育成

献血者とのコミュニケーションを図り、身体の保温・緊張の緩和を推進し副作用の軽減を図るとともに、採血における減損率が低下するよう個々の技術向上に努めた。

また、中四国9県のアフェレーシスナースと共にインシデント事例集を基に教育訓練の作成を行い、教育体制を強化した。令和6年度は2名が採血副作用の対応に係る研修会を受講し、評価試験に合格した。

(8) 災害に対する備え

中国・四国9県合同で安否確認システムを活用した職員安否確認訓練や職員参集確認訓練および災害対策本部訓練を実施し、災害時における日本赤十字社中四国ブロック内血液センターの危機管理体制の強化を図った。

また、夜間・休日における災害時の初動対応をマニュアル化し、血液製剤供給体制の維持及び早期復旧に資する対応強化を図った。さらに、献血ルームにおいては、災害時に職員や献血者が安全かつ迅速に避難できるよう役割分担の把握等を目的とした訓練を実施するとともに、採血部門では採血中の災害発生を想定した訓練を実施し、初動対応にかかるアクションカードを見直して採血部門危機管理マニュアルを改訂した。

3 事業の実施状況

(1) 献血状況

① 施設別・種類別献血状況

単位：人

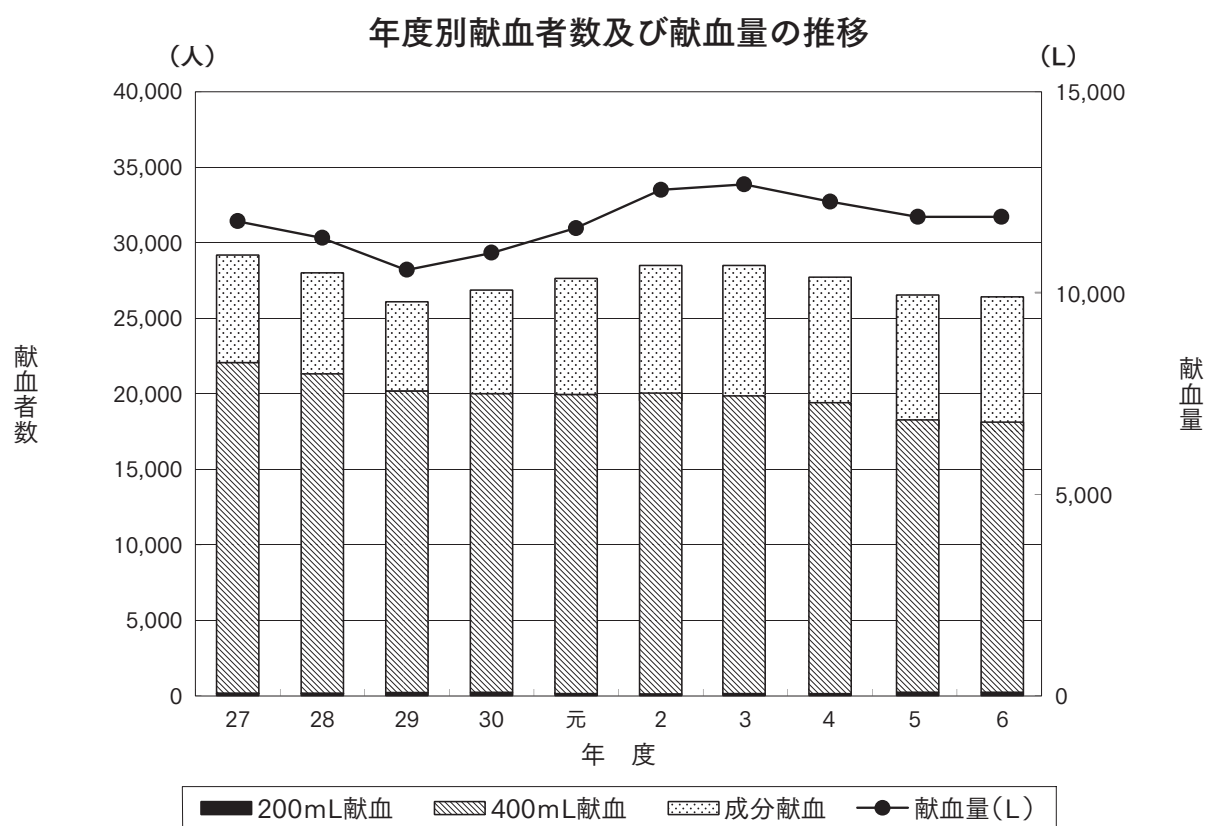
		出張所	移動採血	合 計	構成比 (%)	献血者 目 標	目 標 達成率 (%)	前年度 実 績	対前年 度 比 (%)
全血 献血	200mL	130	0	130	0.5	120	108.3	130	100.0
	400mL	6,815	11,326	18,141	68.6	19,350	93.8	18,175	99.8
成分 献血	血 漿	6,193	0	6,193	23.4	6,559	94.4	5,917	104.7
	血 小 板	非分割	162	0	162	—	404	412	39.3
		分 割	1,837	0	1,837	—	1,563	1,951	94.2
		血小板計	1,999	0	1,999	7.6	1,967	2,363	84.6
	成分献血計		8,192	0	8,192	—	8,526	8,280	98.9
合 計		15,137	11,326	26,463	100.0	27,996	94.5	26,585	99.5

② 施設別稼働数状況

単位：人

		出張所		移動採血		合計		対前年度比 (%)
		6 年度	5 年度	6 年度	5 年度	6 年度	5 年度	
献 血 者 目 標		16,146	15,457	11,850	11,640	27,996	27,097	103.3
受 付 者		17,047	17,058	12,993	13,121	30,040	30,179	99.5
不 適 格 者		1,910	1,975	1,667	1,619	3,577	3,594	99.5
献血者 内 訳	200mL	130	130	0	0	130	130	100.0
	400mL	6,815	6,673	11,326	11,502	18,141	18,175	99.8
	血 漿	6,193	5,917	0	0	6,193	5,917	104.7
	非分割血小板	162	412	0	0	162	412	39.3
	分割血小板	1,837	1,951	0	0	1,837	1,951	94.2
献 血 者 計		15,137	15,083	11,326	11,502	26,463	26,585	99.5
達 成 率		% 93.8	% 97.6	% 95.6	% 98.8	% 94.5	% 98.1	
稼 働 日 数・ 配 車 台 数		338	341	292	292	630	633	
一 稼 働 当 り 献 血 者 数		44.8	44.2	38.8	39.4	42.0	42.0	
施設別献血者数 構 成 比		% 57.2	% 56.7	% 42.8	% 43.3	% 100.0	% 100.0	

③ 年度別献血者の状況



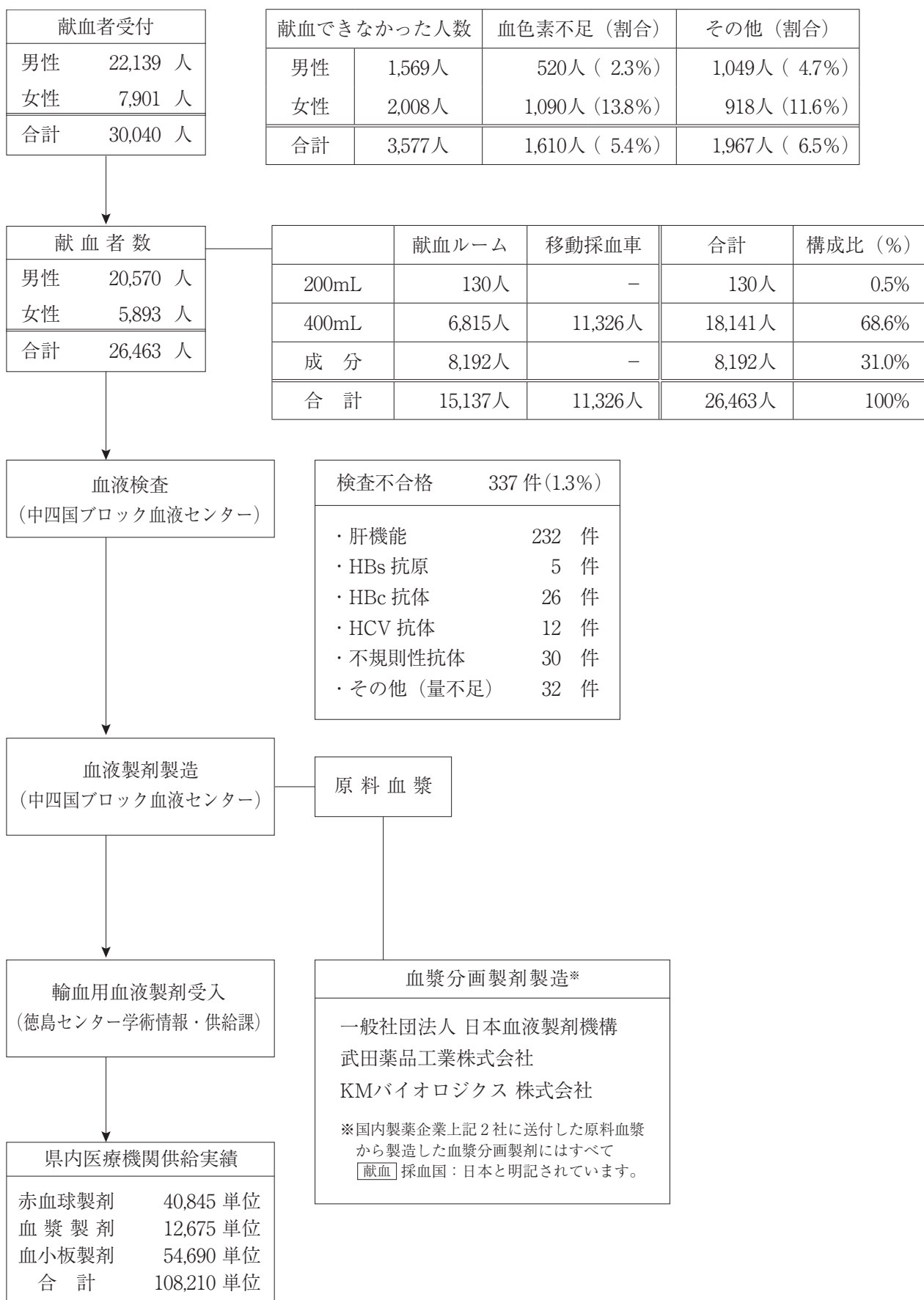
単位：人

年 度	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	計	献血量 (L)
平成 27	47	22,037	7,196	29,280	11,750
28	55	21,239	6,750	28,044	11,322
29	128	20,017	5,946	26,091	10,546
30	136	19,890	6,881	26,907	11,001
令和 元	79	19,980	7,563	27,622	11,650
2	94	19,935	8,500	28,529	12,597
3	95	19,776	8,694	28,565	12,699
4	92	19,319	8,315	27,726	12,319
5	130	18,175	8,280	26,585	11,935
6	130	18,141	8,192	26,463	11,930

令和 6 年度献血種別構成比

	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	計
徳 島 県	0.4%	68.6%	31.0%	100.0%
全 国	2.5%	66.4%	31.1%	100.0%

④ 徳島県における献血血液の流れ（令和6年度実績）



⑤ 献血推進関係会議

名 称	開 催 日	開 催 場 所
令和6年度徳島県献血推進協議会	3月18日	徳 島 県 庁
令和6年度徳島県学生赤十字奉仕団総会	3月28日	徳島県赤十字血液センター (Web開催)

⑥ 献血バス配車事業所一覧

(事業所名：五十音順)

No.	配車事業所等	No.	配車事業所等
1	BX 朝日建材(株)	38	医療法人久仁会 鳴門山上病院
2	JA アグリあなんスタジアム	39	医療法人修誠会 吉野川病院
3	JA 阿波みよし ふれあい産直市	40	医療法人松風会 江藤病院
4	JA 徳島厚生連 阿南医療センター	41	医療法人すこやか 林病院
5	JA 徳島厚生連 阿波病院	42	医療法人青鳳会 美摩病院
6	JA 東とくしま みはらしの丘 あいさい広場	43	医療法人清和会 協立病院
7	J-POWER ジェネレーションサービス(株) 橋湾火力運営事業所	44	医療法人第一病院
8	(株)NDK	45	医療法人道志社 リハビリテーション大神子病院
9	(株)NTT 西日本 徳島支店 大工町ビル	46	医療法人平成博愛会 博愛記念病院
10	(株)NTT フィールドテクノ 四国支店 徳島営業所	47	医療法人有誠会 手束病院
11	NPO 法人アクア・チッタ	48	医療法人養生園 TAOKA こころの医療センター
12	藍住町役場	49	(株)オオキタ フレッシュフーズオオキタ ポルト牟岐店
13	アオアヲナルトリゾート	50	大クス公園 (天理教ひのきしん)
14	朝日音響(株)	51	オートモール徳島
15	旭食品(株)徳島支店	52	大塚化学(株)徳島工場
16	阿南市役所	53	大塚製薬(株)徳島板野工場
17	(株)阿波銀行 鴨島センター	54	大塚製薬(株)徳島工場
18	(株)阿波銀行 研修所	55	大塚製薬(株)徳島第二工場
19	(株)阿波銀行 本店	56	大塚製薬(株)徳島鷺敷工場
20	阿波市役所	57	(株)大塚製薬工場 本社
21	阿波製紙(株)	58	(株)大塚製薬工場 松茂工場
22	石井町中央公民館	59	大塚テクノ(株)本社
23	石井町中央公民館 石井分館	60	大塚テクノ(株)鷺敷工場
24	石井町中央公民館 藍畑分館	61	(株)岡部機械工業
25	石井町中央公民館 浦庄分館	62	オンダン農業協同組合
26	石井町中央公民館 高原分館	63	介護老人福祉施設 やまもも荘
27	石井町役場	64	海上自衛隊 第24航空隊
28	石井町竜王集会所	65	海上自衛隊 徳島教育航空群
29	(株)イズミ ゆめタウン徳島	66	海陽町役場 海南庁舎
30	板野町町民センター	67	海陽町役場 穴喰庁舎
31	板野東部消防組合消防本部	68	化研テクノ(株)
32	(株)井上組	69	勝浦町役場
33	医療法人愛生会 兼松病院	70	学校法人勝浦学園 徳島医療福祉専門学校
34	医療法人倚山会 田岡病院	71	学校法人四国大学
35	医療法人医正会 原田病院	72	学校法人生光学園 生光学園高等学校
36	医療法人喜久寿会 木下病院	73	学校法人徳島城南学園 徳島工業短期大学
37	医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院	74	学校法人村崎学園 徳島文理大学 徳島キャンパス

No.	配車事業所等	No.	配車事業所等
75	上板町役場	123	税理士法人マスエージェント 本社
76	神山町役場	124	専門学校 健祥会学園
77	川内ベルベ玉鳳院	125	ソルバイ・スペシャルケム・ジャパン(株)
78	北岡プレコン(株)	126	(株)大一器械
79	喜多機械産業(株)(キタチャレンジフェスタ)	127	大鵬薬品工業(株)北島工場
80	(株)北島建設	128	大鵬薬品工業(株)徳島工場
81	北島町役場	129	太陽ファスナー(株)徳島工場
82	共栄造機(株)	130	地方独立行政法人 徳島県鳴門病院
83	協同組合 徳島総合流通センター	131	長生堂製薬(株)本社第二工場
84	(株)キョーエイ セレブ鴨島店	132	つるぎ町立半田病院
85	(株)キョーエイ ドラッグ三加茂店	133	つるぎ町役場
86	(株)キョーエイ 羽ノ浦店	134	帝國製薬(株)土成工場
87	(株)キョーエイ 本社	135	テック情報(株)
88	国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所	136	(株)十川ゴム 徳島工場製造二課
89	国立阿南工業高等専門学校	137	(株)十川ゴム 徳島工場事務所
90	国立大学法人 徳島大学蔵本キャンパス(学園祭)	138	(株)寺内製作所
91	国立大学法人 徳島大学蔵本キャンパス 徳島大学病院	139	(株)大真空 徳島事業所
92	国立大学法人 徳島大学常三島キャンパス	140	(株)鷹鉾組
93	国立大学法人 鳴門教育大学	141	とくぎんトモニアリーナ
94	小松島市役所	142	徳島刑務所
95	(株)サイバネ	143	徳島県 JA 会館
96	(株)さくら印刷	144	徳島県警察 阿南警察署
97	佐那河内村役場	145	徳島県警察 警察学校
98	佐野電機工業(株)	146	徳島県警察 小松島警察署
99	ザ・パシフィックハーバー	147	徳島県警察 徳島板野警察署
100	シオノギファーマ(株)徳島工場	148	徳島県警察 徳島中央警察署
101	(株)シケン 徳島第二技工所	149	徳島県警察 徳島名西警察署
102	(株)シケン 徳島本社技工所	150	徳島県警察 鳴門警察署
103	四国化工機(株)本社工場	151	徳島県警察 本部
104	四国化成工業(株)徳島工場・北島事業所	152	徳島県警察 本部 運転免許センター
105	四国高速運輸(株)	153	徳島県警察 美馬警察署
106	四国電気保安協会 徳島支部	154	徳島県警察 三好警察署
107	四国電力(株)阿南火力事業所 橘湾発電所	155	徳島健康生活共同組合 徳島健生病院
108	四国電力(株)阿南発電所	156	徳島県国民健康保険団体連合会
109	四国電力送配電(株)池田支社	157	徳島県消防学校
110	四国電力送配電(株)徳島支社	158	徳島県西部総合県民局 美馬庁舎
111	シティプラス徳島沖浜店	159	徳島県西部総合県民局 美馬保健所
112	シミズ精工(株)	160	徳島県西部総合県民局 三好庁舎
113	(株)シャイネックス	161	徳島県赤十字血液センター
114	社会医療法人あいざと会 藍里病院	162	徳島県庁
115	社会福祉法人三美厚生団 障害者支援施設 かしがおか	163	徳島県東部県土整備局 徳島庁舎
116	昭和精機工業(株)	164	徳島県徳島保健所
117	ショッピングセンター ピアカイフ	165	徳島県鉄鋼協同組合
118	ショッピングプラザ アピカ	166	徳島県南部総合県民局 保健福祉環境部 阿南庁舎 阿南保健所
119	ショッピングプラザ・アワーズ	167	徳島県南部総合県民局 阿南庁舎
120	(株)ジェイテクトシーリングテクノ	168	徳島県南部総合県民局 美波庁舎
121	(株)ジェイテクト 徳島工場	169	徳島県立城ノ内中等教育学校
122	新日本電工(株)徳島工場	170	徳島県立総合教育センター

No.	配車事業所等	No.	配車事業所等
171	徳島県立中央テクノスクール	218	東みよし町役場
172	徳島県立中央病院	219	パナソニックエナジー(株)徳島工場
173	徳島県立つるぎ高等学校	220	フィットネスクラブ DOWNTOWN阿南店(才見町青年同士の会)
174	徳島県立徳島科学技術高等学校	221	(株)フォステクノ四国
175	徳島県立徳島商業高等学校	222	(株)藤田計夫商店 トレンディプラザ北島 SS
176	徳島県立南部テクノスクール	223	(株)フジタ建設コンサルタント
177	徳島県立農林水産総合技術支援センター	224	(株)フジ フジグラン阿南
178	徳島県立脇町高等学校	225	(株)フジ フジグラン石井
179	徳島合同庁舎	226	(株)フジ フジグラン北島
180	徳島市交通局	227	富士ファニチア株式会社本社
181	徳島市中央卸売市場	228	フレスポ阿波池田
182	徳島市民病院	229	ホンダカーズ徳島 応神店
183	徳島市役所	230	松茂住宅公園 (住友林業(株))
184	徳島市立高等学校	231	松茂町役場
185	徳島信用金庫 本店営業部	232	(株)松本コンサルタント 本社
186	徳島赤十字ひのみね医療療育センター	233	(株)マルナカ スーパーセンター徳島店
187	徳島赤十字病院	234	(株)マルナカ パワーシティ鴨島店
188	徳島税務署	235	(株)マルナカ 脇町店
189	徳島大正銀行 本店	236	まるほ食品(株) 徳島工場
190	徳島第二地方合同庁舎	237	道の駅 いたの
191	(株)徳島ダイハツモータース	238	港産業(株)
192	徳島地方合同庁舎	239	美波町役場
193	徳島地方裁判所	240	美馬環境整備組合 クリーンセンター美馬
194	徳島トヨペット(株)	241	美馬市消防本部・美馬市消防署
195	徳島日産自動車(株)	242	美馬市地域交流センター ミライズ
196	徳島日野自動車(株)	243	美馬市役所
197	特別養護老人ホーム 健祥会モルダウ	244	牟岐町役場
198	特別養護老人ホーム 水明荘	245	山本光学(株)徳島工場
199	独立行政法人 徳島職業能力開発促進センター	246	(株)山本鉄工所 阿南工場
200	那賀町役場 相生庁舎	247	(株)ヨコタコーポレーション本社
201	那賀町役場 鷺敷庁舎	248	吉野川市役所
202	中本造林(株)	249	吉野川市役所 山川支所
203	鳴門・大塚スポーツパーク(徳島ヴォルティス)	250	四電エンジニアリング(株)徳島支店
204	鳴門市役所	251	(株)四電工 徳島支店
205	鳴門市役所 市民環境部 市民課 板東連絡所	252	(株)四電工 吉野川営業所
206	西精工(株)土成工場	253	(株)よんやく徳島
207	西精工(株)本社オフィス・工場	254	陸上自衛隊 徳島駐屯地
208	西日本高速道路(株)四国支社 徳島高速道路事務所	255	リコージャパン(株) 徳島支社 徳島事業所
209	西松建設(株)西日本支社 徳島営業所	256	(株)リブドゥコーポレーション 徳島貞光工場
210	日亜化学工業(株)辰巳工場	257	(株)リブドゥコーポレーション 徳島三野工場
211	日亜化学工業(株)鳴門工場	258	リンテック株式会社 小松島工場
212	日亜化学工業(株)本社	259	老人保健施設 健祥会シェンブルン
213	日清紡ホールディングス(株)徳島事業所	260	老人保健施設 健祥会ハート
214	日本ハムファクトリー(株)徳島工場	261	山菱電機(株)石井工場
215	日本フネン(株)阿波工場	262	(株)ワイ・ジー・ケー鳴門工場
216	日本フネン(株)本社	263	和田島漁業協同組合(みさき・日の出自治会)
217	農産物直売所 百姓一		

⑦ 献血推進キャンペーン

名 称	開 催 日	参加団体	実施場所
400mL 献血キャンペーン	3月11日 ～4月12日	第一生命保険株式会社 徳島営業支社	献血ルーム アミコ
学域献血キャンペーン	4月1日 ～5月31日	—	学内献血会場
「シャレン！で献血」	4月1日 ～12月31日	明治安田生命	献血ルーム アミコ
	5月12日	明治安田生命 徳島ヴォルティス 徳島県学生献血ボランティア	ポカリスエット スタジアム
カレーで元気もりもり！ 献血キャンペーン	5月3日～6日	—	献血ルーム アミコ
「BOXティッシュ」 プレゼントキャンペーン	5月18・19日	—	献血ルーム アミコ
はじめて献血応援 キャンペーン	6月1日 ～3月31日	—	献血ルーム アミコ
令和6年度献血推進方策	6月3日 ～4月30日	—	—
世界献血者デーキャンペーン	6月14日	—	献血ルーム アミコ
花ポットプレゼント キャンペーン	6月22日・23日 29日・30日 12月7日・8日 14日・15日	徳島県立みなと高等学園	献血ルーム アミコ
若年層複数回キャンペーン	7月1日 ～3月31日	—	献血ルーム アミコ 献血バス
愛の血液助け合い運動 月間キャンペーン (中四国学生統一献血 キャンペーン)	7月14日	徳島インディゴソックス 徳島県薬務課 徳島県学生献血ボランティア	ゆめタウン徳島
友達と献血チャレンジ！ キャンペーン	8月1日 ～3月31日	—	献血ルーム アミコ 献血バス
予約 Thanks！キャンペーン	8月1日 ～3月31日	—	献血ルーム アミコ 献血バス
献血2回目キャンペーン	8月7日 ～3月31日	—	献血ルーム アミコ
コミックマーケット 献血応援イベント	8月11日 ～9月30日 12月29日 ～1月31日	—	献血ルーム アミコ
献血奉仕協力強化月間	8月18日 ～9月30日 1月5日 ～2月16日	生命保険協会 徳島県協会	献血ルーム アミコ 献血バス
献血の日キャンペーン	8月21日	—	献血ルーム アミコ
徳島インディゴソックス 試合会場での献血 事前予約キャンペーン	8月24日	徳島インディゴソックス 徳島県薬務課	むつみスタジアム

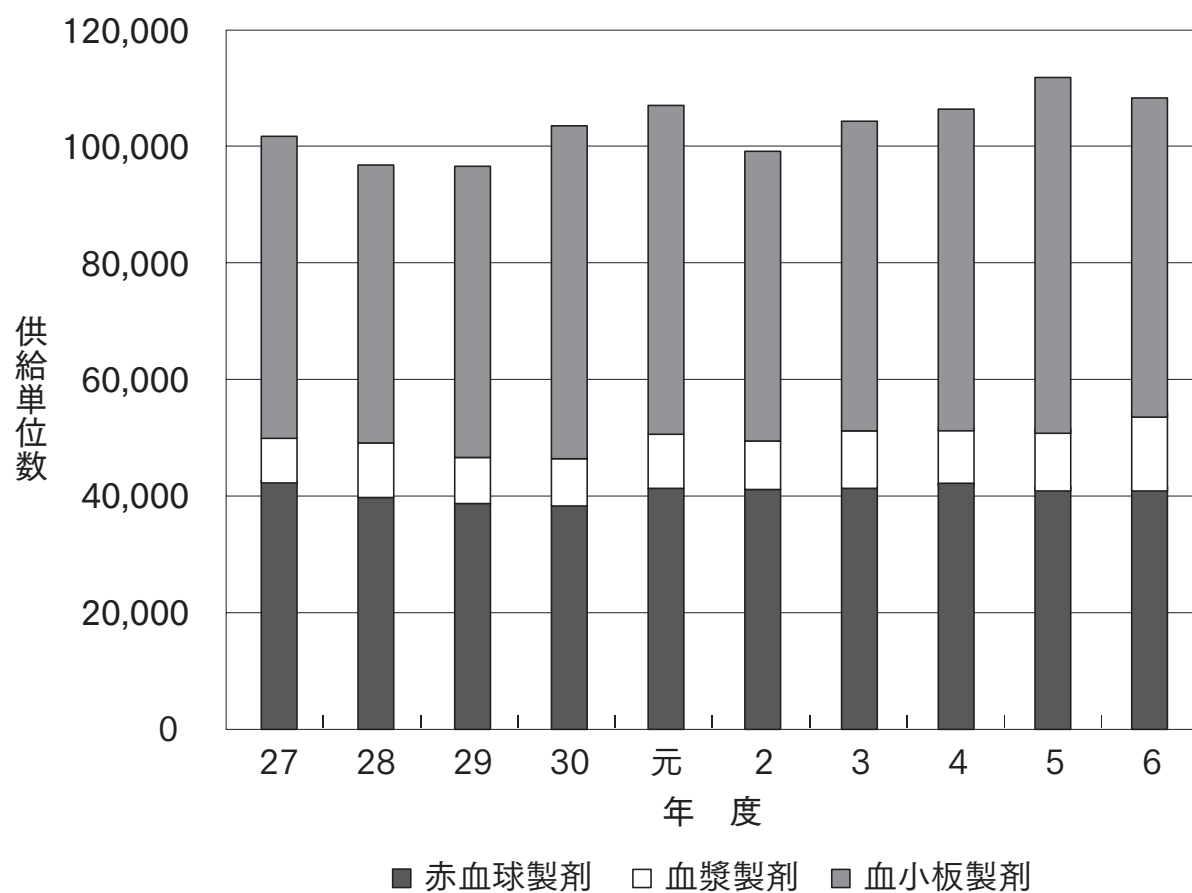
名 称	開 催 日	参加団体	実施場所
初回者必見！モバイル 予約でモバ充GET！ ～始めて「か血」あり～	9月1日 ～3月31日	—	献血ルーム アミコ 献血バス
献血応援キャンペーン	9月13日 2月25日・26日	日清医療食品株式会社	献血ルーム アミコ
平日の400mL献血キャンペーン	10月2日～11日	—	献血ルーム アミコ
けんけつちゃんお誕生日 キ ャ ン ペ ー ン	10月22日	—	献血ルーム アミコ
ハロウィンウィーク 平日限定献血キャンペーン	10月28日 ～11月1日	—	献血ルーム アミコ
献血もう1回キャンペーン	11月1日 ～3月31日	—	献血ルーム アミコ
徳島ヴォルティス 献 血 キ ャ ン ペ ー ン	11月3日	徳島県薬務課	ポカリスウェット スタジアム
平日の400mL献血キャンペーン	11月6日 ～11月28日	—	献血ルーム アミコ
Apex Legends (APEX LEGENDS) 献 血 協 力 キ ャ ン ペ ー ン	11月8日 ～2月11日	Electronic Arts	献血ルーム アミコ 献血バス
BrightJapanFC による 献血協力キャンペーン	11月15日 ～12月27日	BrightJapanFC	献血ルーム アミコ
全国学生クリスマス 献 血 キ ャ ン ペ ー ン 2024	12月5日	徳島県学生献血ボラン ティア	四国大学
	12月12日		徳島大学常三島キャンパス
	12月22日		ゆめタウン徳島
令和7年「はたちの献血」 キ ャ ン ペ ー ン	1月1日 ～2月28日	徳島県薬務課	献血ルーム アミコ 献血バス
	1月12日	徳島県学生献血ボラン ティア	ゆめタウン徳島
ミッションクリアで “3つもらえる” 献 血 キ ャ ン ペ ー ン	1月2日～31日	徳島県赤十字有功会	献血ルーム アミコ
アフラックバレンタイン 献 血 キ ャ ン ペ ー ン	2月1日～28日	アフラック生命保険 株式会社	献血ルーム アミコ 献血バス
献 血 の 普 及 ・ 啓 発 キ ャ ン ペ ー ン	2月6日	明治安田生命	献血ルーム アミコ
バレンタイン献血キャンペーン	2月8日～14日	—	献血ルーム アミコ
ぽかぽか献血キャンペーン	2月22日～24日	—	献血ルーム アミコ
Spring 献血キャンペーン	3月22日～31日	—	献血ルーム アミコ
ラクロス献血キャンペーン	3月24日～31日	徳島大学ラクロス部	献血ルーム アミコ
完全予約制！献血キャンペーン	月末日曜	県内各ライオンズクラブ	献血バス
献 血 キ ャ ン ペ ー ン	通年	県内各ライオンズクラブ	献血ルーム アミコ 献血バス

(2) 供給状況

① 血液製剤品目別供給状況

品名 献血由来別		供 給 本 数									前年度 200mL 換算 単位	対前年 度 比 (%)
		全血献血由来		成分献血由来					計	200mL 換算 単位		
赤血球製剤	照射赤血球液 － LR	35	20,405	－	－	－	－	－	20,440	40,845	40,774	100.2
	照 射 洗 浄 赤血球液－ LR	0	0	－	－	－	－	－	0	0	0	－
	照射合成血液 － LR	0	0	－	－	－	－	－	0	0	0	－
	照 射 解 凍 赤 血 球 液 － LR	0	0	－	－	－	－	－	0	0	0	－
	小 計	35	20,405	－	－	－	－	－	20,440	40,845	40,774	100.2
血漿製剤	新 鮮 凍 結 血漿－ LR	1	4,527	－	－	－	－	－	4,528	9,055	7,156	126.5
	新 鮮 凍 結 血漿－ LR 成分採血	－	－	905	－	－	－	－	905	3,620	2,708	133.7
	小 計	1	4,527	905	－	－	－	－	5,433	12,675	9,864	128.5
血小板製剤	照射濃厚 血小板－ LR	－	－	－	0	5,415	0	0	5,415	54,150	60,515	89.5
	照射洗浄 血小板－ LR	－	－	－	0	54	0	0	54	540	700	77.1
	小 計	－	－	－	0	5,469	0	0	5,469	54,690	61,215	89.3
合 計		36	24,932	905	0	5,469	0	0	31,342	108,210	111,853	96.7

② 年度別供給状況（200mL 換算）の推移



(単位)

年 度	赤血球製剤	血 漿 製 剤	血小板製剤	総供給単位数
平成 27	41,858	9,077	50,545	101,480
28	39,621	9,282	47,930	96,833
29	38,896	9,067	48,690	96,653
30	39,030	8,389	55,750	103,169
令和 元	41,302	9,091	56,830	107,223
2	41,008	8,492	49,725	99,225
3	41,848	9,700	52,600	104,148
4	42,018	8,980	55,465	106,463
5	40,774	9,864	61,215	111,853
6	40,845	12,675	54,690	108,210

※ 1 単位は血液200mL に由来する量

〈参考資料〉

